史跡 斎宮跡

平成12年度発掘調査概報

2002

斎宮歴史博物館

第130次調査

史跡斎宮跡

赤線は史跡範囲

第1図　平成12年度発掘調査位置図（1:10,000）

はじめに

平成８年度から開始した斎宮跡ロマン再生事業も、平成11年10月に「いつきのみや歴史体験館」が完成し、平成13年度に、1/10史跡全体模型が完成し、近鉄斎宮駅北側の「いつきのみや歴史体験館」を含む周辺一帯を「斎宮跡歴史ロマン広場」として整備することができました。昭和58年に「斎宮跡整備基本構想」が策定され、史跡内各地域の活用の方向が決まり、その中では近鉄斎宮駅北側が「遺構の活用・演出的整備ゾーン」として位置付けられ、それを具体化するため、検討を加えてきた成果が、ここに実りました。

1/10史跡全体模型の中では、現在の地形と調査で判明した史跡東部の方格地割を表現しています。その方格地割のうち、調査で内容の確認できる寮庫・神殿・内院の３区画と八脚門のある鈴池西区画に1/10建物模型を設置しました。

平成12年度の整備以前は、この建物模型を作成する上で、寮庫推定地の区画の建物配置が明らかとなっていませんでした。そのため、平成12年度の調査の第130次調査では、模型設置のための基礎資料を得るため、寮庫推定地の東側の建物配置を明らかにすることを目的としていました。この調査では当初の目的、寮庫の建物配置を把握することができ、その成果を、1/10建物模型の寮庫推定地の建物配置に活用することができました。

この度刊行させていただく本概報は、平成12年度に実施いたしました斎宮跡の計画調査成果の概要をまとめたものです。斎宮跡の発掘調査が開始され30年という節目の年に、これまでの膨大な調査成果の蓄積と相まって斎宮跡の実態解明にとって貴重な資料となるものと信じております。

斎宮跡の保存と調査研究・整備にあたりましては、文化庁をはじめ斎宮跡調査研究指導委員会の先生方の御指導や、地元明和町をはじめとする関係機関・各位の御協力の賜物と感謝申し上げます。

平成14年３月

斎宮歴史博物館
館長　桂川　哲

例　　言

1　本書は、斎宮歴史博物館が平成12年度に国庫補助金を受けて実施した史跡斎宮跡発掘調査の概要をまとめたものである。

2　明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は、別途明和町教育委員会が刊行している。

3　遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4　遺構の時期区分は、「斎宮の土師器（斎宮跡発掘調査報告Ⅰ　2001　）」による。

5　遺構表示記号は次のとおりである。
ＳＢ；建物　ＳＡ；柵列　ＳＥ；井戸　ＳＫ；土坑　ＳＤ；溝　ＳＦ；道路　ＳＸ；その他

6　方格地割における各区画の名称は第17図に示した。

7　特に表示が無い限り遺物実測図は実物の４分の１、遺物写真は約３分の１である。

8　用語は、「墓に関わる穴」には廣、「その他の穴」には坑を用いた。また、遺物については、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「椀」、「杯」等を用いた。

9　斎宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

千葉大学教授	北原理雄
聖心女子大学助教授	佐々木恵介
元奈良国立文化財研究所所長	鈴木嘉吉
聖徳学園岐阜大学教授	所　京子
三重大学名誉教授	八賀　晋
名古屋短期大学教授	上村　喜久子
奈良国立文化財研究所所長	町田　章
京都橘女子大学教授	狩野　久

10　現地での発掘調査及び本概報の編集・執筆は、斎宮歴史博物館調査研究グループの駒田利治、泉雄二、大川勝宏、西村美幸があたり、八木光代、山口香代がこれを補助した。また、遺物整理には西村秋子、杉原泰子の協力を得たほか、大西瞳（花園大学々生）の参加を得た。

目　　次

Ⅰ　調査の経過と概要 …… 1

Ⅱ　第130次調査 …… 3

発掘調査報告抄録 …… 40

表・挿図目次

〔表〕1　平成12年度発掘調査一覧 …… 2
2　第130次調査時期別遺構一覧表 …… 4
3　掘立柱建物一覧表 …… 28
4　遺物観察表 …… 29
5　斎宮跡発掘調査次数一覧表 …… 34

〔図〕1　平成12年度発掘調査位置図（1:10,000）……
2　第130次調査　調査区位置図（1:2,000） …… 3
3　〃　遺構実測図(1:200) …… 5
4　〃　SX8310遺物出土状況(1:20) …… 9
5　〃　遺物実測図（SK8294） …… 15
6　〃　遺物実測図（SK8294） …… 17
7　〃　遺物実測図（SK8299・SK8255） …… 18
8　〃　遺物実測図（SK8255） …… 19
9　〃　遺物実測図（SK8315・SD2340） …… 21
10　〃　遺物実測図（SK8295） …… 22
11　〃　遺物実測図（SK8308） …… 24
12　〃　遺物実測図（その他の遺物） …… 25
13　〃　Ⅰ－４期　周囲に溝を伴う建物（1:2,000） …… 26
14　〃　Ⅱ－１期　寮庫建物配置図（1:2,000） …… 26
15　〃　Ⅱ－１期　側溝と重複する建物配置図（1:2,000） …… 27
16　〃　斎宮跡地区表示 …… 38
17　〃　斎宮跡方格地割区画名称 …… 39

写　真　図　版

巻首図版　第130次調査　航空写真

ＰＬ１	上：SB8220（北から）	下：古墳SX5379（北から）
ＰＬ２	上：SB8230（東から）	下：SB5372（西から）
ＰＬ３	上：SB8227（東から）	下：SB2346・8253（東から）
ＰＬ４	上：SB8260（北から）	下：SB8265（東から）
ＰＬ５	上：SB8280（東から）	下：SB2350（東から）
ＰＬ６	上：南調査区全景（北から）	下：SB8300（東から）
ＰＬ７	上：区画溝SD2340（西から）	下：埋納遺構SX8310（東から）
ＰＬ８	遺物写真（SK8294）	
ＰＬ９	遺物写真（SK8299・8255・8315）	
ＰＬ10	遺物写真（SD2340・SK8295）	
ＰＬ11	遺物写真（SK8295・8308）	
ＰＬ12	遺物写真（SK8308・その他の遺物）	

Ⅰ　調査の経過と概要

経過

古里地区での宅地開発計画に伴い、昭和45年に始まる斎宮跡の発掘調査は文化庁の補助事業として、昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年３月27日に国の史跡に指定され、指定以降史跡解明の計画調査を継続して実施している。

これまでの発掘調査成果の蓄積から平安時代初期を中心に展開を想定している方格地割において、斎宮寮の中枢部の可能性が強い牛葉・鍛冶山地区における構造解明に重点をおいて調査を進めていたが、その最北端の寮庫推定区画についても、史跡整備を進める上で、早急に東側を解明する必要が生じた。

また、史跡指定以降、管理団体である明和町が文化庁及び県の補助を得て実施している史跡の買い上げの進捗と相まって、公有地の管理と史跡の活用が課題となり、平成５年度に『史跡斎宮跡整備基本構想検討調査報告書』刊行、平成８年３月に『史跡斎宮跡整備基本構想』策定を行なうとともに、平成７年度には文化庁の指導を得ながら『史跡斎宮跡「以降の活用・演出的整備ゾーン」整備基本計画』を確定した。

整備計画地は斎宮駅北側の方格地割北西隅部に想定される地区であり、『史跡斎宮跡整備基本構想』の「遺構の活用・演出的整備ゾーン」として、137.2haの広大な広がりをもつ斎宮跡の理解を体験的に深めるため1/10史跡全体模型を核とした体験学習を実施できる整備ゾーンとして位置づけた。平成12年度は、1/10史跡全体模型基盤整備工事を実施している。

第130次調査

内院地区と想定される鍛冶山西区画の最北端の西加座北区画において、東部地区の建物配置を解明するため、第130次調査を実施した。当該区画は東西中央に幅10mの南北小路が確認され、西部では第51次・第61次・第73次・第90次調査によって５×２間の東西棟建物が南北に４棟、東西に２列配置されていることが判明していた。また、東部でも西南部で第63次調査が実施され、ここでも５間×２間の東西棟建物が確認され、寮庫として推定される区画であった。整備事業の中で当該区画の１／10建物模型を設置する予定となっており、事前に当区画の建物配置を確認する必要が生じた。このため、計画調査は第130次調査を行っただけである。

調査の結果、東列の５×２間の東西棟建物が南北に４棟確認され、第63次調査でも東半部西南隅の建物が確認されていることから、西部と対称に東西棟建物が配置されていることが明らかとなった。

また、後出の東西棟建物が東側道路側溝と重複する位置でも確認されており、道路の存続時期の問題も含め、課題が残った。この他、柱穴内から出土した須恵器杯蓋の被せられた杯身が、内部に和同開珎が４枚確認でき鎮壇具として埋納されたことが判明した。遺物では、緑釉陶器の香炉蓋が出土し、「発掘された日本列島展」に出陳された。

第１回調査研究指導委員会

６月２日（金）に今年度第１回斎宮跡調査研究指導委員会を開催した。第130次調査の現地指導について指導・助言を得た。

また、1/10史跡全体模型基盤整備工事については、一部完成した「いつきのみや歴史体験館」南側植栽工事の現地を視察した。また、1/10建物模型については、外面表

現方法のうち、調査で確認したものとしないものの表現方法の違いを試作品で検討したほか、道路から見た模型設置高の検討や古墳・鎌倉大溝の現地表示の方法についての指導を受けた。

第２回調査研究指導委員会　第130次調査がほぼ終了した10月９日(月)に、調査成果について審議をいただいた。建物が当初の想定どおりの位置で倉庫群が検出されたことから、当概地区の1/10建物模型の配置について了解を得た。

1/10建物模型は、第１回目の指導委員会の指摘を受けて、屋根や壁の表現と色彩を変えて製作した建物模型の試作品をもとに審議をいただいき、屋根材の凹凸等をやや誇張して表現することとなった。

第３回調査研究指導委員会　1/10史跡全体模型基盤整備事業が本格的にスタートした平成13年３月５日（月）に、本年度第３回目の指導委員会議を開催した。1/10建物模型の素材や配置、設置高等について審議をいただき、設置する建物模型の最終表現の確認を行った。

現状変更調査　その他、史跡現状変更に伴い管理団体である地元明和町が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当している事前の緊急発掘調査は、本年度は10件を第131次調査として実施し、工事立ち会いを５件実施した。件数は多かったものの、小規模な調査が多く、顕著な遺構・遺物等は確認されなかった。

この中で、第131-5次調査は、駐車場予定地で、調査区の埋め戻し後の不動沈下に対する対応方法を試みた調査である。遺構検出面は0.8mと深いため、検出した柱穴・溝などの遺構掘削は必要最低限に止めてトレンチ等でその深さを確認した。埋め戻しについては土壌改良材を使い、強度を高め、不動沈下に対する資料とした。

（泉　雄二）

調査次数	地区名	面積（㎡）	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
130	6AFG	1,600	H13.5.8～11.15	西加座2692ほか	町・個人	計画調査	2
合計		1,600					

調査次数	地区名	面積（㎡）	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
131－１	6AA0	68	H12.4.7	竹川字祓戸741	個人	擁壁	4
131－２	6ACQ	7	H12.8.21	竹川字東裏282-1	町	水道管	4
131－３	6AEU	6	H12.7.5	斎宮字牛葉571	個人	住宅新築	3
131－４	6AFG-A	38	H12.8.28	斎宮字西加座2773-1	個人	事務所新築	4
131－５	6AGD-I	76	H12.9.21～9.22	東前沖2494-2	個人	住宅新築	3
131－６	6AFC-M	108	H12.9.19～9.21	東前沖2505-2	個人	盛土	3
131－７	6ACO-F	18	H12.9.26～9.27	斎宮字牛葉3397-2	個人	排水管埋設	4
131－８	6AER-J	50	H13.1.15～1.19	斎宮字御館2975-2他	個人	住宅新築	3
131－９	6AED-S	111	H13.1.16～1.23	斎宮字篠林3219-3	個人	住宅新築	3
131－10	6ACM	36	H13.1.11	斎宮字広頭地内	町	側溝改修	4
合計		512					

第１表　平成12年度　発掘調査一覧

第 130次 調 査

1 はじめに

史跡東部では、奈良時代後期に造営されたと考えられる一辺120mを基準とする方格地割が東西７列、南北４列確認され、東から３列目の区画は、東西幅が約130mで東西の中央に幅約10mの南北道路が存在することが判明している。この区画列の北から３番目の区画は斎王の居住した内院に、北端区画は寮庫に相当すると考えられている。

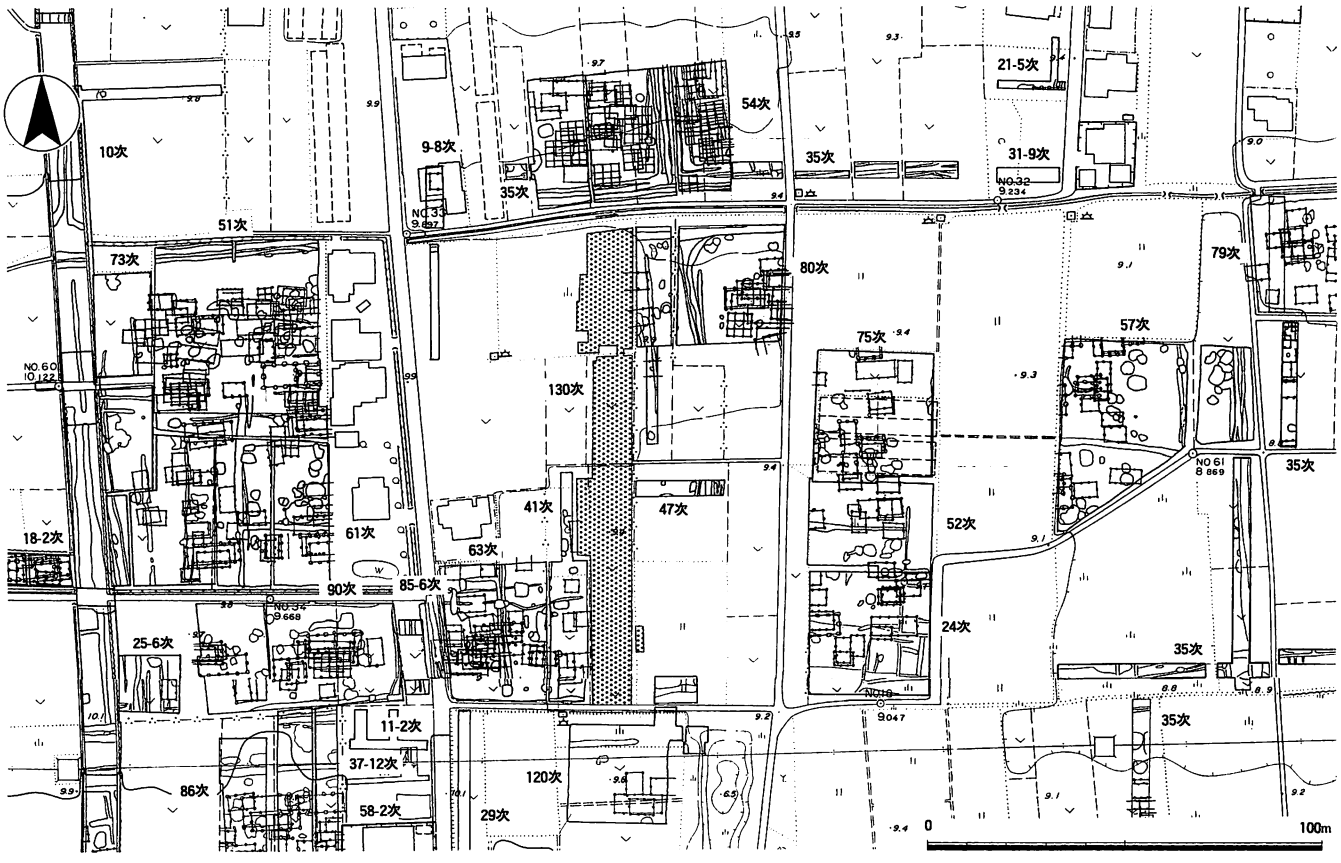
北端区画は、これまでの調査により、この南北道路を挟んだ西半区画内で、平安時代初期の５間×２間の東西棟が南北に４棟、東西に２列並ぶことが確認されている。また、東半の区画内でも、今回の調査区に西接する第63次調査で西側と対になるように５間×２間の東西棟が検出されており、東半区画内でも西半同様に東西棟が整然と並ぶ可能性が考えられていた。今回の調査は、この東半部の建物群の様相を明らかにすることを目的とし、斎宮字西加座2692・2693番地ほかで、平成12年５月８日から11月15日まで約1,600m^{2}の調査を行った。

2 遺 構

調査区の概況

調査区の現況は畑地及び荒れ地で、北は史跡内を東西に横断する前沖川に接し、北から南に向かって緩やかに傾斜する地形である。調査区は約120mの方格区画を南北に貫く細長い調査区である。なお、調査区は畑地等で大きく南北４地区にわかれるため、遺構の記述については北・中央北・中央南・南調査区として記述する。

調査区の基本的な層序は表土(耕作土)、にぶい暗褐色の壌土(包含層)、黄橙色～赤橙色粘質土(地山:遺構検出面)で、調査区南部では、地山面が白色粘土となっていた。



第２図 第130次調査 調査区位置図(1:10,000)

（１）古墳時代の遺構

SX5379　北調査区南側から中央調査区北側にかけて検出した幅0.7～1.3mの円形に巡る溝で、東接する第80次調査区西南部で検出した溝に続くものである。深さは、北側が深くて0.4m、南側で浅くなり0.1mとなる。第80次調査では、他の鎌倉時代の遺構と重複するため、鎌倉時代の溝としていたが、今回の調査では、重複する掘立柱建物などの遺構より古いことが確認でき、遺物はほとんどなかったが、円形に巡ることや埋土の様子から、古墳の周溝とした。内径は東西13.7m、南北12.5mである。

（２）斎宮跡第Ⅰ－４期（奈良時代後期）の遺構

掘立柱建物１棟、竪穴住居１棟と土抗10基、溝１条がある。古墳時代の遺構を除き、最も古い時期である。

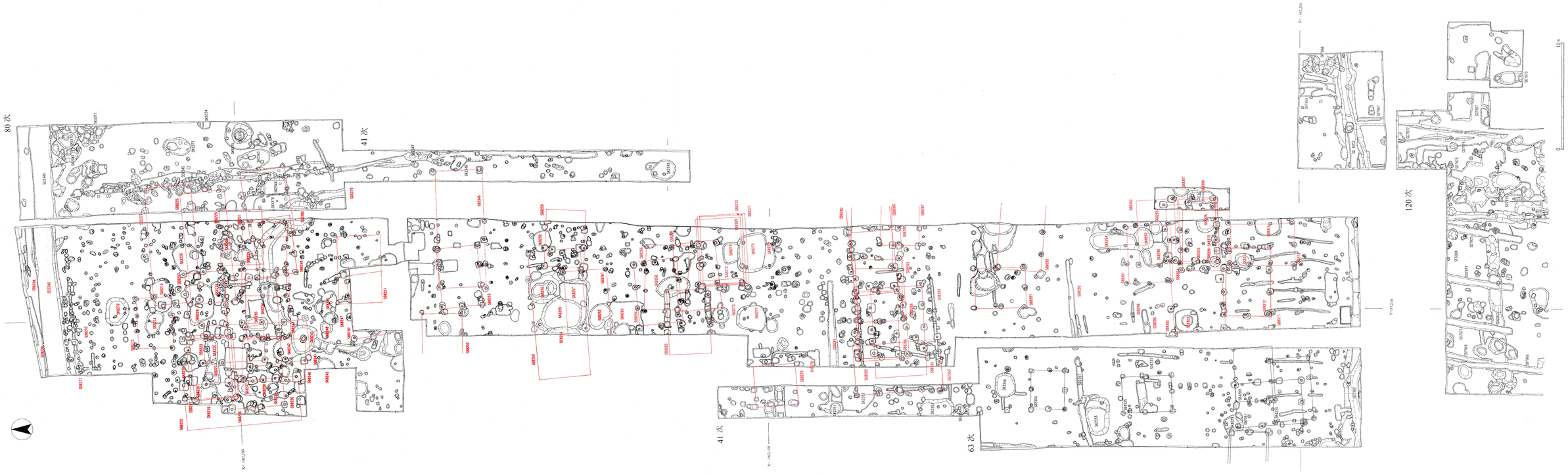
SB8285　中央調査区南側に位置し、南北２間、東西３間分以上を検出した。西側柱列は確認していないが、西側の第41次調査区では検出していないため、４間×２間になると考えられる東西棟建物である。北側と南側では柱列から１m外側に離れた位置でSD8282・8284、東側に1.5m離れた位置でSD8238、西側の第41次トレンチ調査区でも東側の壁際に同様の小溝が位置するため、建物の四周に隅の途切れた溝が巡ると考えられる。溝の規模は幅0.2～0.3m、深さは東西溝が0.3mであるのに対し南北溝は0.1mと浅い。また、重複する位置にある東西棟建物SB8280は、北側溝SD8282と重複しており、溝の方が古いことを確認した。

SH8278　中央調査区南側に位置する南北4.6m、東西1.5m以上、深さ0.1mの方形状の土坑で、四柱穴は未確認であるが、周溝が巡るため竪穴住居になると思われる。調査区から西側へ約２m離れた第41次調査のトレンチ調査では遺構が浅いためか検出していない。埋土は黒褐土で、土師器杯Ａ・皿Ａ・甕、須恵器杯Ａ等が整理箱で1/3箱出土した。

SK8219　北調査区東側に位置する南北2.1m、西側は調査区外に延びるため東西2.0m以上、深さ0.3mの土坑である。性格は不明だが、底面には数cm大の深さ0.05mほどの穴が無数開いている。南北棟建物SB8220より古い。埋土は黒色土で、遺物は土師器杯Ａ・杯Ｇ・皿Ａ・高杯・蓋・甑・甕、須恵器杯Ａ・甕などが整理箱で１箱出土した。

時　期	遺　構　の　種　別				
	ＳＢ	ＳＫ	ＳＤ	ＳＥ	ＳＸ
古墳時代					5379
第Ⅰ－４期（奈良後期）	8285・8278	8219・8221・8222・8228・8237・8238・8242・8243・8294・8296	2340・2360・8282～8284・8299		
第Ⅱ－１期（平安初期）	2346・5372・8220・8230・8260・8280・8300	8212・8224・8226・8236・8256	8293・8298・	8303	8310
第Ⅱ－２期（平安前Ⅰ期）	8259・8279・8265・8290	8215・8255・8257・8258・8263・8274・8275 ・8276・8277・8315・8316			
第Ⅱ－３期（平安前Ⅱ期）	2350・8216・8217・8218・8223・8227・8241・8250・8252・8253・8261・8264・8267・8270・8271・8272・8286・8287・8289・8305・8309・8311・8312	8239・8245・8262・8268・8273・8295・8297・8306・8307・8308・8313・8317	8211	5380	8210
第Ⅱ－４期（平安中期）	8240・8266・8292・8301・8304・8314	8246		8254	
第Ⅲ－１期（平安後期）	5378・8213・8225・8229・8231・8244・8249・8251・8302	8214・8232・8233・8248	8208		
鎌倉時代		8234・8235・8247	8209		

第２表 第130次調査 時期別一覧表



第 3 図　遺構実測図

SK8221・8222　SK8219の東側に位置する南北1.2m、東西約2.0m、深さ0.2mの、溝状に繋がる楕円形の土抗である。南北棟建物SB8220より古い。埋土は黒色土で、遺物は、土師器供膳具類・甕、須恵器杯・甕などがあり、SK8221からは整理箱で1/3箱、SK8222からは1/6箱と出土した遺物の量はあまり多くない。

SK8228　溝状に繋がる土抗SK8221・8222の東側３ｍに位置する南北1.0m、東西2.2m、深さ0.1mの長方形の土抗で、掘立柱建物やSK8224より古い。遺物はほとんど出土していないが、埋土の様子から西側の土抗群と同じ時期とした。

SK8237　北調査区西側に位置する南北1.4m以上、東西1.4m、深さ0.2mの楕円形の土坑で、掘立柱建物や土抗SK8238より古い。土師器供膳具類・甕、須恵器杯・皿・甕などが整理箱で１箱出土した。

SK8238　北調査区西側に位置する南北4.0m、東西2.7mの楕円形の土坑である。南北棟建物SB8220、東西棟建物SB8230と重複するために完掘はしていないが、0.2m以上の深さがある。黒色土の埋土で、土師器杯・甕などが整理箱で1/6箱出土した。

SK8242　北調査区東側に位置する南北2.0m以上、東西2.0mの楕円形の土坑で、SK8243より古い。東西棟建物SB8230と重複するため完掘はしていないが、0.2m以上の深さである。埋土は黒色土で、土師器供膳具類・甕・甑・竈、須恵器杯・杯蓋・甕などが整理箱で2/3箱出土した。

SK8243　北調査区東側に位置する径2.6mの円形の土坑で、SK8242より新しい。東西棟建物と重複するため完掘はしていないが、深さは0.5m以上ある。土師器供膳具類・甕、須恵器杯蓋・皿などが整理箱で2/3箱出土した。

SK8294　南調査区東部に位置する南北4.5m、東西1.5m、深さ0.4mの楕円形土坑で、SK8297より古い。埋土は地山粒混じりの黒色土で炭化物や遺物を比較的多く含み、土師器杯Ａ・杯Ｇ・皿Ａ・高杯・甕・竈、須恵器杯・蓋・高杯・甕などが整理箱で３箱出土した。

SK8296　SK8294の南に位置する直径1.6m、深さ0.3mの円形の土坑で、掘立柱建物やSK8297より古い。埋土は地山粒混じりの黒色土で、遺物は土師器杯Ａ・杯Ｇ・皿・高杯・甑・甕、須恵器杯Ｂ・皿・甕等が整理箱で２箱出土した。

SD2340　北調査区北端の東西方向の溝で、当区画の区画溝の位置にあたる。この位置では数本の溝が重複しており、このうち最も古い溝である。溝の南肩が当初の掘削状況を残し、時期が新しくなるにつれて北側に少しずつ位置をずらしている。このため北側の肩は掘り直されているため残りが悪いが、幅2.0m、深さは遺構検出面から0.8mで、底の平らな断面形が「U」字状になる溝である。当区画北端の区画側溝で、９世紀後半代に埋没している。土師器杯Ａ・皿Ａ・椀Ａ・甕、黒色土器Ａ類椀、須恵器杯・皿・鉢、灰釉陶器椀・皿、緑釉陶器椀・皿等が整理箱で５箱出土した。

SD2360　南調査区南端に位置する東西溝である。深さ0.3m、北肩のみを検出した。西接する第63次のSD2360、東側に約10m離れた第120次調査のSD6002につながる。出土した遺物が少なく、掘削時期がどこまで遡るかは明確ではないが、区画溝の位置にあたることから当概期とした。

（３）斎宮跡第Ⅱ－１期（平安時代初期）の遺構

掘立柱建物７棟と土抗５基、井戸１基、溝４条がある。建ち並ぶ東西棟建物４棟が出現する時期である。

SB8230・8260・8280・8300　SB8230・8260・8280・8300は、柱筋を揃えて約30m間隔に並ぶ５間×２間の東西棟建物で、いずれも柱間は2.4m等間で、柱掘形は一辺約0.6～0.8mの方形である。北側から、SB8230は南北棟SB8220より古い。SB8260は、土抗SK8256より新しく、SK8282より古い。SB8230は、東西棟建物の北側溝SD8282より新しい。南端にあるSB8300は、井戸SE8303、土抗SK8296より新しく、土抗SK8308より古い。

SB8220　北調査区西側ある５間×２間になると思われる南北棟で、東側柱列と南側の梁行柱中央の柱穴を検出した。SB8230の柱穴と重複し、かつ、土抗SK3238・3287より新しいことを確認した。柱掘形は、今回の調査で検出した中では最も大型で、一辺約1.2mの方形で、完掘していないが、深さは0.3m以上である。北端の柱位置は、東側に位置するSB5372の梁間中央柱と位置的に揃う。

SB5372　東接する第80次調査区内の西側では、東側柱列から２番目までの柱穴を検出していた。今回の調査で、その西側を検出して５間×２間の東西棟建物であることを確認した。第80次調査では、SB5372の東側柱列が当区画東道路の西側溝SD2345と重複する位置にあったが、西側溝はかって実施した第41次トレンチ調査区の位置にあるため、建物と溝の重複関係は不明であった。SD2345は奈良時代後期の遺構であることから、第80次調査の時点では平安時代前Ⅱ期（第Ⅱ－３期）の遺構としていたが、今回は第Ⅱ－１期（平安時代初期）とする。重複する第Ⅱ－２期の土抗SK8215より古く、第Ⅱ－１期の土抗SK8224・8226より新しい。柱掘形は、一辺約0.8mの方形で、一部柱穴が重複して検出されている箇所が見られることから、２棟重複している可能性もあるが、ここでは１棟としておく。

SB2346　中央調査区北東部に位置し、２間分を確認した。東側約6m離れた位置にある第41次調査区でも延長部分に柱穴が確認されているため５間×２間の東西棟建物と推定できる。柱掘形は一辺0.6m前後の方形である。西側柱妻柱は未確認であるが、東側妻柱も他の柱穴と比較しても小さいため、削平された可能性もある。

SK8212　北調査区北側に位置する南北2.2m、東西2.7m、深さ0.4mの楕円形の土抗である。土師器供膳具類・甕・甑、須恵器高杯・甕などが整理箱で1/2箱出土した。

SK8224　北調査区中央に位置し、東西3.8m、南北2.7m、深さ0.2mの土抗である。土抗SK8228より新しく、掘立柱建物SB8227より古い。遺物は少なく、土師器供膳具類・甕・甑、須恵器椀・鉢・甕などが整理箱で1/3箱出土した。

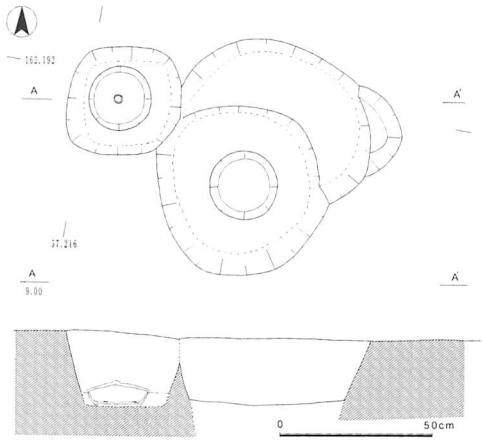
SK8226　SK8224の東に位置する東西2.8m、南北2.8m、深さ0.2mの円形土抗である。掘立柱建物SB8227より古い。土師器供膳具類・壺・甕・竈・甑、須恵器甕等が整理箱で2/3箱出土した。

SK8236　北調査区中央西端にある東西1m以上、南北2.4m、深さ0.2mの不定型な土抗である。掘立柱建物SB8230より古く、土師器供膳具類・甕が整理箱で１/6箱出土した。

SK8256　中央調査区西北部にある東西2.5m、南北3.0m、深さ0.4mの楕円形土抗で、SK8255・8257より古い。土師器供膳具類・甕、須恵器椀・甕などが整理箱で１箱出土した。

SE8303　南調査区西側に位置し、掘形は一辺2.2mの隅丸方形である。東西棟建物SB8300の柱穴と重複し、井戸の掘形の方が古いと判断したが、重複部分が少ないため断定はできない。井戸枠は径1.2mの円形で、東半分のみで遺構面から1.0mの深さまで掘り下げただけである。遺物は少なく、土師器杯Ａ、須恵器杯Ｂの破片が出土しただけである。

SX8310　南調査区中央にある埋納遺構で、掘立柱建物SB8309の南側桁柱ので東から２番目の柱掘形と重複し、柱掘形より古いことを確認した。径0.37m、深さ0.25mの隅丸方形の掘形に須恵器蓋のかぶせられた径20cmの須恵器杯Ｂが埋められていた。杯内部は密閉されていたため内部は空洞になって、薄く泥が堆積していた。杯内に置かれた貨幣４枚は泥がかぶっており、レントゲン写真の結果、和同開珎であることを判読した。



第４図　SX8310　遺物出土状況（1:20）

SD8281　中央調査区の中央から西側にある幅0.8m、深さ0.2mの東西溝で、長さ8mにわたり検出した。西側の第41次トレンチ調査区では溝の続きを確認していない。遺物は、土師器杯・甕の小片が少量出土した。

SD8293・8298・8299　南調査区西側では東西方向の溝を３本確認した。SD8293は幅0.5m、深さ0.1mで西側の第63次調査区の蛇行しながら走るSD2357がその続きにあたる。SD8299は幅0.6m、深さ約0.2m、北側のSD8298も浅いため途中で途切れてしまう。SD8293から土師器杯Ａ・杯Ｃ・甕が少量、SD8298からは土師器杯皿類・甕が少量、SD8299からは土師器杯Ａ・杯Ｂ・皿Ａ・椀Ｂ・甕Ａ、須恵器長頸壺・甕が整理箱で２箱出土した。

（３）斎宮跡第Ⅱ－２期（平安時代前Ⅰ期）の遺構

掘立柱建物４棟、土坑11基がある。掘立柱建物は、Ⅱ－３期とした建物も一部入ってくるかと考えられるが、判別が困難であるため、当該期には入れていない。

SB8279　中央調査区西側で検出した第41次調査から延びる３間×２間になると思われる南北棟建物である。東側柱列では両端が径0.5mの方形の掘形で、中央の２柱穴は連結された布掘建物である。連結された柱穴は幅0.5m、長さ1.5mの掘形に両端に柱穴が一段深く掘削される。梁行中央柱は第41次調査区との間で検出はしていない。

SB8265　中央調査区西側で検出した布掘りの柱掘形を持つ建物である。北側柱列では幅0.5m、長さ3.6mにわたる溝状の掘形で、柱痕跡などは不明である。南側柱列も北側と同規模の布掘りで柱掘形は明確ではないが、２柱穴をつなげて掘削した柱掘形と考えられる。東側妻柱は径0.4mとやや小形である。西側壁際でも柱穴あるいは同様の溝掘りが認められるため、同規模の布掘りの掘形なら３間が想定できる。

SB8259　中央調査区東側に位置する南北２間、東西２間以上の東西棟である。柱掘形は、径0.6mの隅丸方形である。SB8260より新しく、SB8261より古い。

SB8290　中央調査区東側に位置する南北２間、東西２間以上の東西棟である。柱掘形は、径0.5mの隅丸方形である。SB8286・8289より古い。

SK8215　北調査区中央北側に位置する東西3.3m、南北1.9m、深さ0.1mの楕円形の土抗で、掘立柱建物SB5372より新しく、掘立柱建物SB8213、土抗SK8214より古い。土師器供膳具類・甕、須恵器甕など整理箱で1/6箱出土した。

SK8255　中央調査区西側にある東西3.0m、南北3.8m、深さ0.5mの楕円形の土抗で、西側のSE8254より古く、東側のSK8257より新しい。土師器杯Ａ・皿Ａ・椀Ａ・高杯・甕・甑、黒色土器Ａ類杯・椀、須恵器杯・蓋・鉢、ミニチュア土器、製塩土器片などが整理箱

で９箱出土した。

SK8257　SK8255の東側に位置する東西約4m、南北2.8m、深さ0.4mの楕円形の土抗で、SK8256→8257→8255の順である。底面上部に焼土が残る。土師器供膳具類・甕、須恵器杯Ｂ・蓋・甕などが整理箱で1/6箱分出土した。

SK8258　中央調査区東側に位置する南北1.5m、東西2.0m、深さ0.2mの楕円形の土抗である。掘立柱建物SB8259より新しい。土師器杯Ａ・杯Ｂ・皿Ａ・椀Ａ・壺・甕・甑・竈、須恵器杯・蓋・甕が整理箱で１箱出土した。

SK8263　中央調査区西側に位置する南北3.2m、東西3.0m以上、深さ0.05mの方形の土抗で、北側にあるSK8262より古い。土師器杯Ａ・皿Ａ・椀Ａ・鉢・甕・鍋Ｂ、須恵器杯・蓋・甕・壺、黒色土器片、製塩土器片等が整理箱で２箱出土した。

SK8274　中央調査区東側に位置する東西2.0m、南北1.5m以上、深さ0.1mの楕円形の土抗で、SK8275より新しい。土師器杯・甕の破片が少量出土した。

SK8275　中央調査区東側にある東西3.7m、南北2.7m、深さ0.4mの楕円形土抗で、SK8274より古い。土師器杯皿類・蓋・高杯・壺・甕・甑、須恵器杯など整理箱で２箱出土した。

SK8276　中央調査区東側に位置する東西2.5m、南北1m以上、深さ0.1mの楕円形の土抗で、SK8275より古い。土師器供膳具類・甕、須恵器杯・蓋など整理箱で1/6箱分出土した。

SK8277　中央調査区西側にある東西2.3m、南北2.9m、深さ0.2mの長方形の土抗で、土師器供膳具類・甕・竈、黒色土器Ａ類杯・椀、須恵器杯・蓋・甕などが整理箱で１箱出土した。

SK8315　南調査区南東部にある南北2.5m、深さ0.5mで、東側は調査区外に延びる土抗である。土師器杯皿類・高杯・鉢・甕・甑・竈、黒色土器椀、須恵器杯・蓋、灰釉陶器蓋、緑釉陶器椀、製塩土器、土錘のほか、ミニチュアの土師器壺Ｅ・甑、灰釉陶器蓋や墨書土器などが整理箱で４箱出土した。

SK8316　南調査区南に位置する東西2.7m、南北1.2m、深さ0.1mの長方形の土抗である。土師器供膳具類などが整理箱で1/4箱出土した。

（４）斎宮跡第Ⅱ－３期（平安時代前Ⅱ期）の遺構

掘立柱建物23棟、土坑12基、井戸１基がある。

SB2350　中央調査区西南部に位置し、南北３間分を確認した。さらに西側にある第41次トレンチ調査区でも確認されており４間×２間の南北棟である。柱掘形は一辺0.6mの方形で、掘立柱建物SB8285より新しい。

SB8216・8217　北調査区西側に位置する３間×２間の東西棟である。北側柱列では柱掘形は、少なくとも３棟重複し、同じ場所で建て替えられた東西棟と推定できる。しかし、南側柱列は対応するものが確定できなかったが、ここでは２棟として報告しておく。柱掘形は、大きなもので一辺0.6mの隅丸方形で、小さなものは径0.3mの円形である。

SB8223　北調査区西側に位置する３間×２間の南北棟である。柱掘形は、一辺0.6mの隅丸方形で、SK8224・8226より新しい。

SB8227　北調査区中央に位置する３間×２間の東西棟である。柱掘形は、一辺0.6mの隅丸方形である。SK8224・8226より新しい。

SB8241　北調査区南西部にある３間×２間の南北棟である。柱掘形は、一辺0.6mの隅丸方形である。SK8224・8226より新しくSB8223・8240より古い。

SB8250　北調査区南側に位置し、北側柱列と西南隅は攪乱によって壊されているが、３間×

２間の東西棟と考えられる。柱掘形は、径0.6m前後の隅丸方形である。

SB8252・8253　中央調査区北側に位置する。SB8252は、２間×２間以上の東西棟で、柱間は1.9m等間、柱掘形は径0.6mの円形である。SB8253は、３間×２間の東西棟で、柱間は1.8m等間、柱掘形は径0.4mの円形である。SB8253はSB2346より新しい。

SB8261　中央調査区に位置する南北２間、東西２間以上の東西棟である。柱掘形は、径0.9～0.6mの円形で、SK8255・8257より古い。

SB8264・8267　いずれも中央調査区に位置する３間×２間の東西棟である。SB8264の柱掘形は、径0.4mの円形で、重複するSB8265より新しい。SB8267の柱掘形は、径0.4mの隅丸方形で、SK8273より新しい。

SB8270～8272　中央調査区北東部に位置し、南北２間、東西２間以上の規模で、３棟が重複する。３棟の柱穴を完全に分離することが困難で、柱穴の重複状態から３棟と判断した。柱掘形は、一辺0.4～0.8mの隅丸方形である。

SB8286・8287 8289　SB8286は、中央調査区南にある３間×２間の東西棟である。柱間は、2.1m等間、柱掘形は径0.6mの円形で、SB8280・8285より新しい。SB8287は、SB8286の東側にある南北２間、東西１間以上の東西棟である。また、SB8289は、SB8287の南側にある２間以上×２間の東西棟である。柱掘形は、径0.5mの隅丸方形で、SB8290より新しい。

SB8305・8309　南調査区に位置する重複する３間×２間の東西棟である。柱掘形は、SB8305が一辺0.4m前後の隅丸方形、SB8309が一辺0.6m前後の方形で、重複関係は、SB8305がSB8309より古い。

SB8311・8312　南調査区に位置し、ほぼ同位置で建て替えられた３間×２間の東西棟である。柱掘形は、一辺0.4～0.6mの隅丸方形で、柱間は2.1m等間である。重複関係は、SB8311がSB8312より古く、いずれもSB8300より新しい。

SK8239　北調査区西側にある径約1.5m、深さ0.05mの土抗である。第Ⅰ－４期のSK8238と重複しており、浅いために輪郭が不明確であった。土師器供膳具類・甕の小片とともに緑釉陶器椀が１点出土した。

SK8245　北調査区西側に位置する南北1.6m、東西１m以上、深さ0.2m、西半部が調査区外に延びる円形土抗である。埋土は黒色土で、土師器供膳具類・甕、須恵器甕、灰釉陶器皿などが整理箱で1/6箱出土した。

SK8262　中央調査区西側に位置する長さ2.6m、幅1.7m、深さ0.2mの楕円形の土抗で、SK8263より新しい。土師器供膳具類・甕、須恵器杯・甕が整理箱で1/3箱出土した。

SK8268　中央調査区東側に位置する南北3.2m、東西1.8m、深さ0.4mの土抗である。SB8265より新しい。土師器供膳具類・高杯・鉢・甕、灰釉陶器段皿・耳皿・壺、緑釉陶器椀、製塩土器片等が整理箱で５箱出土した。

SK8273　中央調査区に位置する径1.5mほどの円形の土抗で、SB8267より新しい。土師器供膳具類・甕、須恵器杯・皿・甕、緑釉陶器片、製塩土器片が整理箱で1/6箱出土した。

SK8295　南調査区に位置する径1.2m、深さ0.3mの円形土抗で、土師器杯Ａ・皿・蓋・杯Ｂ・椀Ａ・高杯・鉢Ｂ・甕Ａ・甕Ｃ・甑・竈片、黒色土器椀、須恵器杯Ａ・杯Ｂ・蓋・壺・甕、灰釉陶器椀などが整理箱で６箱出土した。

SK8297　SK8295の西側に位置する東西2.0m、南北1.8m、深さ0.3mの楕円形の土抗で、SK8294より新しい。土師器供膳具類・蓋・高杯・甕・甑・竈片・ミニチュア土器、須

恵器台付杯・蓋・壺、炭化材などが整理箱で１箱出土した。混入した遺物が多いが、当概期の遺物が少量認められる。

SK8306　南調査区東部にあり、南北1.8m、深さ0.2mで東側が拡張区との間に収まっており、ほぼ円形になると思われる土抗である。土師器供膳具類・甕・竈、須恵器椀・鉢、灰釉陶器椀、土錘などが整理箱で1/2箱出土している。

SK8307　南調査区の東側拡張区に位置する南北1.5m、東西0.8m以上、深さ0.1mの円形土抗で、土師器供膳具類・甕、須恵器杯蓋、灰釉陶器段皿などが整理箱で1/3箱出土した。

SK8308　SK8307の南側に位置する南北2.4m、東西1.0m、深さ0.3mの土抗で、掘立柱建物SB8300・8305・8309より新しい。土師器杯Ａ・杯Ｂ・皿Ａ・椀Ａ・蓋・高杯・鉢Ｂ・甕Ａ・甕Ｃ・甑・竈片、黒色土器片、須恵器杯・杯Ｂ・蓋・壺・甕、灰釉陶器瓶、製塩土器片などが整理箱で７箱出土した。

SK8313　南調査区南に位置する南北2.5m、深さ0.5mの規模で、東側は調査区外に延びる土抗である。土師器供膳具類・甕・椀、黒色土器椀、須恵器杯・蓋・甕、灰釉陶器椀、製塩土器、土錘などが整理箱で1/3箱出土した。

SK8317　南調査区南東部に位置する南北1.0m、深さ0.4mで、東側は調査区外に延びる土抗である。土師器供膳具類・甕が整理箱で1/6箱出土した。

SD8211・SX8210　調査区北端の区画溝SD2340の南側0.6mに位置する幅0.2～0.3m、深さ0.1mの小さな溝SD8211の中央で、柱穴を約2.1mの間隔で２ヶ所検出した。柱穴の掘形は0.5mの方形で、橋状の遺構かあるいは門などの施設があった可能性も考えられる。

SE5380　北調査区東側にある東接する第80次調査から続く井戸で、井戸掘形は径約2.5mの円形である。1mしか掘り下げていない。土師器供膳具類・甕・甑、須恵器杯、灰釉陶器椀、製塩土器片などが整理箱で2/3箱出土した。なお、第80次調査では、約2.2mまで掘り下げ、平安時代前期の土師器杯Ａ・皿Ａ・椀Ａ・甕、灰釉陶器椀・段皿・長頸瓶などが出土している。

（５）斎宮跡第Ⅱ－４期の遺構（平安時代中期）

掘立柱建物６棟、土坑1基、井戸１基がある。

SB8240　北調査区南西部にある３間×２間の南北棟である。柱掘形は、一辺0.6mの隅丸方形で、SB8230・8241より新しい。

SB8266　中央調査区に位置する３間×２間の東西棟である。柱掘形は、径0.3mの円形と小形である。SB8265より新しい。

SB8292　南調査区北側で調査区東側に延びる２間以上×２間の東西棟で、柱掘形は、径0.5mの円形である。北東部は攪乱によって壊されているため、検出していない。

SB8301・8304　南調査区東側にある３間×２間の東西棟である。SB8301は、SB8300より新しく、柱掘形は、径0.4mの隅丸方形である。SB8304は、柱掘形が径0.5mの隅丸方形である。

SB8314　南調査区東側に位置する３間×２間の南北棟で、SK8313より新しい。柱掘形は、径0.5mの円形である。

SK8246　北調査区南側のSX5379の内側にある長さ１～1.5m、深さ0.2mの不整形な土抗で、土師器椀・杯・皿・台付皿・甕、黒色土器、灰釉陶器椀などが整理箱で2/3箱出土した。

SE8254　中央調査区西端部に位置する南北3.5m、西側が調査区外に延びる円形の井戸で、SK8255より新しい。東西幅が0.6mと狭いため、深さは0.8mまで下げただけである。

土師器杯・皿・椀・高杯・蓋・甕、黒色土器Ａ類椀、須恵器甕、灰釉陶器椀、緑釉陶器椀片が整理箱で１箱出土した。

（５）斎宮跡第Ⅲ－１期の遺構（平安時代後Ⅰ期）

掘立柱建物９棟、土坑４基、溝１条がある。この時期の遺構は、主に中央調査区から北側で検出した。

SB5378・8225　いずれも北調査区東側から第80次調査区に位置する。SB5378は、３間×２間の東西棟で、柱間は1.6m等間、柱掘形は径0.3mの円形と小形である。SB8225は、５間×２間の東西棟で、柱間は1.6m等間、柱掘形は径0.3mの円形と小形である。

SB8213　北調査区北側に位置する３間×２間の東西棟である。柱間は1.6m等間で、柱掘形は径0.3mの円形である。

SB8229・8231 8244・8249　北調査区中央にある３間×２間の東西棟である。いずれも柱掘形は径0.3mの円形である。

SB8251　北調査区南側に位置する３間×２間の東西棟である。柱間は2.1m等間で、柱掘形は径0.3mの円形である。

SB8302　南調査区東側に位置する３間×２間の東西棟である。柱掘形は一辺0.4m前後の隅丸方形である。掘立柱建物SB8305・8309より新しい。

SK8214　北調査区中央北側にある長さ2.2m、幅1.3m、深さ0.2mの不定型な土抗で、SK8215より新しい。土師器杯・小皿・甕、ロクロ土師器皿、緑釉陶器椀、灰釉陶器壺などが整理箱で1/2箱出土した。

SK8232　北調査区東側に位置する南北0.8m、東西1.0m、深さ0.2mの楕円形の土抗である。土師器杯・小皿・甕、灰釉陶器椀が整理箱で1/3箱出土した。

SK8233　北調査区東側に位置する南北1.4m、東西1.0m、深さ0.3mの楕円形の土抗である。土師器杯・皿・甕、ロクロ土師器、灰釉陶器椀、土錘が整理箱で1/3箱出土した。

SK8248　北調査区南側、周溝の内側にある長さ１～1.5m、深さ0.2mの不整形な土抗で、土師器杯・小皿・甕、灰釉陶器椀・壺などが整理箱1/6箱出土した。

SD8208　SD2340が埋没した後掘り直された溝で、SD8309より古く、調査区北端部でわずかに検出したものである。深さは地表面から約１ｍと区画溝SD2340より約0.2m浅いが、幅は不明である。

（６）鎌倉時代の遺構

土坑３基、溝１条と少なく、主に北調査区で検出した。

SK8234　北調査区中央に位置する東西3.4ｍ、南北2.5ｍ、深さ0.1ｍの不定型な土抗で、SK8235より新しい。土師器小皿・甕などが少量出土した。

SK8235　北調査区中央に位置する長さ2.0m、幅1.2m、深さ0.3mの長方形の土抗で、掘立柱建物より新しい。土師器小皿・甕、ロクロ土師器皿、山茶椀が整理箱で1/2箱出土した。

SK8247　北調査区南側にある長さ１～1.5m、深さ0.2mの不定形な土抗で、土師器杯・皿・甕、山茶椀などが整理箱で約1/2箱出土した。

SD8209　SD2340・8208が埋没した後に掘り直された溝で、深さはSD2340より浅い。調査区の西壁断面で見ると、深さ0.5m、幅1.5m以上で北側に延び２ｍ近い規模になると考えら

れる。平安時代後期から末期の土師器や、山茶椀などが出土した。

3　遺　物

出土した遺物は、整理箱で総計約 340箱である。奈良時代から平安時代前半の９世紀を中心とするものが多く、以下、この時期の主要な一括資料について概述する。

（１）奈良時代後期（Ⅰ－４期）の遺物

SK8294　土師器杯Ａ・杯Ｂ・杯Ｇ・皿Ａ・高杯・蓋・鉢・甕Ａ・甕Ｃ・鍋Ｂ・コシキ、須恵器皿Ｂ・蓋が整理箱で３箱出土した。

土師器杯Ａ　扁平な底部に口縁部が内弯しながら外上方に延びる口縁を持つもので、口径17～18cm、器高３～４cm前後のもの（１～５）と口径が20cm、器高4.5cm前後の比較的大きなもの（６～10）がある。前者は器高が低く、内面に放射状暗文と螺旋状暗文、底部外面をヘラケズリされるもの（１）もある。後者も底部外面にヘラケズリを施し、内面に放射＋螺旋状暗文が施されているもの（９）も見られ、残りがよくないが（６～10）は内面に暗文が施されていたことが推定される。杯Ｂ（14～16）は、口径19cm前後で外面にヘラケズリの後ヘラミガキが施されており、残りが良くないものの内面に放射状と螺旋状暗文が残るもの（15）がある。

杯Ｇ　（11～13）は、これまでつくりの雑な「田舎風椀」と称していたもので、口縁部のみを横ナデし、底部内外面はナデと指オサエで造られる。古墳時代から在地で系譜の引ける土器ということで杯Ｇとした。（13）の底部外面にはヘラ記号「ニ」が施される。

皿Ａ　（17～26）は口縁部が緩やかに内弯しながら短く立ち上がるもの（以下、この形態のものをａタイプという。）で、奈良時代を通じて見られる形態である。口径は大半が19～21cmに収まり、（26）が口径23cmと若干大きい。器高はおおむね2.5cm前後である。底部外面ヘラケズリされているものが多く、（23）だけがナデとオサエのｅ手法である。全体に器面の残りが悪く、内面の暗文については不明である。

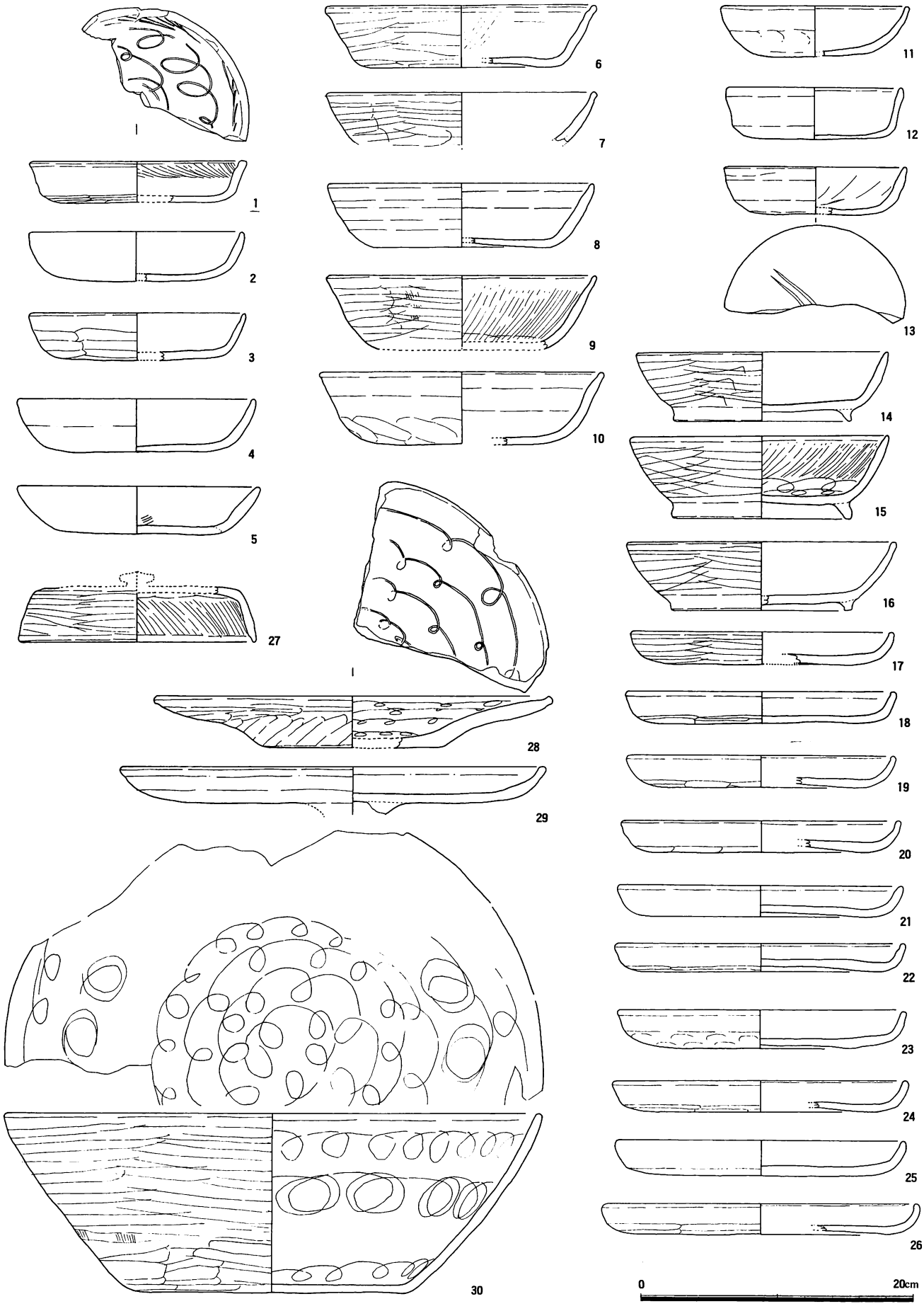
高杯　（29）は口径31.6cmで、脚部は欠損する。杯部外面は、ヘラケズリのあとヘラミガキが施される。内面は残りが悪く調整不明である。

鉢　（30）は、口径39.9cm、器高13.4cmの口縁部が直線的に外上方に延びる大形の鉢である。口縁部外面には横方向のヘラミガキが施される。口縁部内面には螺旋状暗文が３条巡り、このうち２条目は螺旋が二重に施される。底部外面はヘラケズリで内面にも螺旋状暗文が４条施される。（28）は口径29.0cm、扁平な底部から直線的に横上方に延びる口縁部を持つもので、器高が3.8cmと低く、類例は少ない。内面に螺旋状暗文、口縁部外面にヘラミガキを施す。

蓋　（29）は、口径17.4cmで、口縁部と天井部の境が明瞭に残るため、蓋と考えたものである。天井部外面はヘラケズリのあとヘラミガキ、内面には螺旋状暗文が一部残る。口縁部は、外面を横方向のヘラミガキ、内面には放射状暗文が施される。

甕類　甕は体部の丸いもの（甕Ａ）、長胴甕（甕Ｃ）がよく見られる器形で、このほか、口縁部と体部の境が明瞭ではなく、丸い器形の甕（44）や把手の付く鍋Ｂがある。

甕Ａ　大きさにより、口径11cm前後の小形品（36）、14cm前後の中形品（37・38）、18cm前後の大形品（39・40）に分けられる。口縁部は横ナデで、体部内面上半部はナデか縦ハケで下半部内面にヘラケズリ、体部外面は縦ハケを施すものが基本であるが、小形のものは体部外面の縦ハケが一部省略されている。



第５図　遺物実測図　SK8294（１～30）

甕C　(45～47) は口径24cm後で、体部内面上半の調整は板ナデか横ハケで、外面は縦ハケを施す。全体の調整のわかるものは少ないが (46) の体部内面下半にはヘラケズリが施される。

その他の甕　(44) は、甕Aの横に延びる口縁部が省略される形で、体部の上端を横ナデを行って口縁部としたものである。口縁部と体部の境に穴が穿たれた痕跡が1ヶ所残存しており、2ヶを一単位とする孔が2対あったものと考えられる。出土例は少ない。

鍋B　(42) は口径36cm前後で、甕Aと比較して口径に対して器高の低いもので、二対の把手が付く。(43) も把手は不明であるが、(42) 同様の器形である。

コシキ　(35) は底部径8cmで、下端面がヘラケズリされる。その大きさから実用的なものではなくミニチュアとして造られたと思われる。

須恵器　杯蓋や甕の小片等があるが、出土量は少ない。杯蓋 (33・34) は傘型の天井部をもつ。小片であるが壺Gの体部片が1片ある。

SD8299　土師器杯は、いずれも底部外面にヘラケズリを施すもので、口縁部外面はヘラミガキが施され、(48) が口径16.6cm、器高3.2cm、(49) は口径20cm、器高4.8cmと大きく内面に放射状暗文と螺旋状暗文が施される。(54) は脚の付く杯Bと思われるもので、内面に螺旋状暗文が残る。土師器皿Aは、口縁部が緩やかに内弯しながら短く立ち上がるもので、口径18.4cmのもの (50･51) と21～22cmのやや大形のもの (52・53) があり、後者のうち (53) には内面に二重の螺旋を一単位とする螺旋状暗文が幾条にも描かれている。甕Aには中形 (57)、大形の甕 (56・58) のものがある。甕Cには (59) がある。須恵器の出土個体数は少なく、長頸壺と考えられる (55) がある。

(2) 第Ⅱ－2段階の遺物

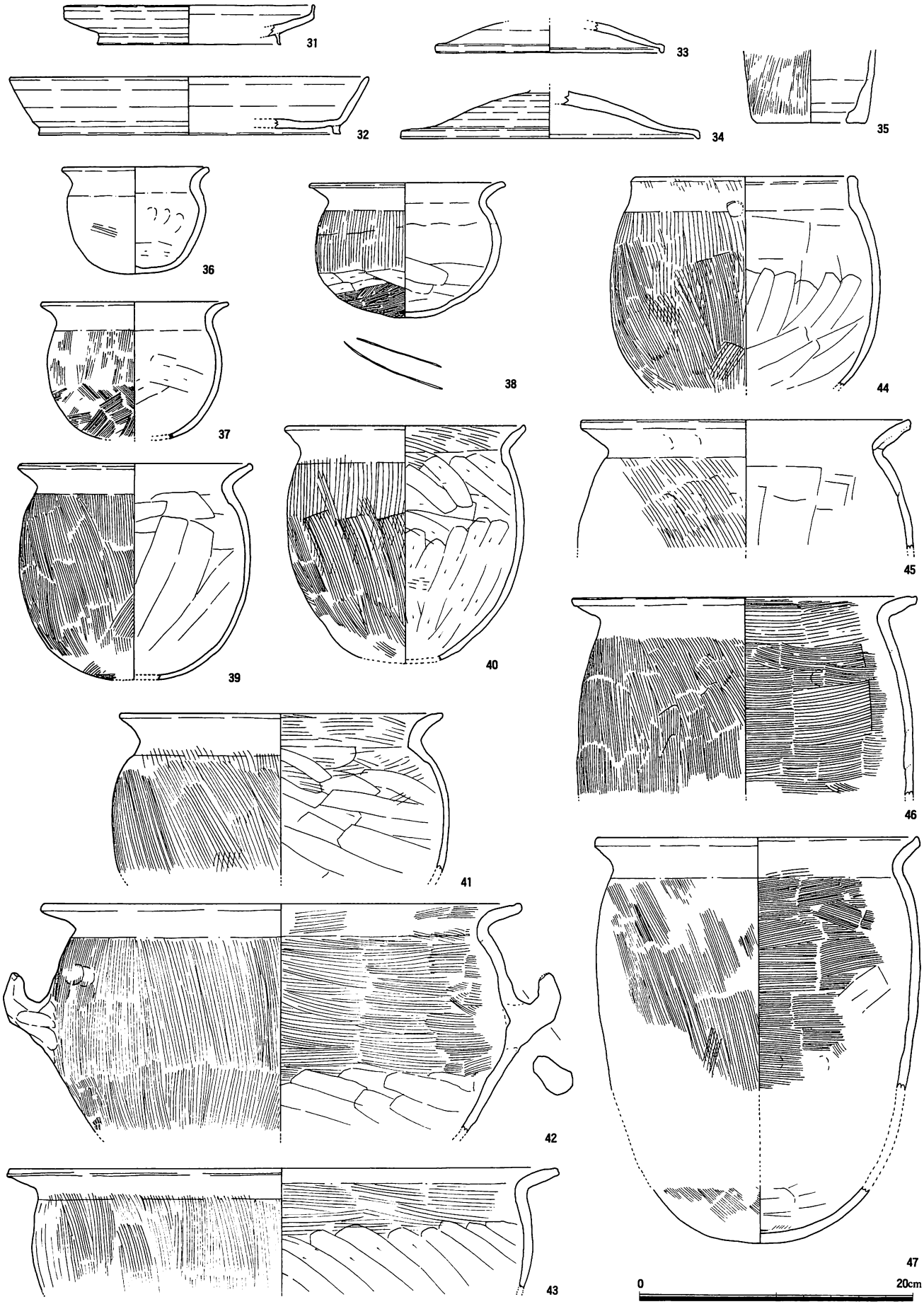
SK8255　土師器杯A・杯G・皿A・椀A・高杯・甕A・甕B・甕C・甑、黒色土器A類杯・椀、須恵器杯・蓋・鉢、ミニチュア土器、製塩土器片などが整理箱で9箱出土した。

土師器　土師器供膳形態では杯A (60～73) ・杯G (78～80・82～84) ・椀A (74～77・81・85～95)・皿A (96～113) がある

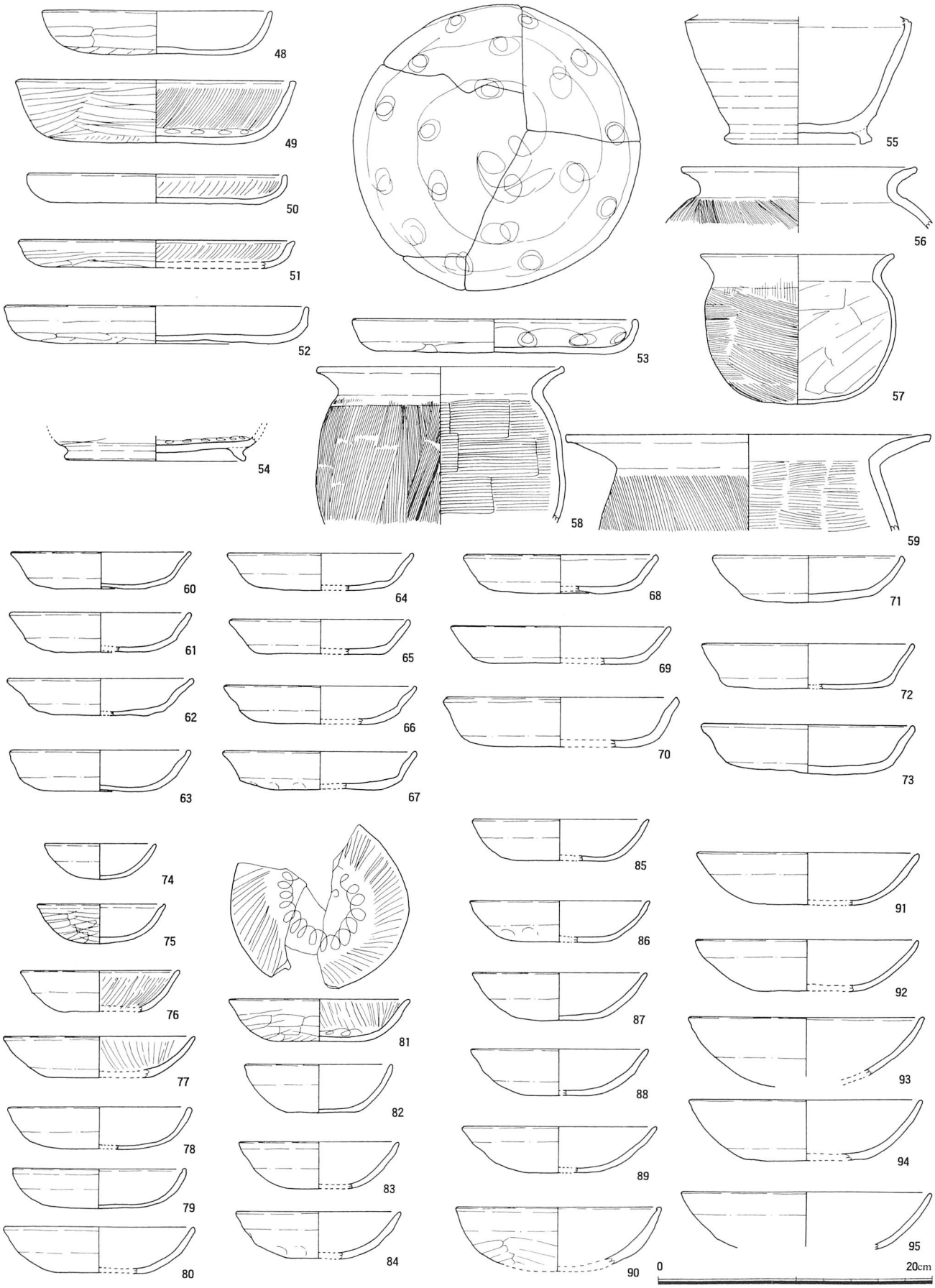
杯A　SK8299の (49) のような内弯しながら立ち上がる口縁部を持つaタイプのものはなく、外半する口縁部を持つbタイプのものが中心となる。器壁はbタイプのものがaタイプより薄くなる。内面に暗文が施されるものはほとんどなくなっている。口径13～14cmのもの (60～68) と16cm前後のもの (69～73) に別れるが、厳密ではなく、あるいは若干の時期差があるのかもしれない。

杯G　田舎風椀と呼んでいたものはこれまで奈良時代を通じてみられる器形で、平安時代には消滅したと考えられていたが、9世紀後半まで残ることが近年確認された。(78～80) は口径14cm前後の杯Gと考えられるものである。また、(82～84) は口径11～12cmで椀Aと比較しても作りが悪く、(78) 等と比較しても口径に対して器高が若干深いが、杯Gの範疇と考えた。

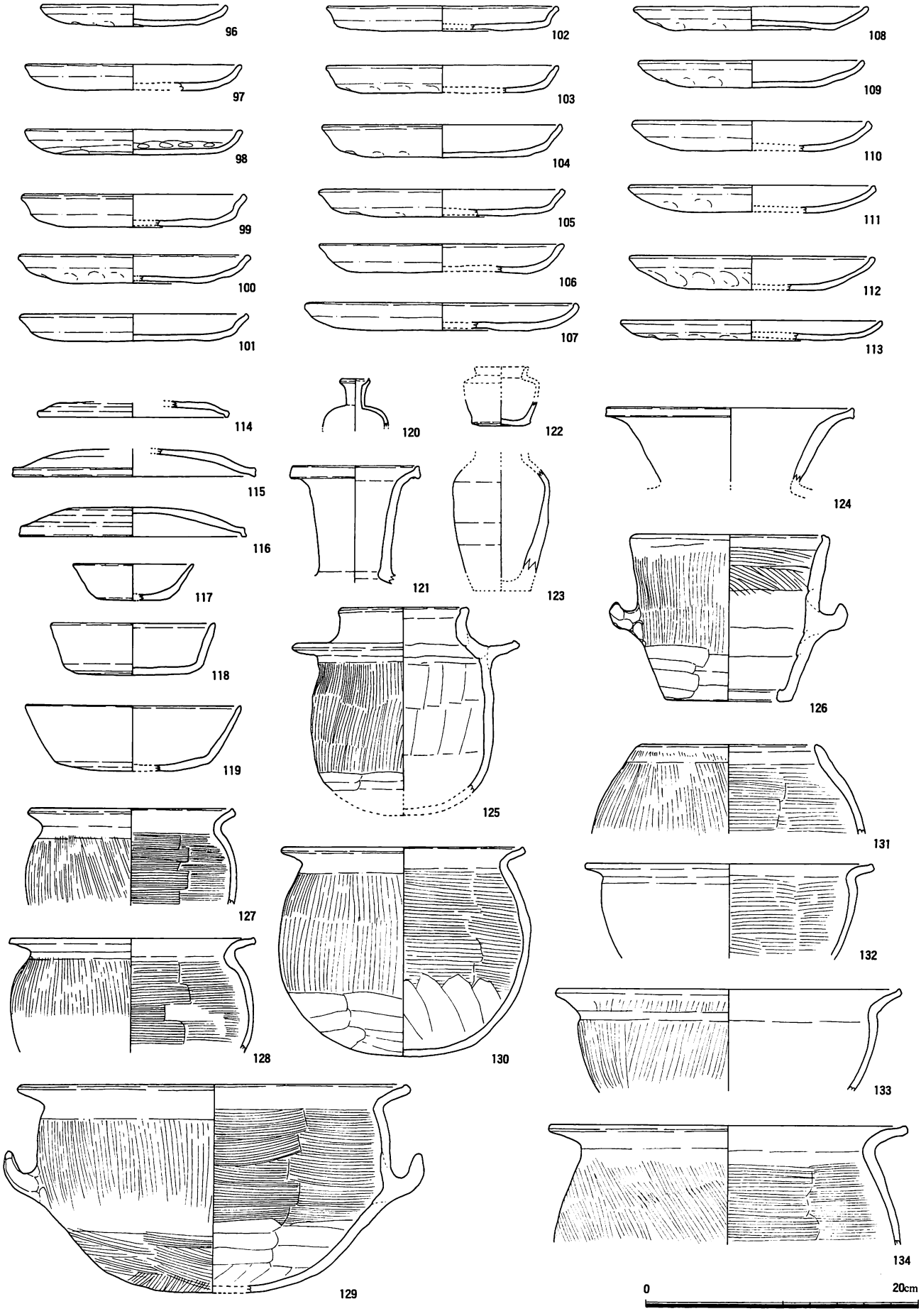
椀A　これまでの概報では杯Bと称していたもので、丸い底部に内弯する口縁部を持つものである。口径17cm前後の大形品 (91～95)、14cm前後の中形品 (77・81・85～89) の他、小形品 (74～76) は8cmから11.5cmとばらつきがある。ヘラミガキや暗文の残るものは中・小形のものが多い。口縁端部は内傾する面をもつものが多く、(90) は器壁が厚く底部ヘラケズリするもので形態は椀Aに近いが異なる器形である。



第６図　遺物実測図　SK8294（31～47）



第７図　遺物実測図　SD8299（48～59）、SK8255（60～95）



第８図　遺物実測図　SK8255（96～134）

皿類　皿Ａは口縁の形態が杯Ａと類似する外反しながら立ち上がる口縁部をもつものと、内弯する口縁部を持ち、口縁部と底部の境が明瞭ではなく丸味を持つものがある。これまではａ形式、ｂ形式と呼ばれており、ａタイプは奈良時代の系譜を引く形態、ｂタイプは平安時代の新しい形態と位置づけられ、平安時代の初めの９世紀前半には両者が混在することが言われきた。ここでも皿Ａのａタイプ・ｂタイプと呼称する。

ａタイプの皿は、口径16.0～18.0cmの大形ものが多く（97～106）底部外面へラケズリされるもの（98）があるが、大半はナデとオサエのｅ手法である。ｂタイプは、口径13.5cmの小形品（96）、口径17cm前後の中形品（108～111）19.2cm・19.8cmのもの（107・113）も見られる。

甕類　体部の丸い甕Ａ（127・128・130）は中形のもので、調整は前代と変化はないが、外面の縦ハケが粗くなる傾向である。長胴甕とみられる甕Ｃ（134）、把手の付く鍋Ｂ（129）は出土量が少なくなる。（44）のような明瞭な口縁部のないもの（131）や、口縁部と体部の境に顎のつくもの（125）は出土例の少ないものである。

甕Ａは、口径18cm前後の大形（130）と、およそ15cmの中形（127・128）に分けられる。調整方法は、前代とあまり変化ない。

甕Ｃ（134）は、口縁部ヨコナデ調整で端部が肥厚し、外面粗いタテハケ、内面横方向を中心としたハケ調整が施される。

鉢　（132・133）は、口縁部が横に延び、底部の平らな鉢である。土師器の杯類と同じ精良な胎土で造られ、赤褐色を呈する。外面は縦ハケ、内面は横方向を中心としたハケ調整が施される。鍋に近い形態であるが、精良な胎土であるため、鉢とする。

ミニチュア　（126）は、口径13.8cmの小形のコシキである。内面は粘土紐接合痕を残して上半部粗いハケ調整を施し、左右一対の把手が付く。外面も粗いハケ調整の後に下半部にへラケズリを行なう。

須恵器他　須恵器には、杯（117～119）、蓋（114～116）、壺Ｇ（123）、長頸壺（120）があり、灰釉陶器には、長頸壺（121）、短頸壺（122）がある。このうち（120）と（122）は小形のミニチュアである。

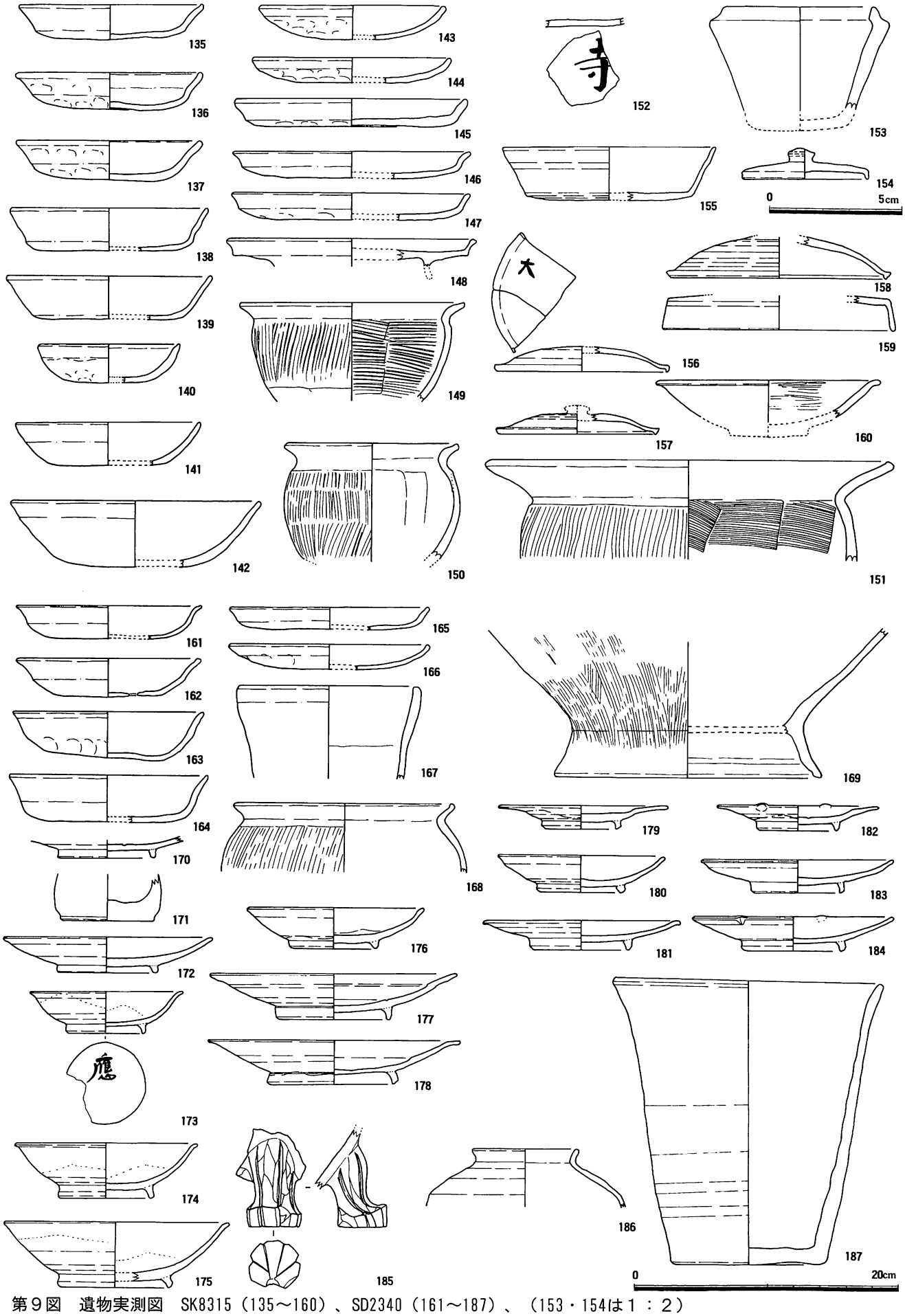
SK8315 土師器　土師器杯Ａは、口径14cm前後のもの（135～137）と16cm前後のもの（138・139）があり、前者は口縁部が外反する特徴をもつのに対して、後者は直線的の延びる口縁を持つ。椀Ａ（142）などもあるが、杯Ａの後者のものとあまり変化がなくなっている。（152）は器種は不明だが底部外面に「寺」の墨書が残る。皿はａタイプのもの（145～147）が中心であるが、ｂタイプのもの（143・144）がある。（140）は杯Ｇである。

鉢（149）は口縁部が横上方に延び、底部は欠損するが平底と考えられる鉢である。体部下半はへラケズリを施す。また、（153）は口縁部が短く立ち上がり、体部の最大経が6.8cmと小さいミニチュアの壷Ｅである。

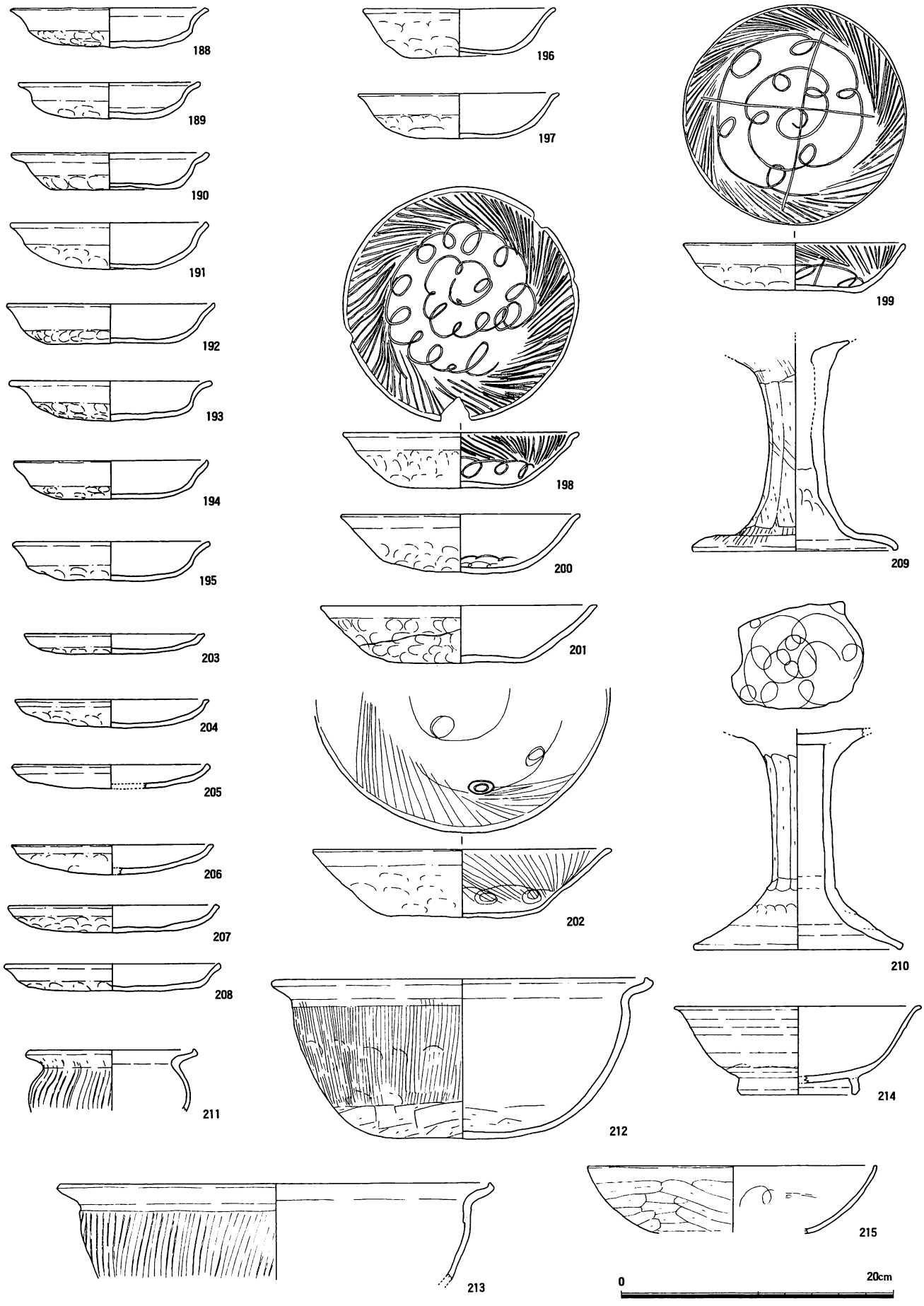
甕Ａ（150）と、甕Ｃ（151）あり、いずれも体部外面をタテハケ調整を施す。

須恵器　杯（155）と杯蓋（156～158）のうち、杯蓋（156）の外面には「大」の墨書が残る。

灰釉陶器　個体数は少ないが、（159）は口縁部が短く立ち上がる短頸壺の蓋で、外面に灰釉が施されるものである。（154）は口径4.8cmのミニチュアの蓋で、平たい天井部に丸い突起状のつまみが付き、口縁部がわずかに折り曲げられるものである。



第９図　遺物実測図　SK8315（135～160）、SD2340（161～187）、（153・154は１：２）



第10図　遺物実測図　SK8295（188～215）

緑釉陶器　椀（160）は口径15cm前後のもので、内面には横方向にヘラミガキが施される。須恵質で釉薬は非常に薄くかかっており、京都の小塩窯のものと思われる。

（３）第Ⅱ－３期の遺物

SD2340　区画溝が埋没した段階の資料で、底から約0.4mほど土砂が堆積した後に比較的多くの遺物が溝の南側に堆積していた。溝埋土上層には平安時代中期の資料も混在するが、下層で主体となるのは第Ⅱ－３期の遺物である。

土師器　杯Ａ（161～164）のうち、（161・162）は口径14cm弱、器高は３cm程で、口縁部は屈曲するものである。（163・164）は、器壁が厚くて、口縁部が屈曲しないもので、口径15cm、器高は深いもので3.8cmある。このうち（162）は底部が穿孔されている。皿Ａにはａタイプのもの（165）、ｂタイプのもの（166）がある。

粗製鉢　（169）は口縁部を欠くが口径30cmほどになる大形の鉢で、胎土の悪い雑なつくりのものである。高い脚をもち、外面は縦ハケが施される。

甕Ａ（168）や甑（167）があるが、細片が多く図示はしていない。

緑釉陶器　皿（170・172）、唾壺（171）　がある。いずれも猿投窯跡の製品と考えられる。

須恵器　（185）は獣脚で（186）のような短頸壷につくものと考えられ、胎土は灰褐色を呈し、焼成はやや軟調である。（187）は口径に対して器高の深い鉢である。

灰釉陶器　椀（173～175）、段皿（177～179・182）、稜皿（176）、皿（180・181・183・184）がある。これらはいずれも漬け掛けで、高台部の断面の形状が三日月形から台形に近い形まで幅があり、東海の生産地の編年で黒笹90号窯式から折戸53号窯式期までの幅がある。このうち（173）の底部外面には「応」の墨書が残る。

SK8295 土師器　杯Ａ（188～195）は口径15cm前後で、外反する口縁部を持ち、器壁は薄い。底部外面はすべてｅ手法である。

杯Ａ

椀Ａ　口径15cm前後の小形品（196・197）と17cm前後の中形品（198～200）と20cm以上の大形品（201・202）がある。中形品のものには、口縁部内面に放射状暗文と底部内面に螺旋状暗文が施され、特に（199）には底部内面の螺旋状暗文の後に「＋」にヘラミガキが施される。大形品のうち（202）にも放射状暗文と螺旋状暗文が残り、残りが悪いため底部内面に全面施されているか不明だが、二重の螺旋状暗文が施されている。

皿Ａ　ａタイプ（208）とｂタイプ（203～207）があり、口径14～16cmと中形で、底部外面はｅ手法である。

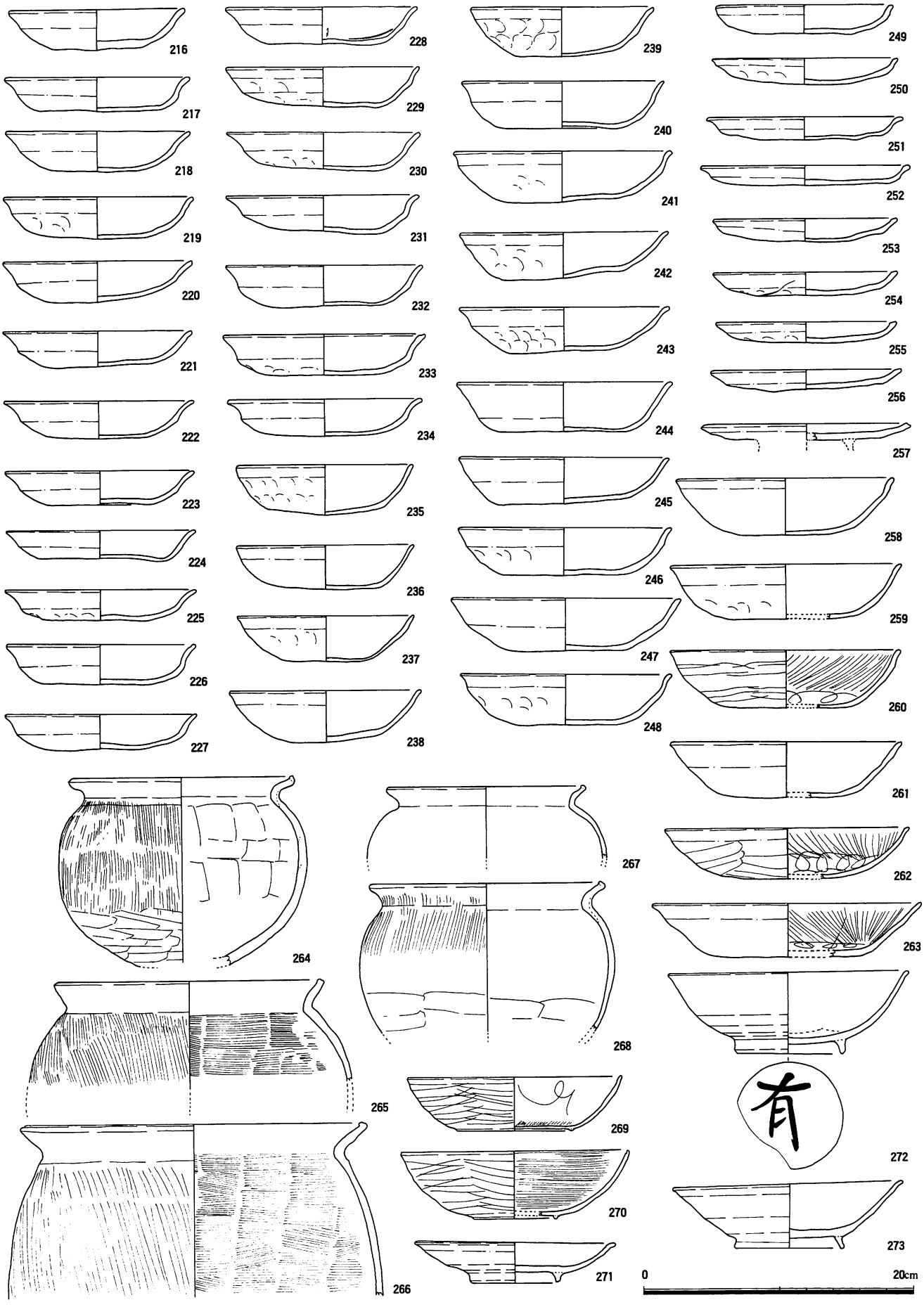
高杯　（209・210）は、長い筒状の脚部をもつもので、脚の底径は15cmほどである。脚柱部が縦方向のヘラケズリで面取りされており、（210）の杯部内面には螺旋状暗文が残る。

甕　甕の出土は少なく、体部の丸い小形の甕Ａ（211）がある。体部外面上半には部分的に縦方向の粗いハケが施される。

鍋Ａ　（212・213）は、横方向に延びる口縁に、やや丸底気味の底部を持つ鍋Ａである。（212）底部内外面には横方向のヘラケズリが施される。

黒色土器　（215）は、底部を欠損するが、内面のみ黒色化した黒色土器Ａ類の椀である。外面には横方向のヘラケズリの後にヘラミガキ、内面にもヘラミガキの後に一部しか残っていないが、螺旋状暗文を施している。

灰釉陶器　椀（214）は、口径18.2cm、器高6.5cmの三日月状の高台を持つもので、黒笹90号窯期に比定できる。



第11図　遺物実測図　SK8308（216～273）

SK8308　完形の遺物が多く、土師器の杯・皿類が重なったような状況で多く出土している。黒色土器、灰釉陶器などはわずかである。

土師器杯　杯Ａ（217～234）は、口径13.6～14.4cmで、SK8295のものより若干小形化する。

椀　椀Ａは、口径13.0～14.2cm、器高3.5cm程度の小形品（235～239）と15cm以上の中形品には、器高約3.5cm前後のもの（240～248）と器高４cm以上のもの（258～263）がある。器高の深いものの中には、口縁部内面に放射状暗文と底部内面に螺旋状暗文が施すもの（260・261・263）もあるが、内面に暗文を施すものは減少する。また、底部外面ヘラ切り、整形をロクロで行うロクロ土師器の椀（216）も１個体出土した。

皿　ａタイプ（249～252）とｂタイプ（253～256）があるが、14～16cmと中形品のものでだけである。ｂタイプに高台の付く皿Ｂ（257）も数が少ないが見られる。

甕類　中形の甕Ａ（264・267・268）は、口縁端部は丸く肥厚し、体部外面上半には部分的に縦方向の粗いハケが施され、外面下半はヘラケズリを施される。甕Ｃ（265・266）も数が少ないが見られる。

黒色土器　（269・270）は、内面黒色化のＡ類の椀である。断面三角形の小さな高台が付く。外面は横方向のヘラケズリの後にヘラミガキを施し、内面にもヘラミガキを施している。このうち（269）には螺旋状暗文が口縁部内面に施されている。

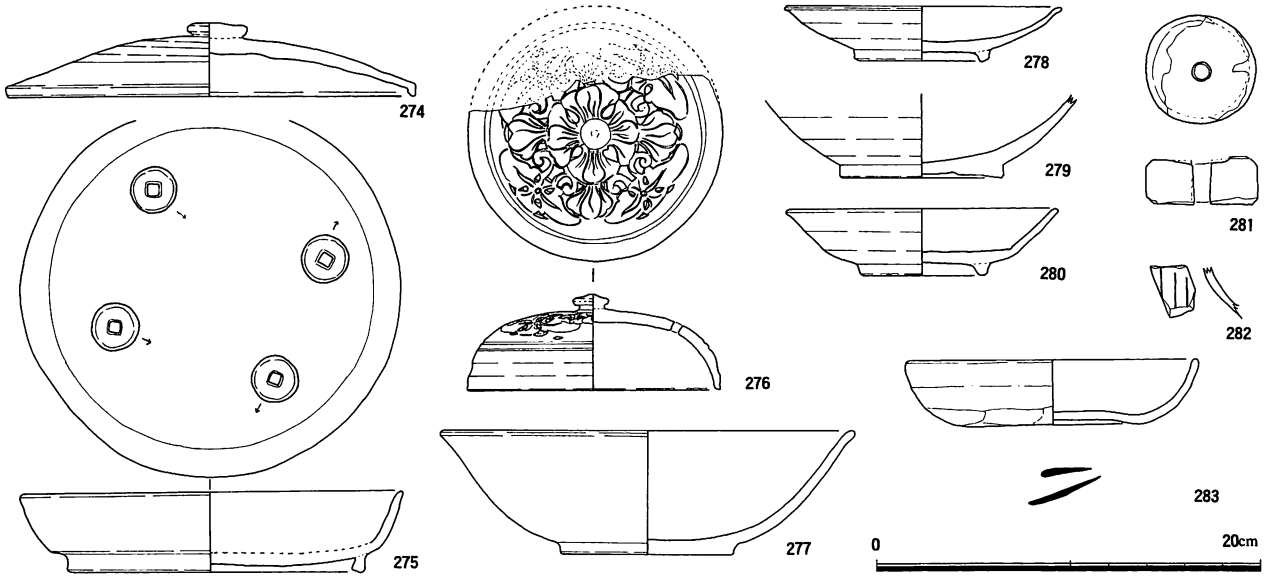
灰釉陶器　椀（272・273）は、灰釉が漬け掛けされるもので、このうち（272）には、底部外面に墨書「有」が残る。皿（271）も漬け掛けされるものである。

（４）その他の遺物

その他の遺物としては、円面硯２点、土錘62点、フイゴの羽口２点、製塩土器は整理箱で３箱、貿易陶磁器が約10点ある。また、緑釉陶器は60点と区画内の他の調査と比較的しても少ない。

鎮壇具　須恵器杯蓋（274）がかぶせられた杯身（275）内から和同開珎が４点出土した。レントゲン写真の結果、和同開珎はすべて裏側に置かれていた。貨幣の文字の上下は、図示した矢印の方向のように４枚の和同開珎は左側２点は上を中に向け、右側２点は外側に向かって置いてあることが判明した。

円面硯　脚部の破片が２点ある。（282）はヘラによる刻みで透かしを表現し、図示はしていないが他の１点は透かしをヘラで穿ったものである。



第12図　遺物実測図　その他の遺物　（281は１：２）

緑釉陶器　遺構から出土したものが多い。椀・皿類が大半で、その他の器形としてはSD2340から出土した唾壺（199）や包含層出土の香炉蓋（276）がある。香炉の蓋は口径13cmで、９世紀後半のSK8295を検出中に出土したもので、出土状況は不明だが同一遺構の可能性の高い遺物である。（276・278）は猿投窯の製品で 明緑色の釉が全面に掛かる。また、（277・279）は京都産の椀で高台は削り出しである。

香炉蓋

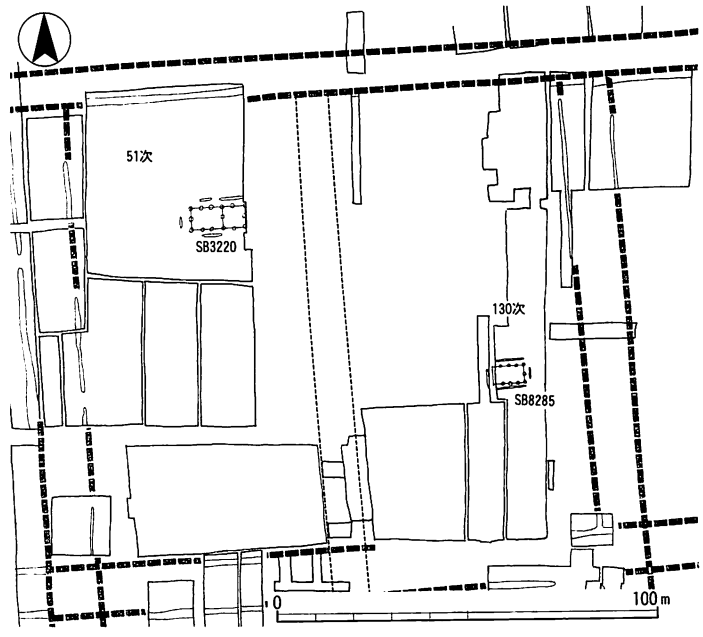
不明土製品　（281）は直径5.8cm、厚さ2.4cmで、中央に径８mmほどの孔を穿っている。外面はヘラケズリされており、形態からみて紡錘車の可能性のあるものである。

貿易陶磁　（280）は越州窯系青磁椀である。均質にオリーブ色の釉が掛かる。

まとめ

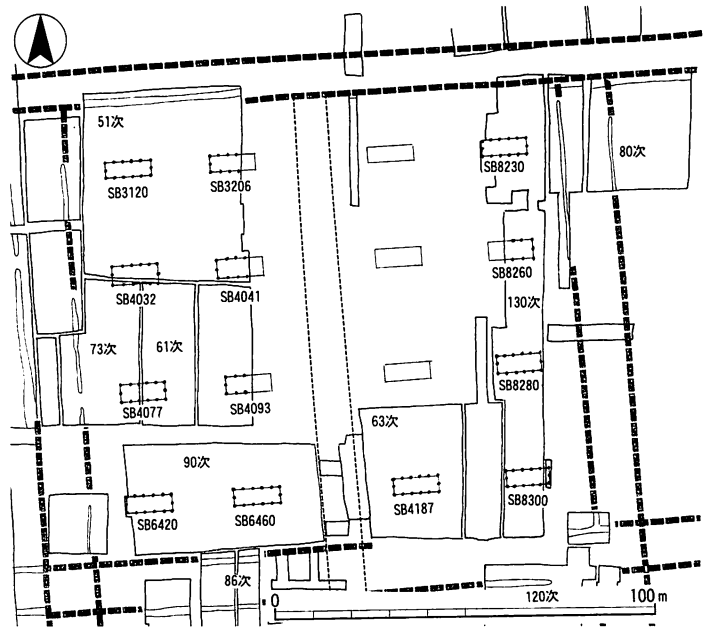
今回の調査の目的は、西加座北区画の東側の建物配置、特に寮庫と考えられる建物配置を明らかにすることであり、当初の予定位置で東西棟建物を４棟確認することができた。また、これに先行する建物や後続する建物群での問題点を概述する。

寮庫に先行する建物　寮庫と考えられる建物に先行する建物としてSB8285がある。建物周囲に幅0.3ｍの溝が四周が途切れた状態で検出されている。このような建物には、西半区画の第51次調査で検出したSB3220がある。５間×２間で四周に溝が巡っており、柱掘形を見ても他の建物より規模が大きく中心的な建物であったと考えられている。SB8285の周囲を巡る溝と寮庫と考えるSB8280とは重複関係があり、SB8285が古いことを確認しており、寮庫として東西棟建物が配置されるまでに先行する一時期があったと言えるが、同時期の建物群として、全体を把握するまでには至っていない。区画の利用形態を含めて、検討しなければならない課題である。



第13図　Ⅰ－４期　周囲に溝を伴う建物（１：2,000）

寮庫の建物　寮庫の建物としては、調査区の南からSB8300・SB8280・SB8260・SB8230がある。南北の柱通りを揃えて並ぶ５間×２間の東西棟で、SB8300は西側の第63次調査で検出したSB4187とも東西方向の柱通りを揃える位置

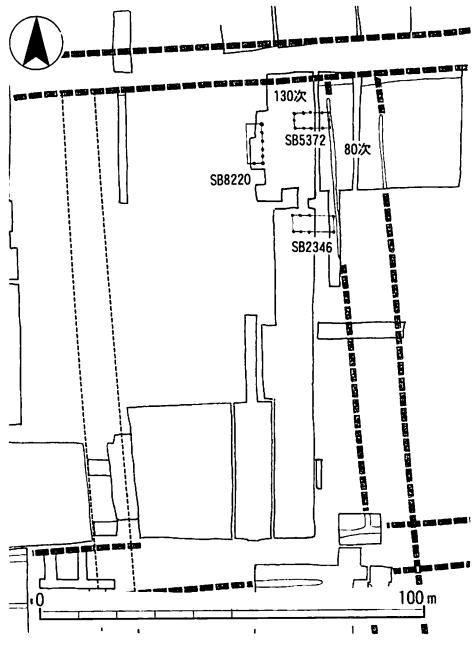


第14図　Ⅱ－１期　寮庫推定建物配置図（１：2,000）

にあたる。SB8260は西側が調査区外に延びるが、これ以外は建物規模が明らかとなっており、SB8260も同様の規模と考えて差し支えがないものと考える。南北の各建物の距離関係は、SB8300の南柱列からSB8280の南柱列までは約30m（100尺）、SB8260までは約60m（200尺）と計画的な様相が見られるが、SB8230までは約88.8m（296尺）と整数値にはならない。建物から北側溝までは15m、南側溝まで距離は12m、東西両側溝まではそれぞれ外側に９mの位置となる。これらの距離関係は西側の建物群も同じで、中央道路を挟んで左右対称な配置を取ることが明らかとなった。東のブロックでも西側の北３棟は未検出ではあるが、同じ配置を取るものと考えられ、南北に４棟の建物が４列配置されていたと推定できる。

『延喜式』によれば、斎宮では諸国から収めた様々な品物を「寮庫」に貯えるとされ、「寮庫」が斎宮の中に存在したことが記載されている。また、延暦10（791）年に建物が密集していると一つの蔵が失火すればもらい火で全焼するので、これ以後、新たに作る倉庫は十丈（30m）以上離しなさいという命令が出されている。庫の延焼による損失を防ぐため、池や濠などで防火用水の確保に努め、なおかつ、防犯のための警護にも備えるよう注意されている。都の例を考えると斎宮の中でも比較的離れた位置に建てられた今回の建物群は、柵など施設はわからなかったが、区画溝から等間隔に空閑地を挟んでいることから、遮蔽施設があったことも考えられ、斎宮の中の「庫」の建物と考えることができる。

寮庫の建物に後続する建物としてSB5372・2346・8220がある。SB8220は寮庫の建物SB8230と重複する５間×２間の南北棟である。北側柱列の延長上に妻柱が位置するSB5372の東西棟がある。またSB5372の南側に柱列の通ったSB8220が配置され、建物東側柱列が奈良時代後期の東側南北道路西側溝SD2345と重複する。この重複する位置はかっての昭和56年に行われた第41次のトレンチ調査の位置にあたり、建物と南北溝の関係は不明確であったが、今回の土抗などの関係から建物の年代は第Ⅱ－２期とした。ここで問題となってくるのは建物の位置で、西側道路側溝が早い段階に埋没し、その上に建物を建てていることである。東側の南北道路は、内院地区では縮小した第Ⅱ段階に東側を通っているとされ、この時期を延暦四（785）年に造斎宮長官に任ぜられた従五位上紀朝臣作良による斎宮の造営・整備によるものとされている。この時期は当該区画で８棟立ち並ぶ寮庫に該当するが、それから間もない時期、北端部ではSB5372が建てられることにより、この道路の機能が失われている可能性が考えられる。二つの区画を利用するのは内院でもあったことであるが、ここでは、今後、周辺の全体的な建物配置を考えると共に、検討すべき大きな課題と指摘するに止めておく。　（泉　雄二）



第15図　**Ⅱ－１期**　側溝と重複する建物

第3表　掘　立　柱　建　物　一　覧　表

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m) 桁行	柱間寸法 (m) 梁行	時期	備考
SB8285	(3)×2	E4°N	(6.3)	4.8	2.1	2.4	Ⅰ－4	雨落ち溝。8280より古
SB2346	5×2	E2°N	11.0	4.4	2.2	2.2	Ⅱ－1	東の第41次調査
SB5372	5×2	E4°N	11.0	4.4	2.2	2.2	Ⅱ－1	東の第80次調査
SB8220	5×(1)	N4°W	10.5	—	2.1	2.1	Ⅱ－1	8217より古
SB8230	5×2	E4°N	12.0	4.8	2.4	2.4	Ⅱ－1	8240より古
SB8260	(3)×2	E4°N		4.8	2.4	2.4	Ⅱ－1	
SB8280	5×2	E4°N	12.0	4.8	2.4	2.4	Ⅱ－1	
SB8300	5×2	E4°N	12.0	4.8	2.4	2.4	Ⅱ－1	8305.8309より古
SB8259	(2)×2	E3°S	—	3.8	1.9	1.9	Ⅱ－2	
SB8279	3×2	N4°W	4.0	3.8	—	1.9	Ⅱ－2	布掘り
SB8265	(2)×2	E2°N	—	4.0	—	2.0	Ⅱ－2	布掘り。8266より古
SB8290	(2)×2	E7°N		4.0		2.0	Ⅱ－2	8289・8286より古
SB2350	4×2	N5°W	8.4	4.6	2.1	2.3	Ⅱ－3	西の第41次調査
SB8216	3×2	E4°N	5.7	4.2	1.9	2.1	Ⅱ－3	
SB8217	3×2	E3°N	5.7	4.2	1.9	2.1	Ⅱ－3	
SB8223	3×2	N1°W	5.7	3.4	1.9	1.7	Ⅱ－3	
SB8227	3×2	E3°N	5.7	3.6	1.9	1.8	Ⅱ－3	
SB8241	3×2	N5°W	5.7	3.8	1.9	1.9	Ⅱ－3	
SB8250	(3)×2	E4°N	—	4.8	2.4	2.4	Ⅱ－3	8259・8261より古
SB8250	3×(1)	E4°N	6.0		2.0	1.8	Ⅱ－3	
SB8252	(1)×2	E0°N		3.8		1.9	Ⅱ－3	
SB8253	3×2	E5°N	5.7	3.8	1.9	1.9	Ⅱ－3	
SB8261	(1)×2	E3°N	—	4.2	1.8	2.1	Ⅱ－3	8250より新
SB8264	3×2	E5°N	6.0	4.2	2.0	2.1	Ⅱ－3	
SB8267	3×2	E5°N	6.3	4.0	2.1	2.0	Ⅱ－3	
SB8269	(2)×2	E3°N	—	4.2	2.1	2.1	Ⅱ－3	
SB8270	(2)×2	E3°N	—	4.8	2.1	2.4	Ⅱ－3	8269より新
SB8271	(2)×2	E3°N		4.2	2.1	2.1	Ⅱ－3	
SA8272	—	E3°N			2.1	2.1	Ⅱ－3	２間分確認
SB8286	3×2	E2°S	6.3	3.8	2.1	1.9	Ⅱ－3	8285・8280より新
SB8287	(1)×2	E0°N	—	3.6	1.8	1.8	Ⅱ－3	
SB8288	3×2	E3°N	5.7	4.2	1.9	2.1	Ⅱ－3	
SB8289	(2)×2	E0°N	—	3.6	1.9	1.8	Ⅱ－3	
SB8291	2×2	N0°W	4.8	3.8	2.4	1.9	Ⅱ－3	
SB8305	3×2	E1°N	6.0	3.8	2.0	1.9	Ⅱ－3	8309より古
SB8309	3×2	E2°N	6.0	3.6	2.0	1.8	Ⅱ－3	8301より古
SB8311	3×2	E1°S	6.3	4.2	2.1	2.1	Ⅱ－3	8312より新
SB8312	3×2	E0°N	6.3	4.2	2.1	2.1	Ⅱ－3	
SB8240	3×2	N1°E	6.0	3.8	2.0	1.9	Ⅱ－4	
SB8266	3×2	E3°S	6.0	4.0	2.0	2.0	Ⅱ－4	
SB8292	(2)×2	E5°S	—	4.2	1.9	2.1	Ⅱ－4	
SB8301	3×2	E2°N	5.4	4.2	1.8	2.1	Ⅱ－4	8300・8305より新
SB8304	3×2	E0°N	5.7	4.8	1.9	2.4	Ⅱ－4	
SB8314	3×2	N1°W	6.0	4.0	2.0	2.0	Ⅱ－4	
SB5378	3×2	E8°N	6.3	4.2	2.1	2.1	Ⅲ－1	
SB8225	5×2	E5°N	10.5	4.2	2.1	2.1	Ⅲ－1	
SB8302	3×2	E3°N	6.0	3.8	2.0	1.9	Ⅲ－1	8305・8309より新
SB8213	3×2	E1°N	4.8	3.2	1.6	1.6	Ⅲ－1	
SB8229	3×2	E1°N	5.7	4.0	1.9	2.0	Ⅲ－1	
SB8231	3×2	E2°S	6.9	4.2	2.3	2.1	Ⅲ－1	
SB8244	3×2	E1°S	6.3	4.0	2.1	2.0	Ⅲ－1	
SB8249	3×2	E6°N	5.4	3.8	1.8	1.9	Ⅲ－1	
SB8251	3×2	E0°N	6.3	4.2	2.1	2.1	Ⅲ－1	

第４表　遺物観察表

No	出土遺構	器種		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SK8294	土師器	杯Ａ	15.4	3.1	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、	密	良	橙2.5YR6/8	33	内面放射状暗文＋螺旋状暗文	007-03
2	SK8294	土師器	杯Ａ	15.8	3.7	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	33	ミガキ不明	023-03
3	SK8294	土師器	杯Ａ	9.8	1.7	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	40	内外ヘラミガキ不明	027-02
4	SK8294	土師器	杯Ａ	17.4	3.9	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	16	内外ヘラミガキ不明	025-05
5	SK8294	土師器	杯Ａ	17.8	3.5	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	33	ミガキ不明	023-02
6	SK8294	土師器	杯Ａ	19.6	4.6	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	40	内：放射＋螺旋、外：ヘラミガキ	025-04
7	SK8294	土師器	杯Ａ	19.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	25	外：ヘラミガキ、内：ミガキ不明	024-02
8	SK8294	土師器	杯Ａ	19.4	4.7	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙2.5YR7/８	40	内外ヘラミガキ不明	025-03
9	SK8294	土師器	杯Ａ	19.8	―	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	20	外：ヘラミガキ、内：放射＋螺旋状暗文	024-01
10	SK8294	土師器	杯Ａ	20.6	5.3	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	33	内外ヘラミガキ不明	025-02
11	SK8294	土師器	杯G	14.1	3.7	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	75		023-04
12	SK8294	土師器	杯G	12.6	3.9	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	灰白10YR8/2	33		024-04
13	SK8294	土師器	杯G	13.3	3.5	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	90	底外面にヘラ記号「二」	024-03
14	SK8294	土師器	杯Ｂ	18.4	5.0	11.8	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、貼り付け高台	密	良	橙5YR6/8	95	外：ヘラミガキ、内：ミガキ不明	030-02
15	SK8294	土師器	杯Ｂ	18.7	6.0	12.9	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、貼り付け高台	密	良	橙2.5YR6/6	25	外：ヘラミガキ、内：放射＋螺旋状暗文	025-06
16	SK8294	土師器	杯Ｂ	19.4	5.1	13.1	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、貼り付け高台	密	良	橙2.5YR7/８	35	外：ヘラミガキ。内：不明	025-01
17	SK8294	土師器	皿Ａ	19.0	2.4	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、	密	良	橙5YR6/6	14	外面ヘラミガキ・内面不明	007-02
18	SK8294	土師器	皿Ａ	19.8	2.4	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	25	ミガキ不明	016-04
19	SK8294	土師器	皿Ａ	19.4	2.4	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	13	ミガキ不明	016-06
20	SK8294	土師器	皿Ａ	20.0	2.4	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	50	ミガキ不明	023-01
21	SK8294	土師器	皿Ａ	20.9	2.3	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	40	ミガキ不明	016-07
22	SK8294	土師器	皿Ａ	20.9	2.1	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	33	ミガキ不明	016-05
23	SK8294	土師器	皿Ａ	21.0	2.9	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	80	内面：螺旋状暗文＋「×」	027-03
24	SK8294	土師器	皿Ａ	21.2	2.3	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	13	ミガキ不明	016-02
25	SK8294	土師器	皿Ａ	21.0	2.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	明褐7.5YR5/6	40	内面ヘラガキ	036-01
26	SK8294	土師器	皿Ａ	22.6	2.3	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	25	ミガキ不明	016-03
27	SK8294	土師器	蓋	17.3	―	―	口:ヨコナデ、天井外:ヘラケズリ、天井内:ナデ	密	良	橙7.5YR6/6	20	外：ヘラミガキ。内：放射＋螺旋状暗文	027-04
28	SK8294	土師器	鉢高	29.0	3.8	13.4	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、	密	良	橙5YR6/6	20	内面螺旋状暗文、外面ヘラミガキ	007-01
29	SK8294	土師器	杯	31.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	12	外面ヘラミガキ・内面不明	016-01
30	SK8294	土師器	鉢	39.4	13.4	19.6	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ・ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	25	内：一部二重螺旋、外：ヘラミガキ	026-01
31	SK8294	須恵器	皿Ｂ	18.2	2.9	13.5	口:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	8		006-07
32	SK8294	須恵器	杯Ｂ	26.4	4.2	22.4	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ、	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	20		004-01
33	SK8294	須恵器	杯蓋	16.8	―	―	口:ロクロナデ、天井外:ロクロケズリ、天井内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	7		029-04
34	SK8294	須恵器	杯蓋	22.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	10		021-02
35	SK8294	土師器	甑	―	―	8.0	体外:縦ハケ、体内:ナデ、底:ヘラケズリ	密	良	灰白10YR8/2	15		039-06
36	SK8294	土師器	甕	10.8	7.9	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:ナデ・ヘラケズリ	やや粗	良	浅黄橙7.5YR8/4	50		027-01
37	SK8294	土師器	甕	13.8	10.3	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:ナデ・ヘラケズリ	粗	良	にぶい橙5YR7/4	15		029-03
38	SK8294	土師器	甕	14.0	9.9	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ・一部ヘラケズリ、体内:ナデ・ヘラケズリ	密	良	橙7.5YR７/6	33	底部外面ヘラ記号「二」	029-01
39	SK8294	土師器	甕	17.0	16.0	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:ヘラケズリ	密	良	橙5YR6/6	35		018-02
40	SK8294	土師器	甕	17.6	17.5	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:斜めハケ・ヘラケズリ	密	良	灰白10YR8/2	90		028-01
41	SK8294	土師器	甕	23.6	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ・ヘラケズリ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	20		020-02
42	SK8294	土師器	鍋Ｂ	35.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ・ヘラケズリ	密	良	橙7.5YR7/6	17		019-01
43	SK8294	土師器	鍋	40.6	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ・ヘラケズリ	密	良	橙5YR7/6	13		020-01
44	SK8294	土師器	甕	16.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:板ナデ・ヘラケズリ	密	良	浅黄橙10YR8/4	25		021-03
45	SK8294	土師器	甕	24.3	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:板ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	33		021-01
46	SK8294	土師器	甕	25.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	16		018-01
47	SK8294	土師器	甕	23.5	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ・ヘラケズリ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	16		022-01
48	SK8299	土師器	杯Ａ	16.6	3.2	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/8	完存		055-02
49	SK8299	土師器	杯Ａ	20.2	4.8	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラミガキ、体内:ヘラミガキ	密	良	明赤褐5YR5/6	完存		053-02
50	SK8299	土師器	皿Ａ	18.8	2.1	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ヘラミガキ	密	良	明赤褐5YR5/8	70		053-03
51	SK8299	土師器	皿Ａ	19.8	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ヘラミガキ	密	良	橙5YR6/8	20		057-02
52	SK8299	土師器	皿Ａ	21.8	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ミガキ不明	密	良	橙5YR6/8	50		057-01
53	SK8299	土師器	皿Ａ	20.6	2.4	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ヘラミガキ	密	良	橙5YR6/8	完存		056-01
54	SK8299	土師器	杯Ｂ	-	-	13.0	体外:ミガキ、ナデ、オサエ、貼付高台、体内:ミガキ	密	良	明赤褐5YR5/6	50	螺旋暗文３条	053-01

No	出土遺構	器種		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
55	SK8299	須恵器	長頸壺	-	-	9.5	体外:ロクロナデ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰7.5YR5/1	40		054-01
56	SK8299	土師器	甕	16.8	-	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:板ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	20		057-04
57	SK8299	土師器	甕	13.8	10.9	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ヘラケズリ	密	良	にぶい黄橙10YR5/3	60		053-04
58	SK8299	土師器	甕	17.8	11.5	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/2	40		057-05
59	SK8299	土師器	甕	26.6	7.0	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	10		058-01
60	SK8255	土師器	杯A	13.0	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	60		114-01
61	SK8255	土師器	杯A	12.8	2.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	30		114-05
62	SK8255	土師器	杯A	13.2	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	40		109-01
63	SK8255	土師器	杯A	12.8	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	90		118-04
64	SK8255	土師器	杯A	13.4	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	30		112-10
65	SK8255	土師器	杯A	12.8	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	50		112-01
66	SK8255	土師器	杯A	14.0	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	20		108-08
67	SK8255	土師器	杯A	14.0	2.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐2.5YR5/8	30		112-09
68	SK8255	土師器	杯A	13.8	2.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	30		112-03
69	SK8255	土師器	杯A	16.0	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	40		111-07
70	SK8255	土師器	杯A	16.6	3.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	30		113-01
71	SK8255	土師器	杯A	13.4	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	完存		118-02
72	SK8255	土師器	杯A	15.0	3.3	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	30		117-01
73	SK8255	土師器	杯A	15.3	3.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/8	90		115-03
74	SK8255	土師器	椀A	9.0	2.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明黄褐10YR7/6	30		108-10
75	SK8255	土師器	椀A	9.0	2.9	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	70		113-09
76	SK8255	土師器	椀A	11.6	2.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ミガキ	密	良	明赤褐7.5YR5/6	30		113-10
77	SK8255	土師器	椀A	13.8	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ミガキ	密	良	明赤褐5YR5/6	10		108-09
78	SK8255	土師器	椀A	13.2	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	40		113-07
79	SK8255	土師器	椀A	10.6	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	50		112-05
80	SK8255	土師器	椀A	13.8	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	30		113-06
81	SK8255	土師器	椀A	13.0	3.1	-	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ミガキ不明	密	良	明赤褐5YR5/6	80		118-01
82	SK8255	土師器	椀A	10.6	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/8	50		115-06
83	SK8255	土師器	椀A	11.5	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐2.5YR5/8	30		113-03
84	SK8255	土師器	椀A	10.0	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	30		108-02
85	SK8255	土師器	椀A	12.8	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/8	20		113-05
86	SK8255	土師器	椀A	13.0	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	40		108-03
87	SK8255	土師器	椀A	12.6	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	40		112-02
88	SK8255	土師器	椀A	12.8	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	30		108-06
89	SK8255	土師器	椀A	14.0	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	50		110-05
90	SK8255	土師器	椀A	14.8	4.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい褐7.5YR5/4	50		111-04
91	SK8255	土師器	椀A	16.0	3.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		116-02
92	SK8255	土師器	椀A	16.0	3.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	60		110-08
93	SK8255	土師器	椀A	17.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		115-05
94	SK8255	土師器	椀A	16.8	4.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		112-07
95	SK8255	土師器	椀A	18.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	30		111-02
96	SK8255	土師器	皿A	13.6	1.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	40		108-05
97	SK8255	土師器	皿A	15.8	1.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明褐7.5YR5/6	20		110-07
98	SK8255	土師器	皿A	16.0	1.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	にぶい褐7.5YR5/4	40	螺旋暗文２条	112-06
99	SK8255	土師器	皿A	16.2	2.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明褐7.5YR5/6	40		112-08
100	SK8255	土師器	皿A	15.7	2.1	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	40		109-04
101	SK8255	土師器	皿A	16.6	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/8	30		114-04
102	SK8255	土師器	皿A	16.8	1.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	40		109-04
103	SK8255	土師器	皿A	17.0	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		110-02
104	SK8255	土師器	皿A	17.4	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	70		118-03
105	SK8255	土師器	皿A	17.6	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	赤褐5YR4/8	30		111-10
106	SK8255	土師器	皿A	18.0	2.1	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明黄褐10YR6/6	30		110-09
107	SK8255	土師器	皿A	19.8	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/8	30		111-09
108	SK8255	土師器	皿A	17.0	1.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	明赤褐5YR5/6	60		108-11
109	SK8255	土師器	皿A	16.2	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	40		109-02
110	SK8255	土師器	皿A	17.0	2.2	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	赤褐5YR4/6	40		114-02
111	SK8255	土師器	皿A	17.8	2.2	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい赤褐5YR5/4	30		110-01
112	SK8255	土師器	皿A	17.6	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ヨコナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		110-06
113	SK8255	土師器	皿A	19.0	1.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/8	40		111-01
114	SK8255	須恵器	蓋	14.0	-	-	ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	10		105-01
115	SK8255	須恵器	蓋	18.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:マメツ、体内:マメツ	密	良	明黄褐10YR7/6	40		113-10
116	SK8255	須恵器	蓋	16.8	2.0	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰N4/	60		104-05
117	SK8255	須恵器	杯	8.8	2.7	-	口:ロクロナデ、体外:ヘラ切り、体内:ロクロナデ	密	良	褐灰10YR6/1	50		104-02
118	SK8255	須恵器	杯	12.0	3.8	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	60		104-03
119	SK8255	須恵器	杯	16.0	4.8	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	30		104-06
120	SK8255	灰釉	壺	2.0	-	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、体内:ヘラケズリ、ロクロナデ	密	良	暗灰黄2.5Y5/2	30		104-01
121	SK8255	灰釉	壺	9.2	-	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、体内:ロクロナデ	密	良	にぶい褐7.5YR5/3	25		106-03

No	出土遺構	器種		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
122	SK8255	須恵器	壺	-	-	4.4	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ヘラ切り体内:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	30		104-08
123	SK8255	須恵器	壺G	-	-	-	体外:ロクロナデ、体内:ロクロナデ	密	良	灰10Y6/1	30		104-04
124	SK8255	須恵器	甕	18.0	-	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	40		104-07
125	SK8255	土師器	甕	9.4	-	-	口:ヨコナデ、体外:タテハケ、体内:板ナデ	密	良	灰黄褐10YR5/2	50		106-02
126	SK8255	土師器	甑	14.0	12.2	9.0	口:ヨコナデ、体外:タテハケ、体内:板ナデ、ナデ、オサエ	密	良	浅橙5YR8/4	45		106-01
127	SK8255	土師器	甕	15.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:タテハケ、体内:ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	40		115-02
128	SK8255	土師器	甕	18.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:タテハケ、体内:ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	50		116-04
129	SK8255	土師器	鍋	28.4	15.4	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、オサエ、ナデ、体内:ハケ、ヘラケズリ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	40		119-01
130	SK8255	土師器	甕	17.6	15.4	-	口:ヨコナデ、体外:タテハケ、ケズリ、体内:ヨコハケ、ケズリ	密	良	にぶい黄橙7.5YR6/4	完存		107-01
131	SK8255	土師器	甕	13.0	-	-	タテハケ	密	良	橙7.5YR7/6	70		119-02
132	SK8255	土師器	甕	21.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:ナデ、体内:ヨコハケ	密	良	明赤褐5YR5/8	30		116-05
133	SK8255	土師器	鉢	25.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ナデ	密	良	明赤褐5YR5/6	50		117-03
134	SK8255	土師器	甕	26.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ヨコハケ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	30		116-01
135	SK8315	土師器	杯A	13.8	2.7	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	40		041-02
136	SK8315	土師器	杯A	13.8	2.9	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	60		002-05
137	SK8315	土師器	杯A	13.8	3.1	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR3/8	40		002-06
138	SK8315	土師器	杯A	15.0	3.3	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	明赤褐5YR5/6	40		039-07
139	SK8315	土師器	杯A	15.4	3.3	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい黄褐10YR5/3	30		039-09
140	SK8315	土師器	椀G	10.6	3.0	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙2.5YR6/8	33		002-04
141	SK8315	土師器	椀A	14.0	3.3	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	20		039-08
142	SK8315	土師器	椀A	18.8	5.0	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	30		041-03
143	SK8315	土師器	皿A	13.6	2.6	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	25		002-03
144	SK8315	土師器	皿A	14.8	2.0	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	33		002-02
145	SK8315	土師器	皿A	17.4	2.1	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	40		002-01
146	SK8315	土師器	皿A	18.0	2.0	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	30		039-04
147	SK8315	土師器	皿A	17.8	2.0	—	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR6/6	20		039-03
148	SK8315	須恵器	皿B	18.4	—	—	口ロクロナデ、体内:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼り付け高台	密	良	灰10Y5/1	30		039-02
149	SK8315	土師器	鉢	17.0	—	—	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ	密	良	橙5YR6/8	20		040-03
150	SK8315	土師器	甕	12.8	—	—	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:板ナデ	密	良	灰褐5YR4/2	60		040-02
151	SK8315	土師器	甕	30.0	—	—	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ	密	良	灰黄褐10YR6/2	30		040-01
152	SK8315	土師器	杯A	—	—	—	体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	明赤褐5YR5/8	—	底部外面墨書「寺」	040-05
153	SK8315	土師器	壷E	5.6	—	—	口:ヨコナデ、体外:ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/8	20	ミニチュア	041-01
154	SK8315	灰釉	蓋	4.7	1.2	—	内外ロクロナデ、ツマミ:貼り付け	密	良	灰7.5YR4/1	80	ミニチュア	039-01
155	SK8315	須恵器	杯	16.0	4.1	—	口:ヨコナデ、体外:ロクロケズリ	密	良	灰白N7/0	7		001-04
156	SK8315	須恵器	杯蓋	13.0	—	—	口:ロクロナデ、天井外:ロクロケズリ、天井内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	25	天井部外面墨書「大」	040-04
157	SK8315	須恵器	杯蓋	11.9	—	—	口:ロクロナデ、天井部外:ロクロケズリ・内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	40		001-02
158	SK8315	須恵器	杯蓋	17.0	—	—	口:ロクロナデ、天井部外:ロクロケズリ・内:ロクロナデ	密	良	灰白N7/10	13		001-01
159	SK8315	灰釉	蓋	17.3	—	—	口:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	7	外面に灰釉	001-03
160	SK8315	緑釉	椀	16.4	—	—	口:ロクロナデ	密	良	灰N6/0	16	内面ヘラミガキ	001-05
161	SD2340	土師器	杯A	14.0	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	20		060-05
162	SD2340	土師器	杯A	13.6	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	40	穿孔土器	060-08
163	SD2340	土師器	杯A	14.4	3.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	完存		126-04
164	SD2340	土師器	杯A	15.0	3.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	20		060-01
165	SD2340	土師器	皿A	15.0	1.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	30		060-07
166	SD2340	土師器	皿A	15.0	1.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	20		060-06
167	SD2340	土師器	甑	13.6	-	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	20		060-03
168	SD2340	土師器	甕	16.4	-	-	口:ヨコナデ、体外:ハケ、体内:ナデ	密	良	灰白10YR8/1	20		060-02
169	SD2340	土師器	鉢	-	-	20.0	体外:タテハケ、貼付高台、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	60		061-03
170	SD2340	緑釉	皿	-	-	7.2	体外:ロクロナデ、ミガキ、体内:ロクロナデ、ミガキ	密	良	浅黄橙10YR8/3 釉:ねこやなぎ色825	高台のみ		128-04
171	SD2340	緑釉	唾・壺	-	-	7.0	体外:施釉、体内:ロクロナデ	密	軟	浅黄橙10YR8/3 釉:ねこやなぎ色825	底部60		128-05
172	SD2340	緑釉	皿	15.8	2.7	7.4	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、貼付高台、ミガキ、体内:ミガキ	密	良	灰白N7/ 釉:ねこやなぎ色825	60		135-01
173	SD2340	灰釉	椀	11.5	3.2	5.8	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	60	墨書土器「応」	065-01
174	SD2340	灰釉	椀	13.6	4.2	7.0	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白10Y7/2 釉:灰白5Y7/2	60	つけ掛け	064-02
175	SD2340	灰釉	椀	17.0	5.0	8.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	30	つけ掛け	062-07
176	SD2340	灰釉	稜	13.2	3.1	6.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y6/1 釉:灰白5Y7/2	90	つけ掛け	064-03

No	出土遺構	器種		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
177	SD2340	灰釉	段皿	18.6	3.5	8.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	70		062-01
178	SD2340	灰釉	段皿	18.9	3.4	9.6	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1 釉:オリーブ灰10Y6/2	90	つけ掛け	060-01
179	SD2340	灰釉	段皿	12.5	1.8	5.3	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1 釉:オリーブ灰10Y5/2	80		062-05
180	SD2340	灰釉	皿	12.6	2.8	6.0	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1 釉:オリーブ灰7.5Y5/2	40	つけ掛け	062-08
181	SD2340	灰釉	皿	14.4	2.2	7.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1 釉:オリーブ灰7.5Y5/2	70		062-01
182	SD2340	灰釉	段皿	12.0	1.9	6.0	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1 釉:灰オリーブ7.5Y5/3	60		062-03
183	SD2340	灰釉	皿	14.2	2.5	6.5	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	30		062-06
184	SD2340	灰釉	皿	15.0	2.6	7.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	60		065-02
185	SD2340	須恵器	壺	―	―	―		密	良	灰N6/	脚のみ		129-03
186	SD2340	灰釉	壺	7.6	-	-	ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	20		063-02
187	SD2340	須恵器	鉢	20.4	21.5	10.8	口:ロクロナデ、体外:カキメ、体内:ロクロナデ	粗	良	灰白7.5Y8/1	40		064-01
188	SK8295	土師器	杯A	14.3	3.0	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	66		012-04
189	SK8295	土師器	杯A	13.3	2.7	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	66		014-03
190	SK8295	土師器	杯A	14.2	2.8	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	50		012-03
191	SK8295	土師器	杯A	14.4	3.4	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙2.5YR7/6	完形		009-06
192	SK8295	土師器	杯A	15.1	3.0	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	33		012-02
193	SK8295	土師器	杯A	14.1	2.9	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	66		012-05
194	SK8295	土師器	杯A	14.3	2.8	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/6	33		012-06
195	SK8295	土師器	杯A	14.0	2.9	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	完形		009-07
196	SK8295	土師器	椀A	14.4	3.6	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	完形		009-05
197	SK8295	土師器	碗A	14.8	3.3	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	40		011-02
198	SK8295	土師器	椀A	17.2	4.1	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙2.5YR6/8	90	内面放射状暗文+螺旋状暗文	013-01
199	SK8295	土師器	椀A	16.2	3.5	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙2.5YR6/8	完形	内面放射状暗文+螺旋状暗文・中央に×	013-02
200	SK8295	土師器	椀A	17.6	4.5	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	75	内面螺旋状暗文	008-01
201	SK8295	土師器	碗A	20.5	4.6	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	95		012-01
202	SK8295	土師器	椀A	21.2	5.0	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/8	完形	内面放射状暗文+二重螺旋暗文	015-01
203	SK8295	土師器	皿	13.1	1.5	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	85		014-02
204	SK8295	土師器	皿A	14.3	2.1	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	完形		009-02
205	SK8295	土師器	皿A	14.2	1.8	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	13		009-03
206	SK8295	土師器	皿A	14.8	2.2	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/3	25		011-03
207	SK8295	土師器	皿A	15.4	2.1	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	60		010-04
208	SK8295	土師器	皿A	15.5	2.1	―	口:ヨコナデ、体外:ナデ+オサエ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	完形		009-01
209	SK8295	土師器	高杯	―	―	14.9	脚端:縦刷毛の後ヨコナデ・ナデ、脚柱:外ヘラケズリ、内ナデ、	密	良	橙7.5YR7/6	20		010-02
210	SK8295	土師器	高杯	―	―	15.2	脚端:ヨコナデ・ナデ、脚柱:外ヘラケズリ、内ナデ、	密	良	橙7.5YR7/6	35	杯部内面螺旋状暗文	010-01
211	SK8295	土師器	甕	12.2	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:ナデ	密	良	にぶい褐7.5YR5/6	20		037-02
212	SK8295	土師器	鉢	28.4	11.8	―	口:ヨコハケ、体外:ハケメ、ケズリ、体内:ハケメ、ケズリ	密	良	浅黄橙10YR8/3			008-02
213	SK8295	土師器	鉢	31.8	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:ナデ 口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、	密	良	橙7.5YR7/6	20		037-01
214	SK8295	灰釉	椀	18.2	6.5	8.2	貼り付け高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	口13 高50	ツケ掛け	014-01
215	SK8295	黒色土器	椀	21.2	―	―	口:ヨコナデ、体外:ヘラケズリ、体内:ナデ	密	良	黒N/	40	内面ヘラミガキ+暗文	014-05
216	SK8308	ロクロ土師器	杯	13.0	3.0	6.8	内外:ロクロナデ、底部外:ヘラ切り	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	60		044-05
217	SK8308	土師器	杯A	13.6	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/8	完存		048-05
218	SK8308	土師器	杯A	13.6	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	完存		046-02
219	SK8308	土師器	杯A	13.4	3.1	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	完存		048-02
220	SK8308	土師器	杯A	14.0	3.1	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	90		051-04
221	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	50		046-09
222	SK8308	土師器	杯A	15.0	2.8	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	40		044-07
223	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	80		045-05
224	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.3	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	80		049-02
225	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.3	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	80		045-01
226	SK8308	土師器	杯A	14.0	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	90		050-04
227	SK8308	土師器	杯A	14.2	2.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	完存		046-01

No	出土遺構	器種		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
228	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ミガキ	密	良	橙5YR6/6	完存		051-02
229	SK8308	土師器	杯A	14.4	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	80		046-06
230	SK8308	土師器	杯A	14.4	2.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	完存		048-01
231	SK8308	土師器	杯A	14.0	2.9	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	90		047-04
232	SK8308	土師器	杯A	14.7	3.2	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	灰褐7.5YR6/2	60		050-02
233	SK8308	土師器	杯A	15.0	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	60		046-04
234	SK8308	土師器	杯A	14.4	2.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	60		049-05
235	SK8308	土師器	椀A	13.0	3.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR7/6	完存		048-06
236	SK8308	土師器	椀A	13.0	3.3	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙10YR8/4	70		047-03
237	SK8308	土師器	椀A	13.2	3.4	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	浅黄橙7.5YR8/3	90		050-03
238	SK8308	土師器	椀A	14.8	4.1	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	60		045-04
239	SK8308	土師器	椀A	13.6	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	完存		051-05
240	SK8308	土師器	椀A	15.0	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	40		051-06
241	SK8308	土師器	椀A	16.0	3.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい褐7.5YR5/4	完存		046-03
242	SK8308	土師器	椀A	15.5	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/8	70		049-04
243	SK8308	土師器	椀A	15.6	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	90		047-06
244	SK8308	土師器	椀A	16.0	3.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	完存		045-06
245	SK8308	土師器	椀A	15.8	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	90		050-06
246	SK8308	土師器	椀A	14.4	3.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	80		046-07
247	SK8308	土師器	椀A	15.8	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	80		045-03
248	SK8308	土師器	椀A	15.7	3.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR7/6	60		047-02
249	SK8308	土師器	皿A	13.0	2.1	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR7/6	40		044-01
250	SK8308	土師器	皿A	13.6	2.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	80		049-03
251	SK8308	土師器	皿A	14.6	1.7	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	40		044-03
252	SK8308	土師器	皿A	15.1	1.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	完存		045-10
253	SK8308	土師器	皿A	13.6	1.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	完存		048-04
254	SK8308	土師器	皿A	13.4	1.7	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	完存		045-07
255	SK8308	土師器	皿A	13.6	1.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙7.5YR6/6	完存		046-05
256	SK8308	土師器	皿A	14.0	1.6	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	80		050-01
257	SK8308	土師器	皿B	15.0	-	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	20		051-01
258	SK8308	土師器	椀A	16.0	4.2	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙10YR6/4	60		047-01
259	SK8308	土師器	椀A	17.0	4.0	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	にぶい黄橙7.5YR6/4	50		045-02
260	SK8308	土師器	椀A	17.0	4.3	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	橙5YR6/6	40	外:ヘラミガキ、内:放射+螺旋暗文	044-08
261	SK8308	土師器	椀A	17.0	4.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR6/6	80		050-05
262	SK8308	土師器	椀A	17.6	3.8	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ミガキ	密	良	橙5YR7/6	80	螺旋暗文２条	046-08
263	SK8308	土師器	椀A	19.8	4.0	―	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、体内:ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR7/4	40	内：放射＋螺旋暗文・「X」の暗文	044-04
264	SK8308	土師器	甕A	16.4	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ・ヘラケズリ、体内:板ナデ・ヘラケズリ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	70		042-02
265	SK8308	土師器	甕	19.3	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ	密	良	灰黄褐10YR5/2	30		042-03
266	SK8308	土師器	甕	25.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ、体内:横ハケ	密	良	淡橙5YR8/4	40		043-01
267	SK8308	土師器	甕	14.6	-	-	口:ヨコナデ、体外:不明、体内:板ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/4	30		051-03
268	SK8308	土師器	甕	17.0	―	―	口:ヨコナデ、体外:縦ハケ・ヘラケズリ、体内:ナデ・ヘラケズリ	密	良	にぶい橙5YR7/4	30		042-01
269	SK8308	黒色土器	椀	16.0	4.0	8.6	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、ミガキ、体内:ナデ、オサエ、ミガキ	密	良	黒N2/明黄褐10YR6/6	60		052-04
270	SK8308	黒色土器	椀	17.0	5.0	6.2	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、ミガキ、体内:ナデ、オサエ、ミガキ	密	良	黒N2/明赤褐2.5YR5/6	40		052-01
271	SK8308	灰釉	皿	15.0	3.1	6.6	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	80		047-05
272	SK8308	灰釉	椀	17.6	6.0	7.6	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1釉：灰白5Y7/2	30	墨書土器「有」	127-01
273	SK8308	灰釉	椀	16.9	5.0	7.9	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ・ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	90	つけ掛け	044-06
274	SX8310	須恵器	蓋	21.0	3.9	-	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/	完存		134-02
275	SX8310	須恵器	杯B	19.8	4.3	15.3	口:ロクロナデ、体外:ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台、体内:ロクロナデ	密	良	灰白N8/	完存	和同開珎4枚	134-01
276	包含層	緑釉	香炉蓋	13.2	5.2	-	口:ロクロナデ、体外:ケズリ、ミガキ、体内:ロクロナデ	密	良	象牙色789	60		130-01
277	SK8239	緑釉	椀	21.4	6.6	9.0	口:ヨコナデ、体外:ケズリ後ミガキ、体内:ミガキ	密	良	浅緑840	60		133-01
278		緑釉	皿	14.0	2.9	6.6	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、ミガキ、貼付高台、体内:ミガキ	密	良	浅黄2.5Y7/4釉：えんどう豆色836	40		128-03
279	SK8268	緑釉	椀			8.4	体外:ロクロナデ、ケズリ、体内:ロクロナデ	密	良	灰5/釉：オリーブ黒	40		128-02
280		青磁	椀	14.0	3.5	6.2	口:ロクロナデ、体外:ロクロケズリ、高台削りだし、体内:ロクロナデ	密	良	抹茶色838	70		128-01
281	SK8219							密	良	橙7.5YR7/6	90		128-07
282	SK8294	須恵器	硯	―	―	―		密	良	灰N6/	小片		129-02
283	SK8219	土師器	杯A	15.0	3.5	-	口:ヨコナデ、体外:オサエ、ナデ、ケズリ、体内:ナデ、オサエ	密	良	橙5YR8/6	50		127-02

第５表　斎宮跡発掘調査次数一覧表

次　数	年度	調　査　地　区
1	S45	試掘
2	46	古里Ａ地区
3		〃　Ｂ地区
4	47	〃　Ｃ地区
5	48	〃Ｄ地区
6－1		Ａトレンチ
6－2		Ｂトレンチ
6－3		Ｃトレンチ
6－4		Ｄトレンチ
6－5		Ｅトレンチ
7	49	古里Ｅ地区
8－1		Ｆトレンチ
8－2		Ｇトレンチ
8－3		Ｈトレンチ
8－4		Ｉトレンチ
8－5		Ｊトレンチ
8－6		Ｋトレンチ
8－7		Ｌトレンチ
8－8		Ｍトレンチ
8－9		Ｎトレンチ
8－10		Ｏトレンチ
8－11		Ｐトレンチ
9－1	50	Ｑトレンチ
9－2		Ｒトレンチ
9－3		Ｓトレンチ
9－4		Ｔトレンチ
9－5		Ｕトレンチ
9－6		Ｖトレンチ
9－7		Ｗトレンチ
9－8		Ｘトレンチ
9－9		Ｙトレンチ
9－10		Ｚトレンチ
10		広域圏道路
11－1		西加座2661-1（山中）
11－2		〃　2681-1（山名）
11－3		東前沖2483-2（前田）
11－4		下　園2926-9（吉木）
12－1	51	２Ａトレンチ
12－2		２Ｂトレンチ
12－3		２Ｃトレンチ
12－4		２Ｄトレンチ
13－1		東加座2436-7（浜口）
13－2		〃　2436-4（中村）
13－3		古　里3283（村上）
13－4		楽　殿2916～2917（松井）
13－5		御　館2974-1（川本）
13－6		中垣内375-1　（南）
13－7		東　裏328　（小川）
13－8		西加座2771-1（細井）
13－9	51	〃　2773（細井）
13－10		東　裏362-1　（児島）
13－11		西加座2681-1（浮田）
13－12		〃　2721-3, 2724-2　（森川）
13－13		東前沖2506-2（宮下）
14－1	52	２Ｅトレンチ
14－2		２Ｆトレンチ
14－3		２Ｇトレンチ
14－4		２Ｈトレンチ
14－5		２Ｉトレンチ
15		斎宮小学校
16－1		竹川町道Ａ
16－2		〃　Ｂ
16－3		〃　Ｃ
16－4		〃　Ｄ
16－5		〃　Ｅ
16－6		〃　Ｆ
17－1		竹神社社務所
17－2		竹神社防火用水
17－3		西加座2721-6（西沢）
17－4		楽　殿2894-1（中川）
17－5		〃　2895-1（西口）
17－6		出在家3237-3（吉川）
17－7		〃　3237-1（里中）
17－8		楽　殿2894-1（西村）
17－9		東海造機
18	53	6AEL-E・I（下園）
19		6AEN-M　（御館）
20		6AEO-I・J（柳原）
21－1		6AGN-B（鍛冶山、北山）
21－2		6AEI-D（西加座2711-2ほか、山路 ）
21－3		6AFD-D（西前沖2649-1、大西 ）
21－4		6AFH-F（西加座2678、2679-3、森下）
21－5		6AGD-K（東前沖、渡辺）
21－6		6ACA-T（古里3269-2、中西）
21－7		6AFE-F（東前沖2631-1、鈴木）
21－8		6AEG-A（楽殿2909-3、大西）
21－9		6AED-R（篠林3218-3、宇田）
22－1		6AGU
22－2		6AGU
22－3		6AGW
23	54	6AEL-B（下園）
24		6AGF-D（西加座）
25－1		6ADP-K（牛葉3029-1、三重土地ﾎｰﾑ）
25－2		6ACA-Y（古里3270、脇田）
25－3		6ADD-F（篠林3139-3、池田）
25－4		6AER-H（牛葉3014、牛葉公民館）
25－5		6AGN-H（鍛冶山2392、丸山）
25－6		6AFH-A（西加座2675-5、谷口）
25－7		6AEK-V（下園2926-10、奥田 ）
25－8		6AFC-D（西前沖2064-5、山本）
25－9		6ACN-C（広頭3387-1、北出）

次　数	年度	調　査　地　区
25－10	54	6AEV-A（鈴池339-1、永島）
25－11		6ACF-B（東裏364-1、沢）
25－12		6AEE-Y（楽殿2892-3、山本）
25－13		6AEJ-E（西加座2766-1、山内）
26－1		6AFR（中西）
26－2		6AEX～6ACQ（鈴池、木葉山、南裏）
26－3		6AEV・W ・X （鈴池）
26－4		6ACR（木葉山、南裏）
27		6ACG-S・T （東裏）
28		6AEO-D（柳原）
29		6AFI、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ
30	55	6ABJ-M・X ・W （中垣内）
31－1		6ADO-M（内山3038-13、岩見）
31－2		6ACP-I（南裏227-2、鈴木）
31－3		6ABD-A（古里588-4、北藪）
31－4		6ADQ-T（牛葉3018-2、百五銀行）
31－5		6ACC-G（塚山3338-3、水谷）
31－6		6ABO-X（古里576-1、池田）
31－7		6AGI-L（東加座2427-1、竹内）
31－8		6ACN-G（広頭3388-1・5・8・9、森）
31－9		6AGD-L（北野2487-1、中川）
31－10		6ADM-O（内山3043-3、斎宮駅）
31－11		6ADT-I（木葉山304-2、澄野）
31－12		6ADT-J（木葉山304-7、宇田）
32		6ACE-D・E・F（塚山）
33		6ADE-C・D他（篠林）
34		6ADE-F・G・H（西加座）
35		6APE他（西前沖）
36	56	6ABI-F（中垣内）
37－1		6AFC-M（西前沖2064、日本経木）
37－2		6ADQ-R（牛葉3021-2、野田）
37－3		6AFC-F（西前沖2604-6、神田）
37－4		6AFC-M（西前沖2604、日本経木）
37－5		6AFC-G（西前沖2064-7、中村）
37－6		6ABD-A（古里588-2、北藪）
37－7		6AEC-M（苅干2861-2、斎王公民館）
37－8		6ADR-P（木葉山128-8・13・14、富山）
37－9		6AGK-E（東加座2355-1、竹内）
37－10		6AED-O（楽殿3217-1、渡部）
37－11		6ADN-O（内山3043-3、斎宮駅）
37－12		6AFH-J（西加座2681-1・3・4、渋谷）
37－13		6AGK-F(西加座2385-3、2386-3、竹内)
38		6ACD-S（塚山）
39		6ABD-R・S・T （古里）
40		6AGH-L・M （東加座）
41		6AGJ-J他（斎宮地内）
42－1	57	6AEI-D・F （楽殿）
42－2		6AEK-A・B （楽殿）
43－1		6ADC-C（出在家3235-2、永田）
43－2		6ADT-B（木葉山308-1、山本）
43－3		6ACP-T（南裏241-1、辻）
43－4		6ADS-D（牛葉123-3、西山）
43－5		6ADE-D（篠林3220-3、澄野）
43－6		6AGE（東前沖、町道側溝）

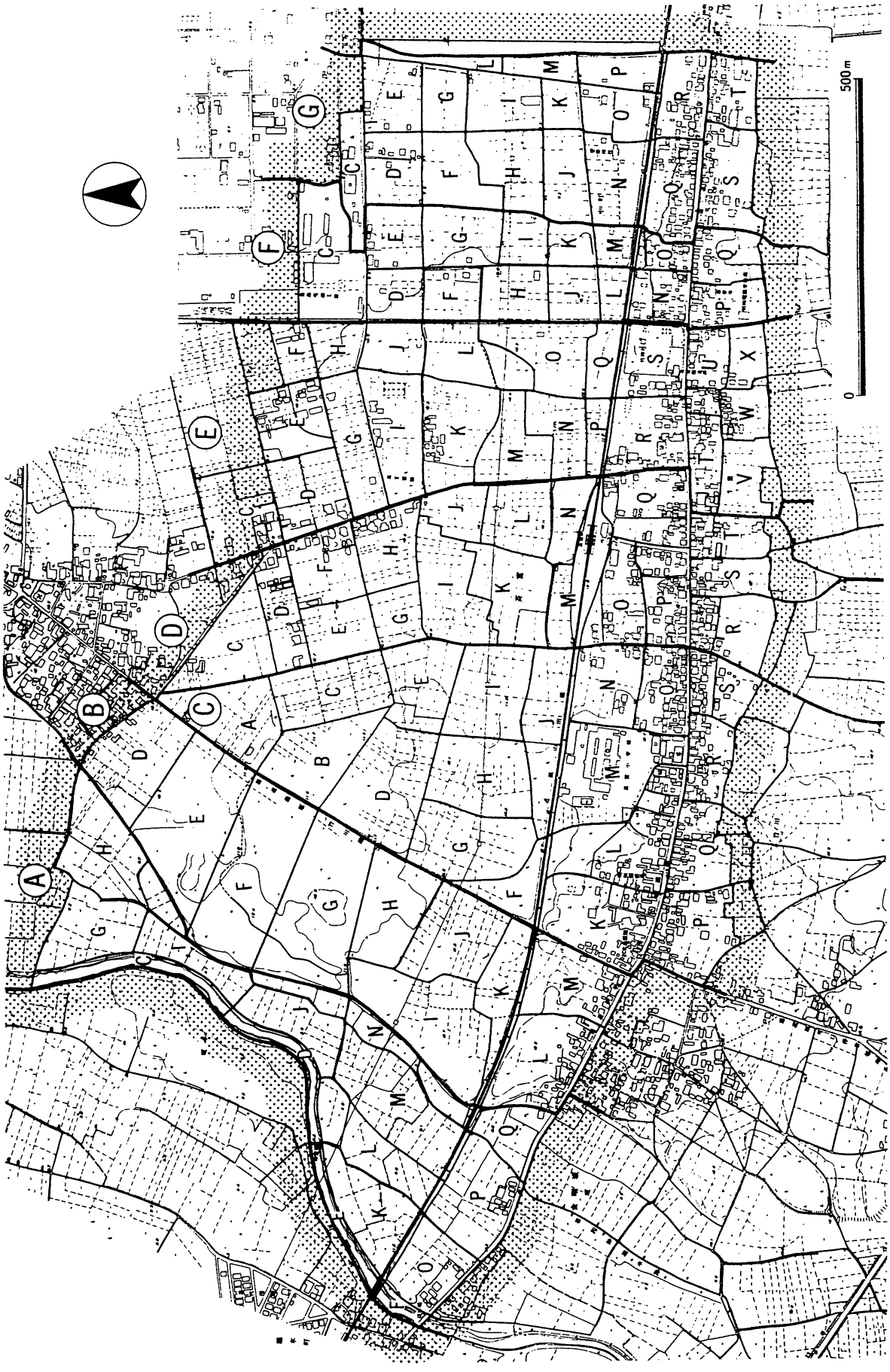
次　数	年度	調　査　地　区
43－7	57	6ABD-F（古里588-6、今西）
43－8		6ADQ-H（牛葉3025-2、大西）
44		6AFL-A・B（鍛冶山2759-1、他）
45		6AEG-P・Q（楽殿2904-2、他）
46		6AGN-C・D（鍛冶山2737-1、他）
47		6ADJ-D・G他(西加座・御館・宮ノ前他)
48－1	58	6AGM-M（広頭3385、斎宮小）
48－2		6ADP-Q（牛葉3033-1・2、吉田）
48－3		6ABL-M（中垣内434-6、西川）
48－4		6AGL-B（東前沖2480、倉田）
48－5		6AGD～6AFE（東前沖、町道側溝）
48－6		6AGC-A（西前沖3550-1、今西）
48－7		6ADT-H（木葉山307、森西）
48－8		6ACL-E・F・G（東裏334-15、他）
48－9		6AEV-J（鈴池341-1、乾）
48－10		6AGT （牛葉、町道側溝）
48－11		6ADP-E(鍛冶山2351-1・2352-1、榊原)
48－12		6AFC-H（西前沖2604-8・9、清水）
48－13		6ACM-O（東裏、斎宮小）
48－14		6AET （牛葉、町道側溝 ）
49		6ADI-D・U・V・W・X（上園3083、他）
50		6ACH-H（東裏294,297、山本）
51		6AFF-D(西加座2663-1・4,2664、森下)
52		6AGF-D（西加座2703、他）
53－1	59	6ACM-P（東裏284、体育館）
53－2		6ACA-M（古里3280-2、中西）
53－3		6ABE （古里573-2、永納）
53－4		6ACL-S（東裏271-1、田所）
53－5		6ACR （木葉山97-5、田中）
53－6		6AGO （鍛冶山、町道側溝）
53－7		6ADD-U（篠林3147-3、野呂）
53－8		6AGE-O（東前沖2470-2、上田）
53－9		6ACS-O（木葉山95-2、浅尾）
53－10		6ACA-R（古里3267-1、西川）
53－11		6ADR-W（木葉山131-7、西村）
53－12		6ABL-K（中垣内464-2、沢）
53－13		6ADQ-L（牛葉3022、辻
53－14		6ACM-O（東裏287-3、体育館）
53－15		6AFK-C・D （西加座2721-1、鈴木
54		6AFE-N（西前沖2630、他）
55		6AEN-P（柳原、御館2785-1、他）
56		6ACH-S（東裏289-1、他）
57		6AGF-H・I （東加座2441、他）
58－1	60	6AFK-C・D （西加座2721-1、鈴木）
58－2		6AFH-N（西加座2681-1、三村）
58－3		6ACM-N（東裏3385-2、斎宮小）
58－4		6ABL-A（中垣内4731-1、小家）
58－5		6ADQ-Q（牛葉、町道側溝）
58－6		6ADR-V（木葉山131-3、西山）
58－7		6AGS-G（中西611、山路）
58－8		6ABM-A（中垣内430-3他、近鉄）
59		6ACJ-I（広頭3379-1、他）
60		6AGJ-B・D・G（東加座2450-1、他）
61		6AFF-H・I・D（西加座2663-1、他）

次　数	年度	調　査　地　区
62	60	6AGI-J・K　(東加座2425、他)
63		6AFG-M・N　(西加座2659-1、他)
64－1	61	6ACO-H (牛葉3395-1、トーカイ)
64－2		6AGL-F (東加座2435-1、大和谷)
64－3		6ADD-A (篠林3136-1、山路)
64－4		6AGR-N (笛川2340、丸山)
64－5		6ACM-R・Q・P (東裏3385-2、斎宮小)
64－6		6ACK　(東裏 361-2、竹川自治会)
64－7		6AGI-G (東加座2435-2、大和谷)
64－8		6AGR-J (笛川2341-6、山下)
64－9		6ADQ-M (牛葉、町道側溝)
64－10		6ACF-A (東裏365-1、樋口)
64－11		6ACM-O (東裏3385-2、斎宮小)
64－12		6ADE-B (篠林3162-3、江崎)
65－1		6ACC-M (塚山3331-1)
65－2		6AEG-S (楽殿2908-2、他)
65－3		6AEI-L・M　(楽殿2917-4、他)
66		6AGG-C (東加座2437-1、他)
67		6ABF (古里523、他)
68		6ABF　(古里502、他)
69		6AGM-E～H　(東加座2373、他)
70－1	63	6ACC-X (塚山3325-1、江崎)
70－2		6AEE-W (楽殿2875-2、岡田)
70－3		6ADR-I (木葉山129-5、大西)
70－4		6ACN-A・B・E・L (広頭3389-8、林)
70－5		6AEW-A (鈴池 333-1、八田)
70－6		6ABL-S (中垣内430-6、奥山)
70－7		6AEE-T (楽殿577、浅尾)
70－8		6AEU・6AEX-A(牛葉、鈴池、三重県)
70－9		6AEP-C・D　(御館、榊原、近鉄)
70－10		6AFD-B・D　(西前沖2649-4、大西)
70－11		6AGO-H (鍛冶山2363-2、川合)
70－12		6ADD-F・G　(篠林3158、長谷川)
70－13		6AEC-N・G　(苅干、佐藤)
70－14		6ABL-R (中垣内459、北岡)
70－15		6AFD-A (西前沖2644-1、山本)
70－16		6ACB-A他 (町道塚山線拡幅)
71		6ABE　(古里501、他)
72－1		6ABE　(古里500、他)
72－2		6ABF　(古里523、他)
72－3		6ABF　(古里551-2、他)
72－4		6ABF　(古里528-1、他)
73		6AFF-B・C・E・G (西加座2663-5、他)
74－1		6ABF　(古里523、他)
74－2		6ABF　(古里522、他)
74－3		6ABE・F　(古里524、他)
74－4		6ABE　(古里548-1、他)
74－5		6ABE　(古里543、他)
75		6AGF-C (西加座2702、他)
76－1	63	6ADB-A～D (町道塚山線拡幅)
76－2		6ADE-F・G (篠林3158、長谷川)
76－3		6ABE　(古里554、明和町)
76－4		6ACK　(東裏354-13、山際)
76－5		6AEE-W (楽殿577、岡田)

次　数	年度	調　査　地　区
76－6	63	6ACB-A (塚山3276-1、今西))
76－7		6ACM-M (広頭3385-2、斎宮小)
76－8		6AFM-G (鍛冶山2736-3、近鉄)
76－9		6ACQ　(南裏144-1、田所)
76－10		6ABD-U (古里579、池田建設)
76－11		6ABE　(古里554、明和町)
76－12		6AEE　(楽殿、町道下水管)
76－13		6ADD-K (篠林3143、中西)
76－14		6AEE-S (楽殿2878-3、山路)
76－15		6ABF～6ABH (中垣内、県道拡幅)
76－16		6AEK-B (下園2936-2、明和町)
76－17		6AEV-A (鈴池339-5、永島)
77		6AGJ-D (東加座2453、他)
78		6ADL　(宮ノ前3054、他)
79		6AGG-A・B (東加座2440、他)
80		6AFG-F～I (西加座2696、他)
81－1	H1	6AEC～F　(町道塚山線拡幅)
81－2		6ABJ、6ABK (古里、県道拡幅)
81－3		6ADS-M (木葉山137、中川)
81－4		6AED-L (楽殿2881-2、山本)
81－5		6AFQ-C (中西597-2、木戸口)
81－6		6ADD-F (篠林313、池田)
81－7		6ABL-U (中垣内430-7、川本)
81－8		6ABJ (古里、明和町)
81－9		6ACF (中垣内、三重県)
81－10		6ADR-V (木葉山297、明和町)
81－11		6ACM-N (広頭3385-2、明和町)
81－12		6AED-A (篠林3225、中川)
81－13		6ACB (塚山3276-19他、明和町)
81－14		6AED-F (楽殿2844-2、澄野)
81－15		6AED-U (楽殿2885-2、西山)
81－16		6AG　(北野3655-1他)
82－1		6ADI-F～J(上園3095他)
82－2		6ADI- K ・L(上園3100他)
83		6AFJ-C～F(西加座2770-3他)
84－1		6AFJ-G (西加座2764-3)
84－2		6AFH-G・H (西加座2679-1他)
85－1	2	6ABD～6ACD (古里、三重県)
85－2		6ACA-P　(古里3279、松本)
85－3		6ACJ-B・D (東裏、明和町)
85－4		6ABE　(竹川573-1、永納)
85－5		6AED-U (楽殿2885-2、西山)
85－6		6AFH-B (西加座、明和町)
85－7		6ACB-C (塚山3276-3他、加藤)
85－8		6ABI-N (中垣内427-1、小林)
86		6AFH-F・G・H (西加座2679-1、他)
87		6ACE-N　(塚山3356、他)
88		6AGN-C・D(鍛冶山2411-1、他)
89－1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄斎宮駅)
89－2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)
89－3		6ADM-N・O(内山3060-4、近鉄斎宮駅)
90		6AFH-A・B(西加座2680、他)
91		6ABH-F (中垣内393、他)
92		6AGN-A (鍛冶山2734-3)

次　数	年度	調　査　地　区
93	3	6ADN　(内山3045-12、他)
94		6AEM　(御館2942)
95	4	6ADN　(内山3046-17、他)
96-1		6AGM　(東加座2374、丸山)
96-2		6ADO　(内山3068-3他、明和町)
96-3		6ACA-D (古里3260、清水)
96-4		6AFN　(中西2749-1、本山)
96-5		6ADR-T (木葉山28-3、加藤)
96-6		6ADD-D (篠林3138-1、藤井)
97		6AEM　(中垣内482、他)
98		6AFM-C・E(鍛冶山2475、他)
99	5	6ADN　(内山3046-11、他)
100		6ABI-T (中垣内423)
101		6ADG　(篠林3194)
102-1		6ADS　(木葉山119-5、澄野)
102-2		6AED-J (楽殿2882-5、杉本)
102-3		6AAQ　(花園663-1、中川)
102-4		6ACF-A (東裏365-1、樋口)
102-5		6ABJ-D (中垣内493-6、川口)
102-6		6AG　(鍛冶山地内、明和町)
102-7		6ACG-E (東裏318-1、川本)
102-8		6AE　(楽殿地内、明和町)
103		6AEQ-A (柳原2779-3)
104		6AGT　(笛川1048-1、他)
105	6	6AFN　(鍛冶山2758-1、他)
106-1		6AEW-J (鈴池338-1、森西)
106-2		6AEE-W (楽殿2891-3、向井)
106-3		6AFL他 (鍛冶山地内、明和町)
106-4		6AEC-L (苅干2861、坂本)
106-5		6AGO　(鍛冶山2362、青山)
106-6		6ACC-B (塚山3340-4、田畑)
107		6ABI-O (中垣内414-1、他)
108		6AEQ-C (柳原2779-2、他
109	7	6AFL-D　(鍛冶山2763-1、他)
110-1		6ACM-J(東裏262-3、斎宮土地改良区)
110-2		6AGR-O (笛川2345-3、竹内)
111-1		6ADM　(内山地内)
111-2		6ADK　(上園地内)
111-3		6ACB-B (塚山3276-15、他)
112		6AFL-D　(鍛冶山2763-1、他)
113-1	8	6ACI　(広頭地内)
113-2		6ACI　(広頭地内)
114		6AEQ-E・F(柳原地内)
115-1		6ADK・DL(上園・宮ノ前地内)
115-2		6ADK　(上園地内)
116-1		6ADG　(篠林地内、他)
116=2		6ADM-A (内山)
116-3		6ADI-Q (宮ノ前地内)
116-4		6ADI-M・N(上園地内)
116-5		6ADI　(上園・篠林地内)
116-6		6ADH　(篠林地内)

次　数	年度	調　査　地　区
117-1	8	6AEF　(楽殿2984-4)
117-2		6ADF-A・B(篠林3155-1、他)
117-3		6ABJ　(中垣内地内)
117-4		6ADP　(牛葉地内)
117-5		6AFC-M (北野3553-1、他)
117-6		6ACM-B (東裏266-6)
118	9	6ADN　(内山地内)
119		6AFM-E・G　(鍛冶山西地内)
120		6AFI-C・E 、6AFG-R (西加座地内)
121		6AJB他 (宮ノ前地区、他)
22		6AFN　(鍛冶山地内)
123-1		6AFQ-A (中西地内)
123=2		6AFN他 (中西・笹川地内)
123-3		6ADP-F～H・L　(牛葉地内)
123-4		6ADQ-A～C　(牛葉地内)
123-5		6AEE　(刈干地内)
123-6		6ACC-I (塚山地内)
124	１０	6AFM-B・E・G (鍛冶山地内)
126		6AGU (中西)
125-1		6ACC-I (塚山地内)
125-2		6AES他 (斎宮・竹川地内)
125-3		6ADD-R (篠林地内)
125-4		6ACN (広頭)
127	１１	6ADK-H,I (上園3113、他)
128-1		6ADP (鍛冶山2737-1)
128-2		6ACA-W (古里3270-4)
128-3		6AEW-A・C・M (鈴池地内、明和町)
128-4		6ACK (東裏地内、明和町)
128-5		6AEP (御館2975-1他、明和町)
128-6		6ADN (内山地内、明和町)
128-7		6AAQ (花園地内、明和町)
128-8		6AEC-M (苅干地内、斎王公民館)
128-9		6ACS-G (牛葉96-8、浄化槽)
128-10		6AFE-F (斎宮2632-1)
129		6AEU (御館2969-1他)
130	１２	6AFG (西加座地内)
131-1		6AAO (竹川741)
131-2		6ACQ (東裏282-1・明和町)
131-3		6AEU (牛葉571)
131-4		6AFJ-A (西加座2773-1)
131-5		6AGD-I (東前沖2494-2)
131-6		6AFC-M (東前沖2505-2・盛土)
131-7		6ACO-F (牛葉3397-2)
131-8		6AER-J (御館2975-2他)
131-9		6AED-S (篠林3219-3)
131-10		6ACM (広頭地内・明和町)



第16図　斎宮跡地区表示

第17図　斎宮跡方格地割区画名称

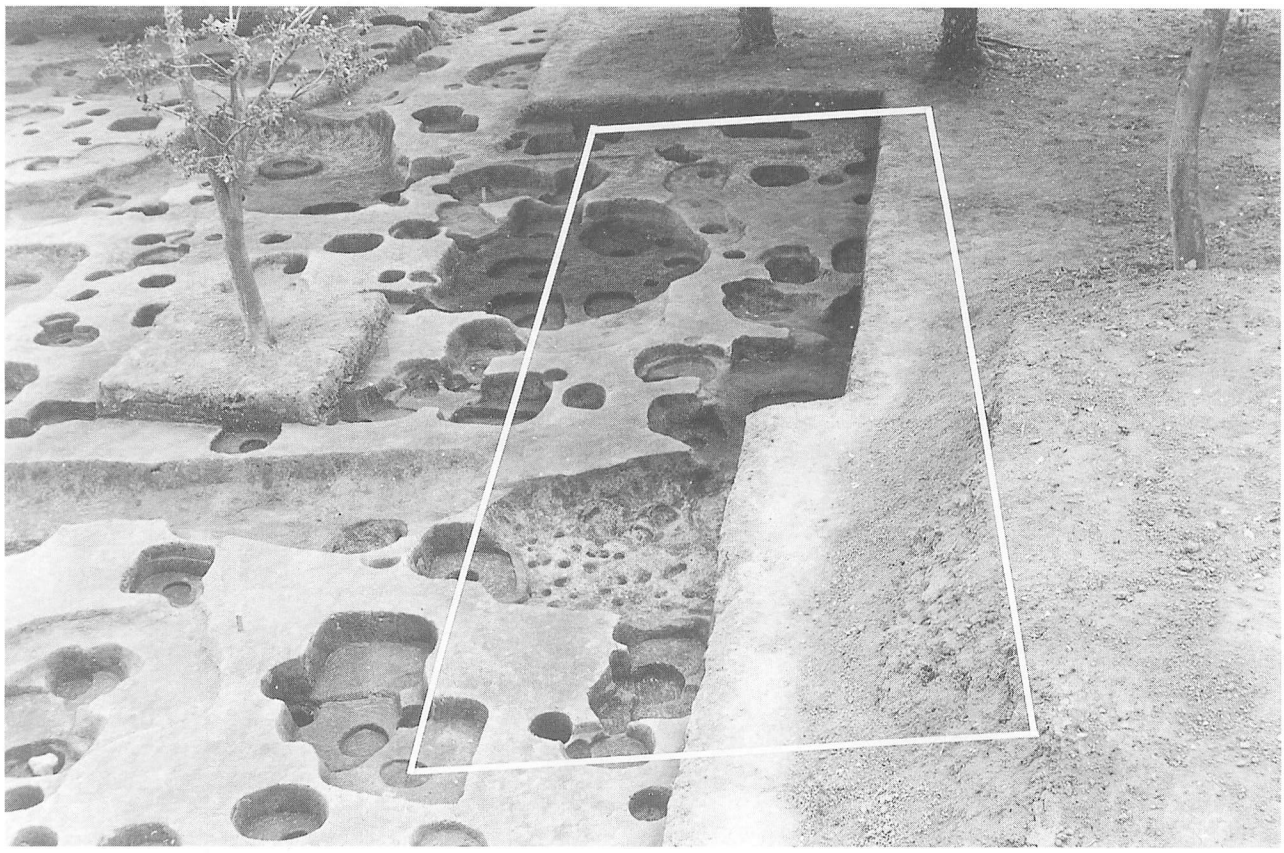
報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと　へいせい12ねんど はっくつちょうさがいほう
書名	史跡斎宮跡　平成１２年度発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	駒田利治・泉雄二・大川勝宏・西村美幸
編集機関	斎宮歴史博物館
所在地	〒５１５-0325　三重県多気郡明和町竹川５０３番地　TEL０５９６－５２－３８００
発行年月日	２００２年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
さいくうあと 斎宮跡 第130次 調査	たきぐんめいわちょうさいくう 多気郡明和町斎宮他 さいくうあざにしかざ 斎宮字西加座	24442	２１０	34°31′55″ ～ 34°32′30″	136°36′16″ ～ 136°37′37″	20000508 ～ 20001115	1,600	計画調査

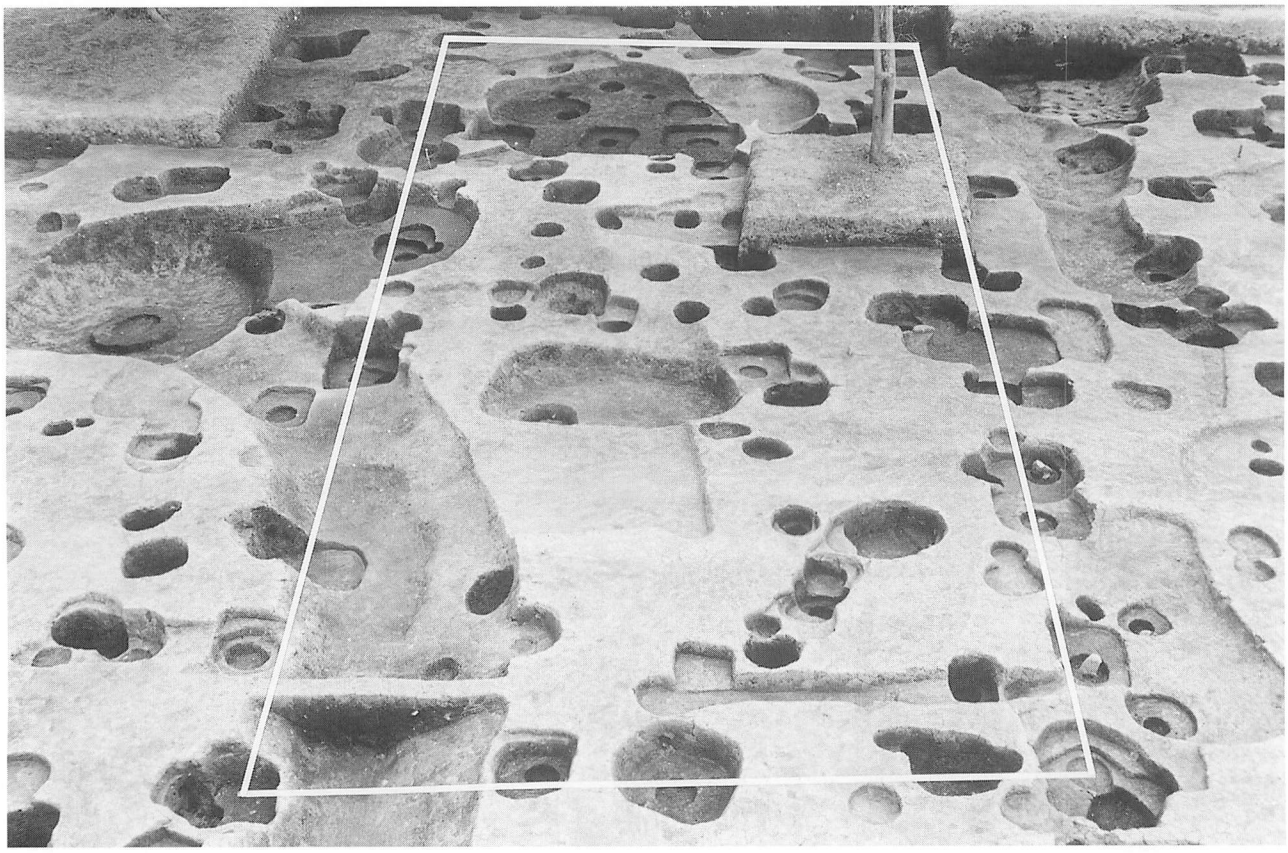
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡 第１３０次 調査	宮殿	古墳時代 奈良後期 ～鎌倉時代	古墳周溝 掘立柱建物・井戸土抗 ・溝	土師器、須恵器、山茶椀 灰釉陶器、緑釉陶器	平安時代の寮庫推定地の 倉庫群

図　　版

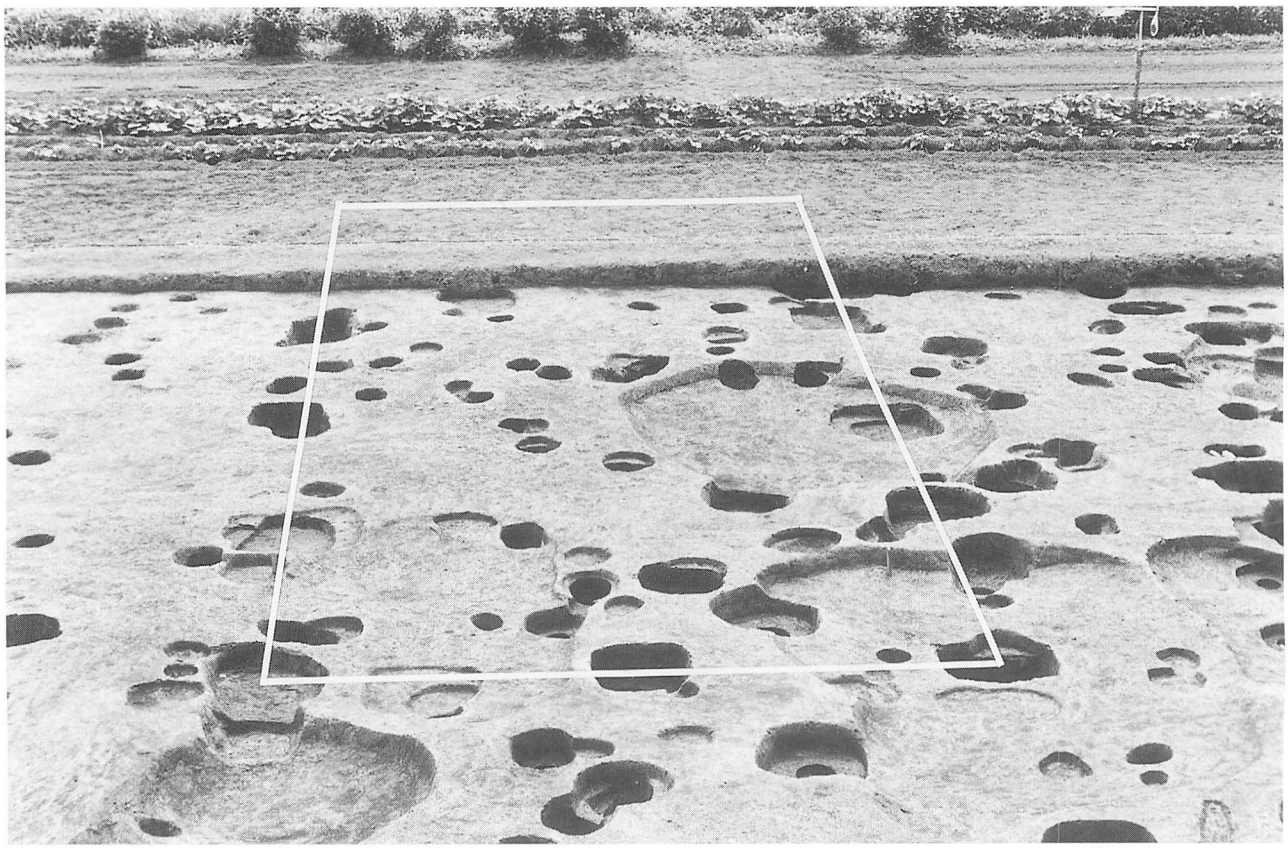


SB8220（北から）

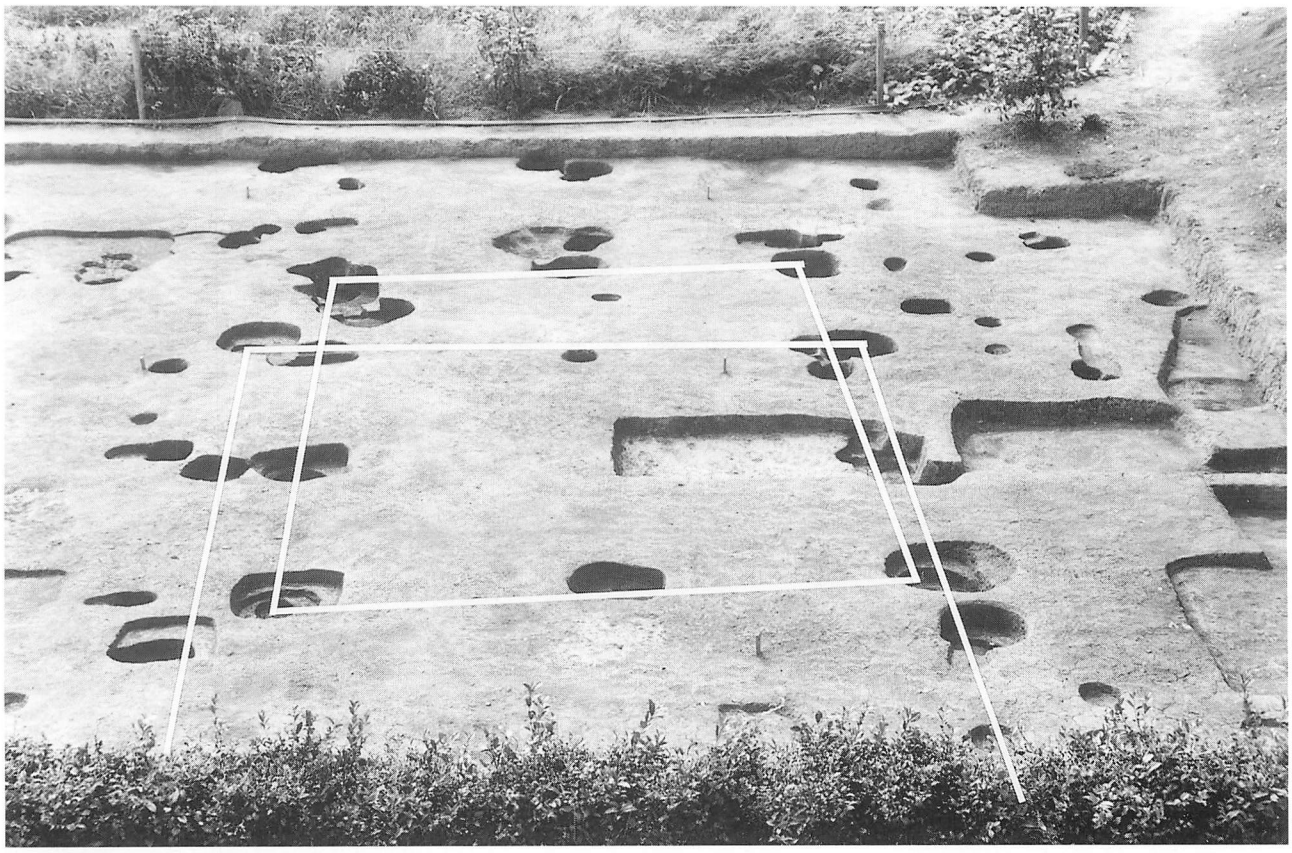
古墳SX5379（北から）



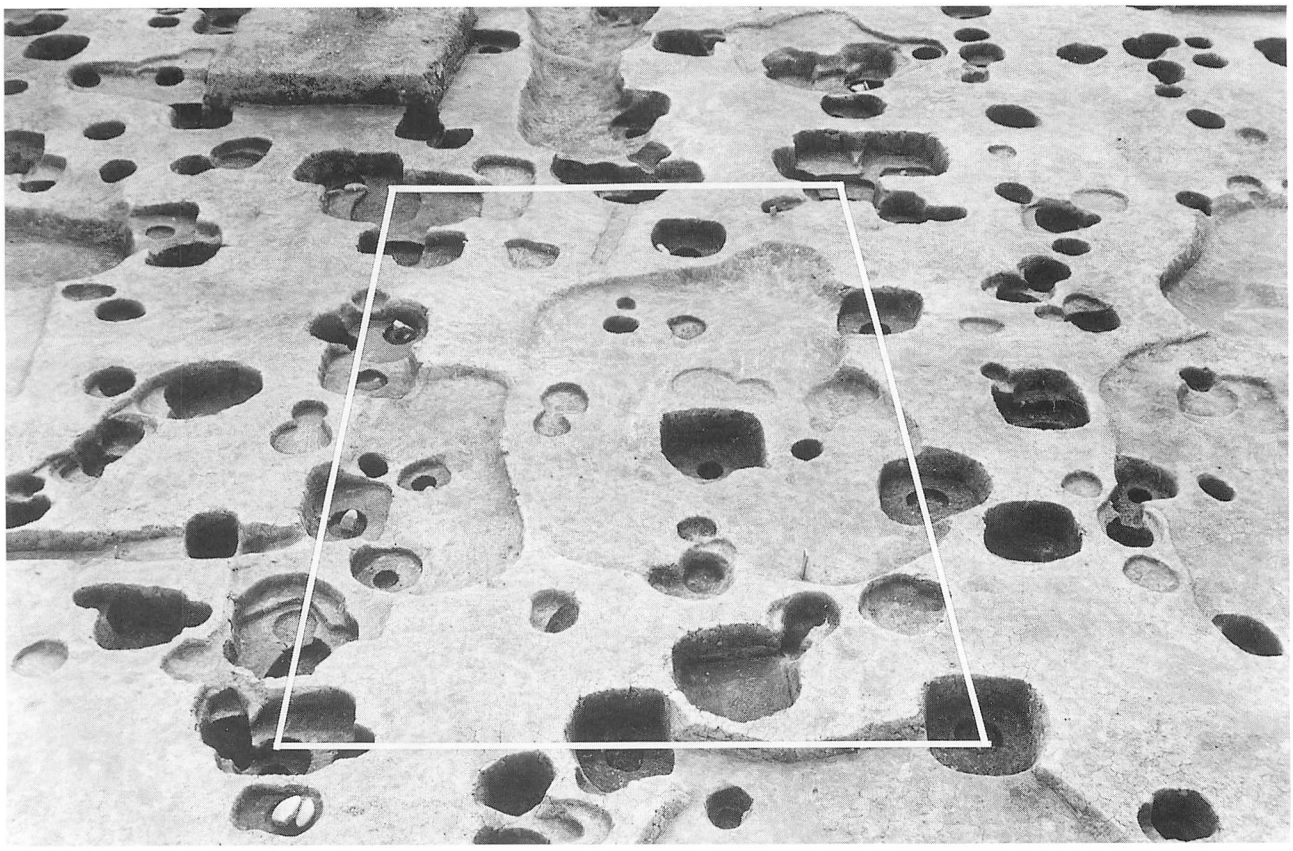
SB8230（東から）



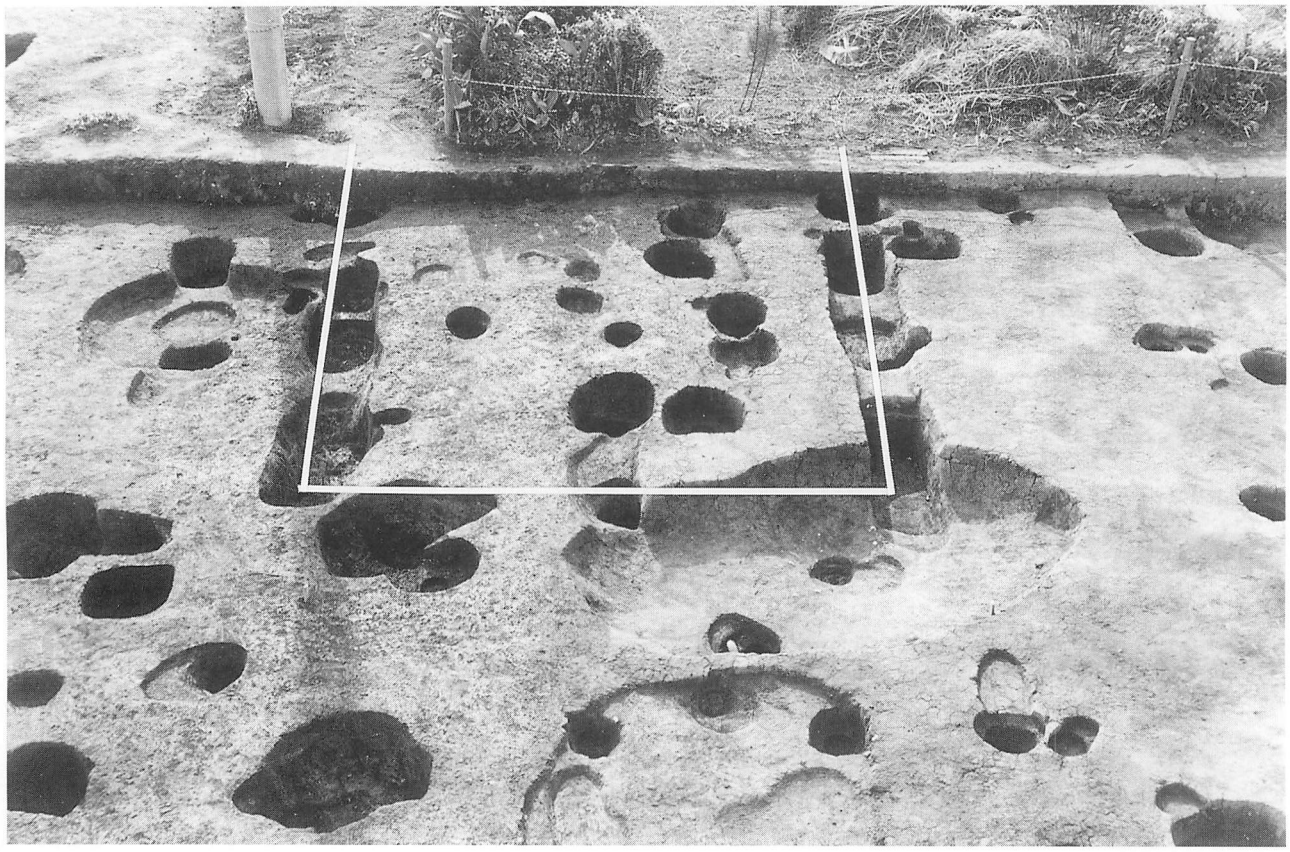
SB5372（西から）



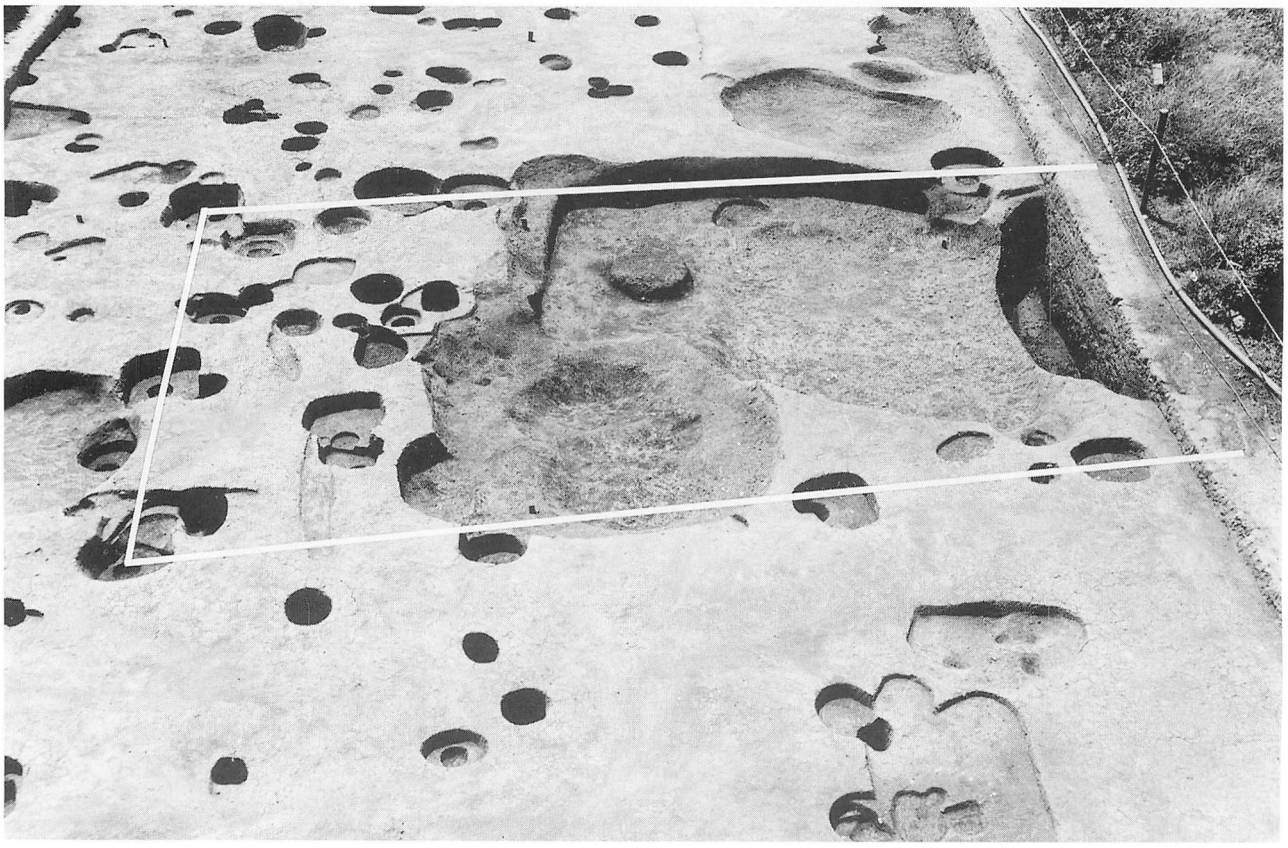
SB2346・8253（東から）



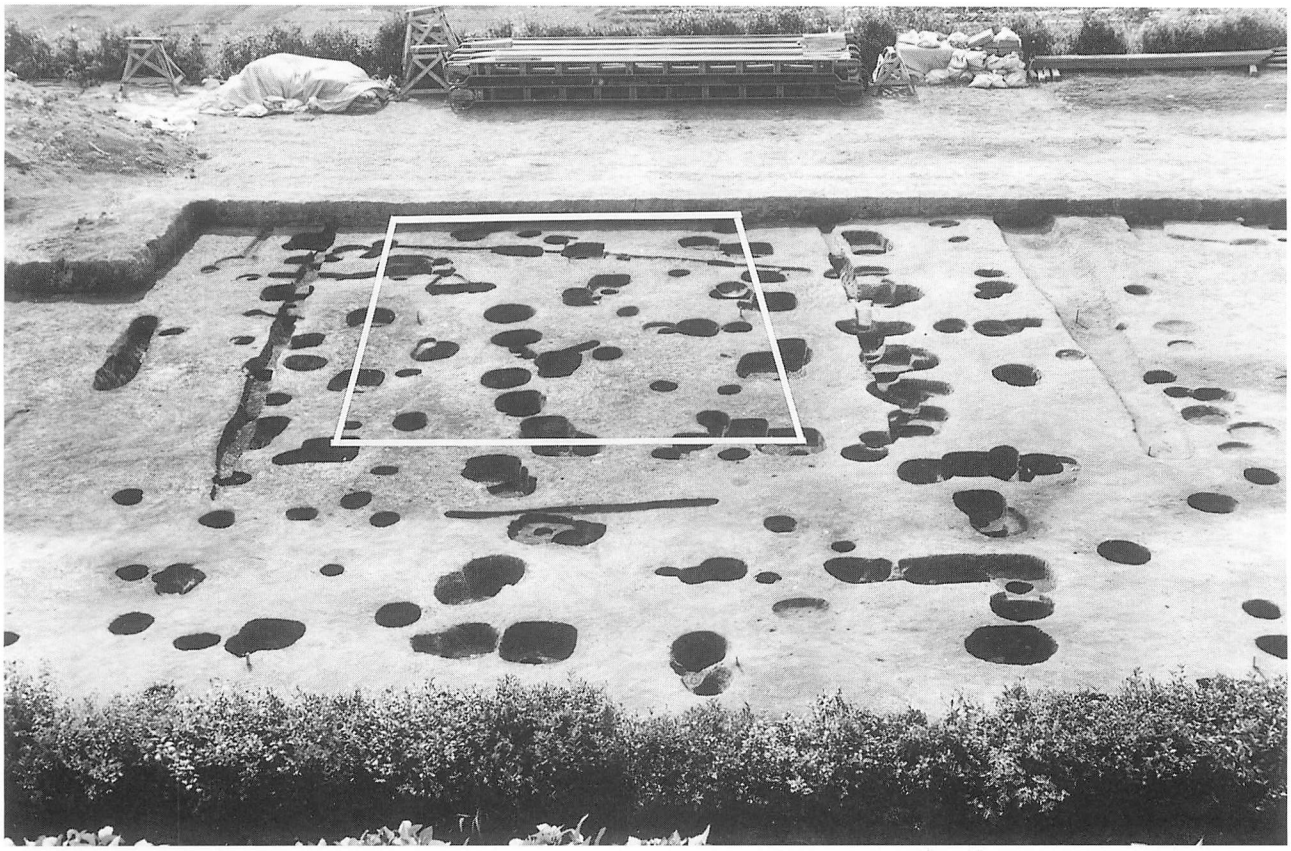
SB8227（東から）



SB8265（東から）



SB8260（北から）



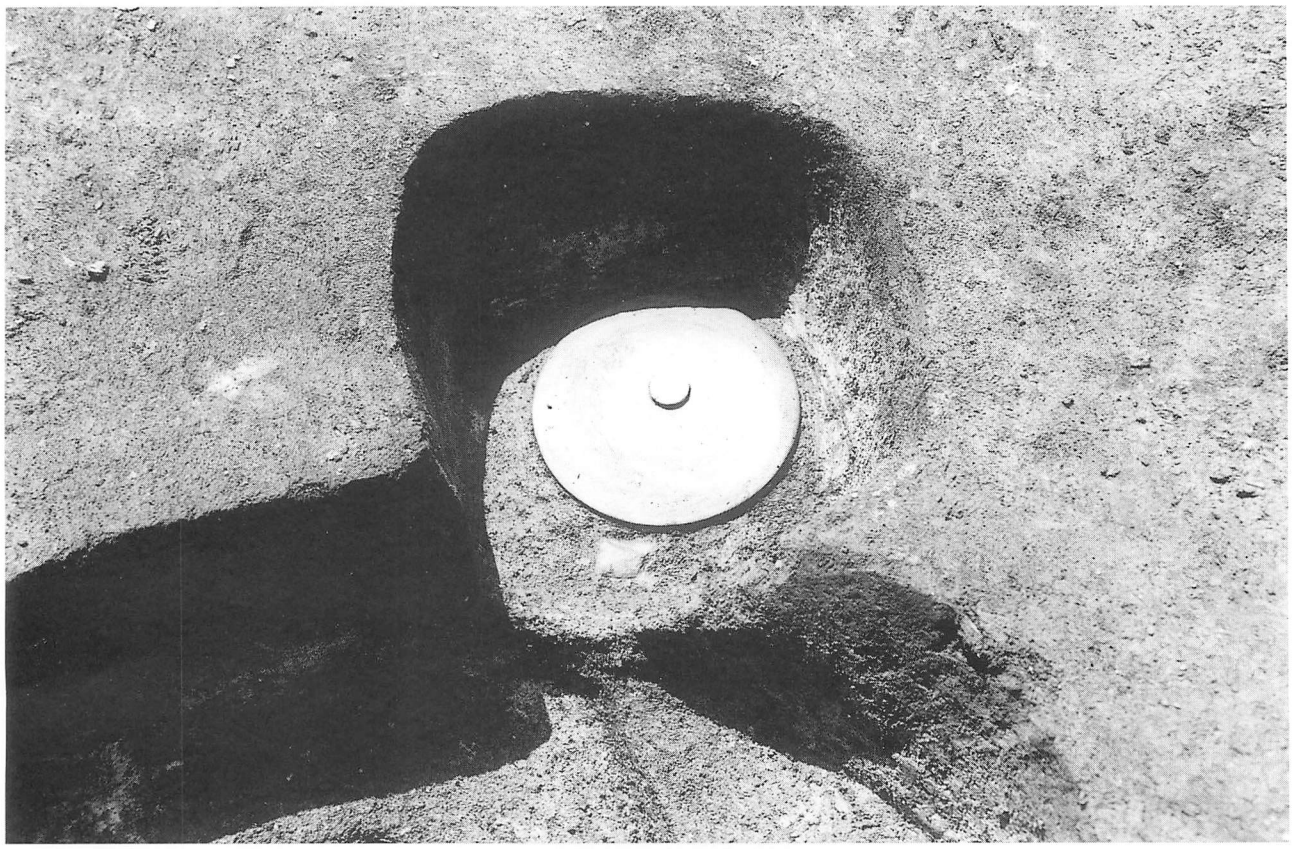
SB8280（東から）

SB2350（東から）

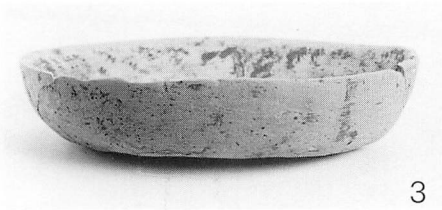
南調査区全景（北から）

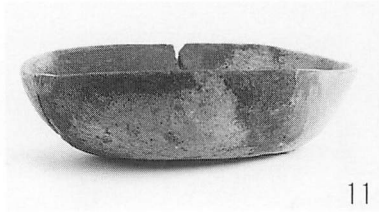
SB8300（東から）

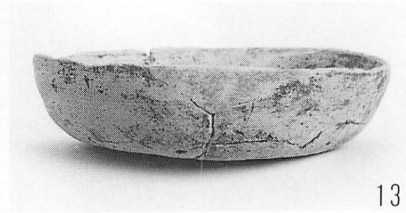
区画溝SD2340（西から）

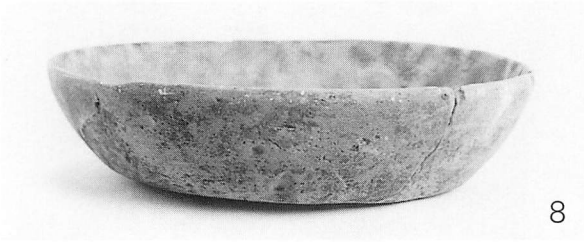


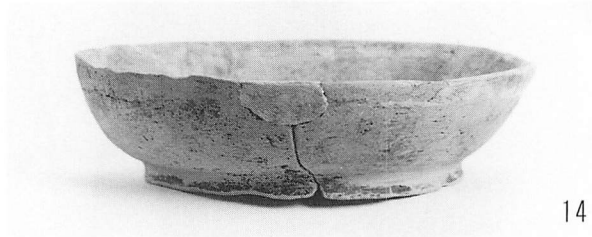
埋納遺構SX8310（東から）

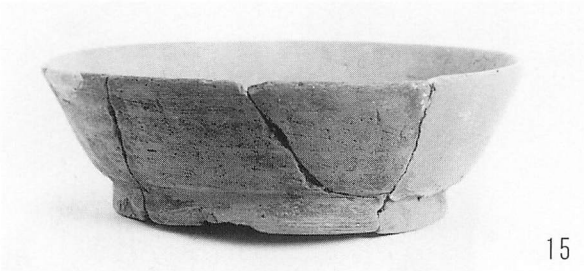

3

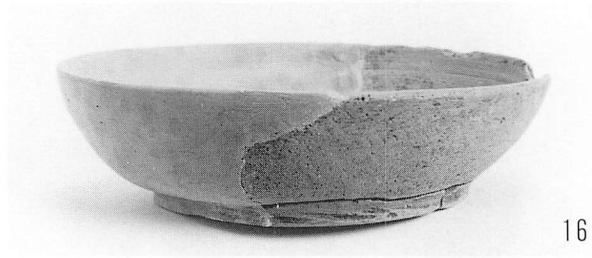

11

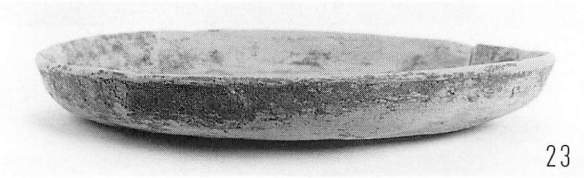

13


8


14


15


16


23

40

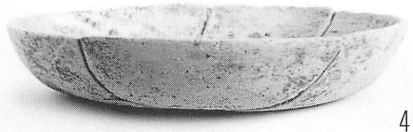
36

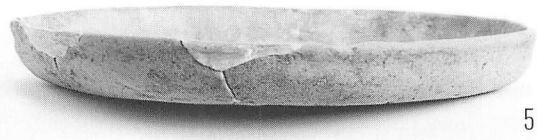
38

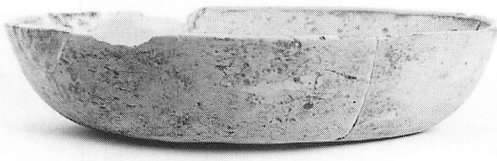
30

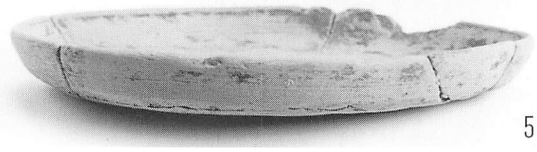
出土遺物　SK8294

SK8299

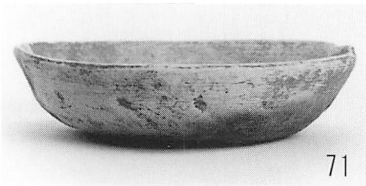

48


52


49

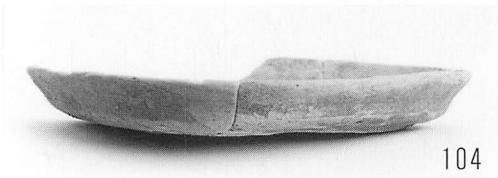

53

SK8255

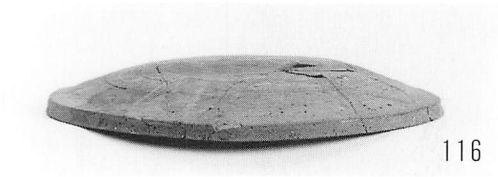

71

73

125


104

120

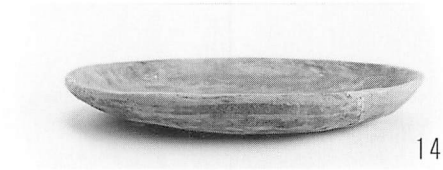

116

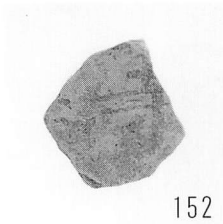
126

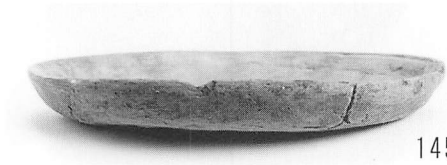
SK8315

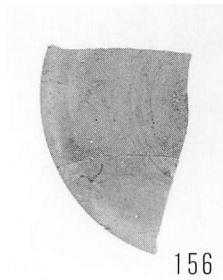
136

140


144


152


145

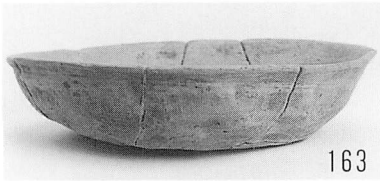

156

154

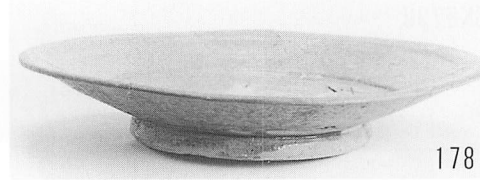
130

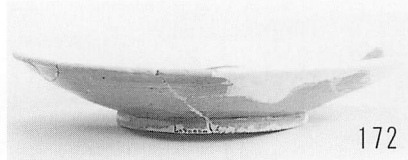
出土遺物　SK8299・8255・8315（120・154は１：２）

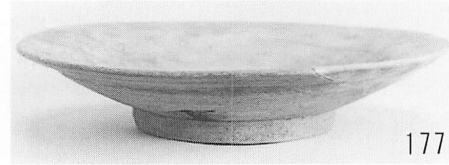
SD2340

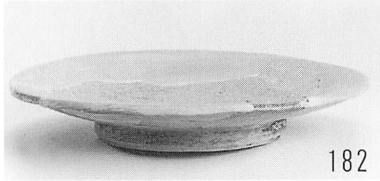

163

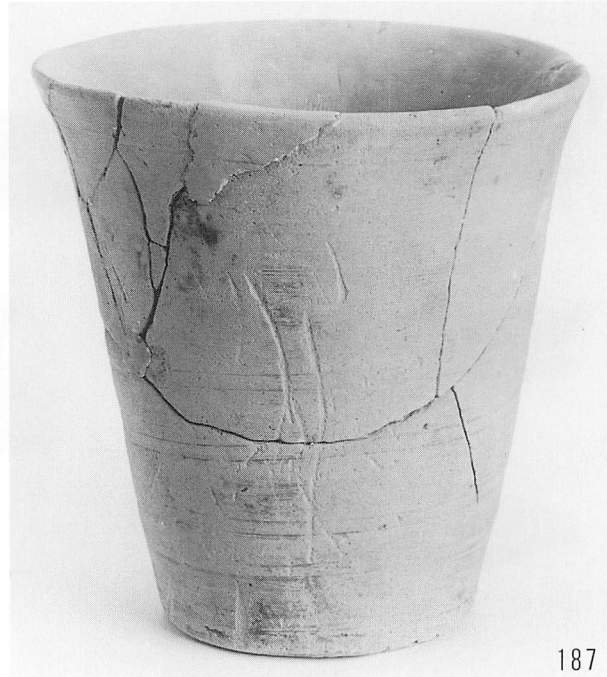
176

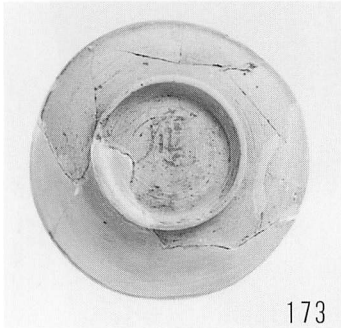

178

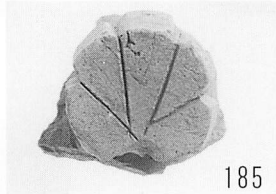

172


177

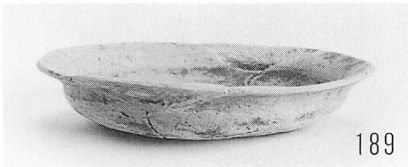

182

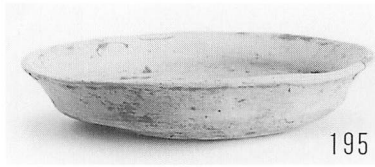

187

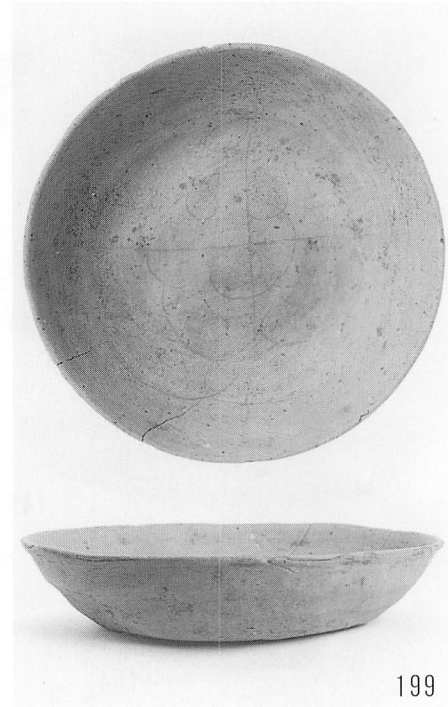

173


185

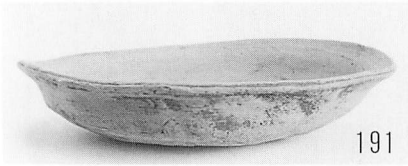
SK8295

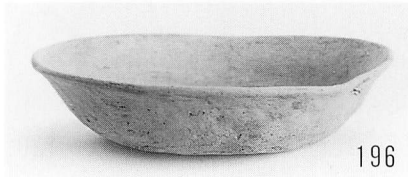

189


195


199

190

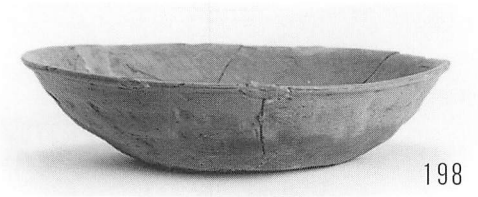

191


196

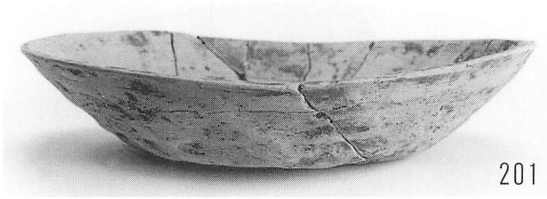
210

出土遺物　SD2340・SK8295（185は１：２）

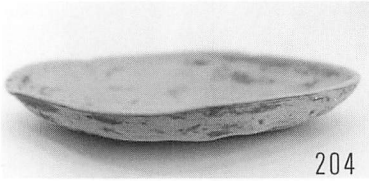
SK8295


198

212


201

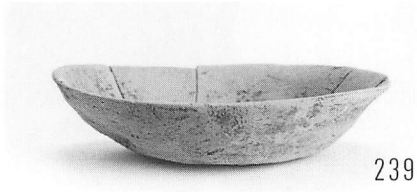
214

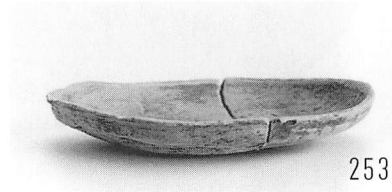

204

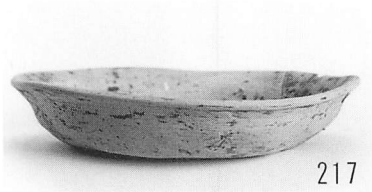
208

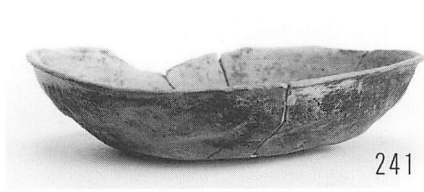
SK8308

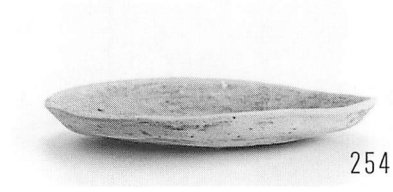
216

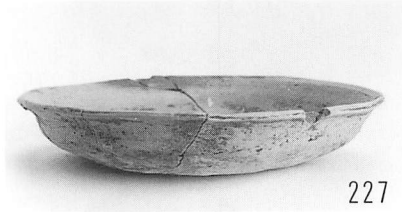

239

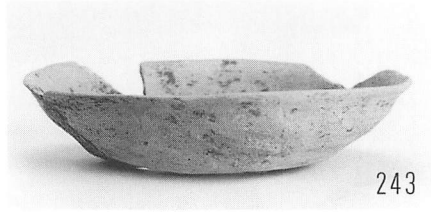

253

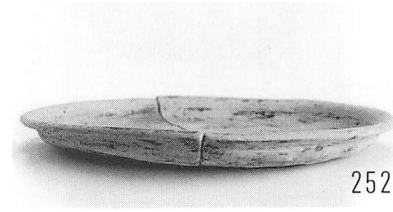

217

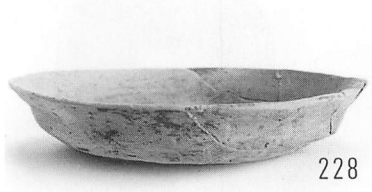

241

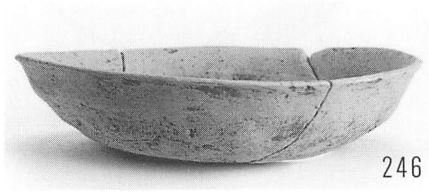

254

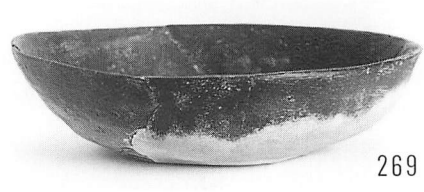

227

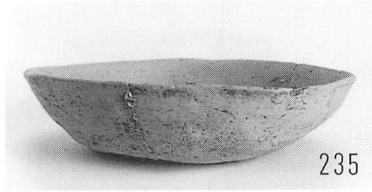

243

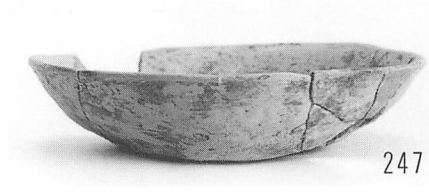

252


228


246


269


235

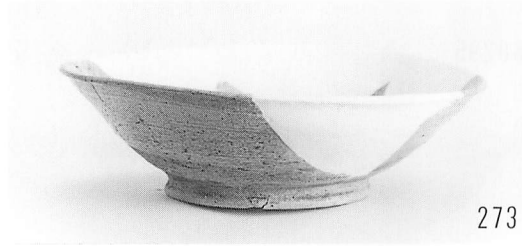

247

271

出土遺物　SK8295・8308

SK8308

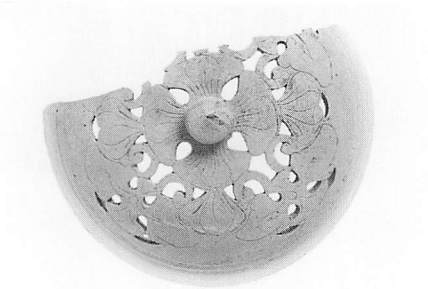
272


273

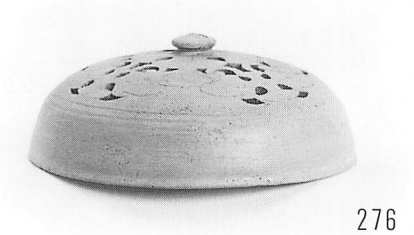
264

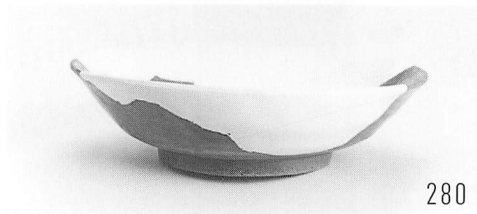
266

その他の遺物


274

275


276


280

277

281

出土遺物　SK8308・その他の遺物（281は１：２）

史 跡 斎 宮 跡

平成12年度

発 掘 調 査 概 報

平成14年3月31日

編集発行　斎宮歴史博物館
印　　刷　光出版印刷株式会社